

長崎大学
原爆後障害医療研究所

年 報

2013 年度

2013 ANNUAL REPORT OF
ATOMIC BOMB DISEASE INSTITUTE,
NAGASAKI UNIVERSITY

目次

1. 所長緒言	1
2. 組織機構	2
3. 原爆後障害医療研究所年度内行事および社会活動	3
4. 原爆後障害医療研究所研究集会・セミナー	4
5. 研究活動概要	5
社会医学部門	
放射線災害医療学研究分野	8
国際保健医療福祉学研究分野	16
健康リスク管理学研究分野	23
放射線生命科学部門	
幹細胞生物学研究分野	26
人類遺伝学研究分野	32
分子医学研究分野	37
原爆・ヒバクシャ医療部門	
血液内科学研究分野	42
腫瘍・診断病理学研究分野	57
アイソトープ診断治療学研究分野	63
資料収集保存・解析部	
生体材料保存室	67
資料調査室	70
6. 人事事項	74
7. 平成25年度原爆後障害医療研究所共同研究一覧	75

所長緒言

創設から50年を迎えた昨年度に長崎大学大学院医歯薬学総合研究科附属原爆後障害療研究施設から長崎大学原爆後障害療研究所（原研）へ改組して1年が経ちました。長崎という被爆地、チェルノブイリ・カザフスタンという旧ソ連邦放射能汚染地域、福島原発事故被災地という3つのフィールドで活動しながら、放射線健康リスク学・ヒバクシャ医療の確立を目指して、社会医学、臨床・病理、基礎研究を3つの柱（部門）がバランスよく教育研究活動を展開しています。長崎・広島における被爆者疫学調査は、世界の放射線安全基準作成の中心的な役割をはたしていますし、チェルノブイリでの疫学調査から放射性ヨウ素による甲状腺癌多発も明らかになりました。このように地道な疫学調査により放射線の人体影響は徐々に明らかとなってきていますが、一方で2011年の福島原発事故は、低線量慢性内部及び外部被ばくに関する評価の科学的基盤の欠如を如実に浮かび上がせました。今後の放射線影響研究では、この低線量被ばく影響研究が重要となってきますし、それは疫学調査のみで明らかにするには限界があります。ここで基礎研究の重要性が増してきます。しかし、動物や細胞を用いた実験結果からどのようにヒトの放射線安全基準・防護基準に結びつけられるか、研究者の知恵の見せ所であり、福島原発事故で失われた国民の科学者・科学技術への信頼をどのようにして取り戻すかと同様、社会に受け入れられる、役に立つ研究に期待が寄せられます。この分野で長崎大原研がどれだけ貢献できるか組織の生き残りに関わる重要問題です。

一方で福島は未だ避難者十数万人と復興には程遠い現状です。帰還者へのきめ細やかな対応が必要です。ここは我々の川内村での取り組みが今後の福島復興・帰還のモデルとなることを期待しています。

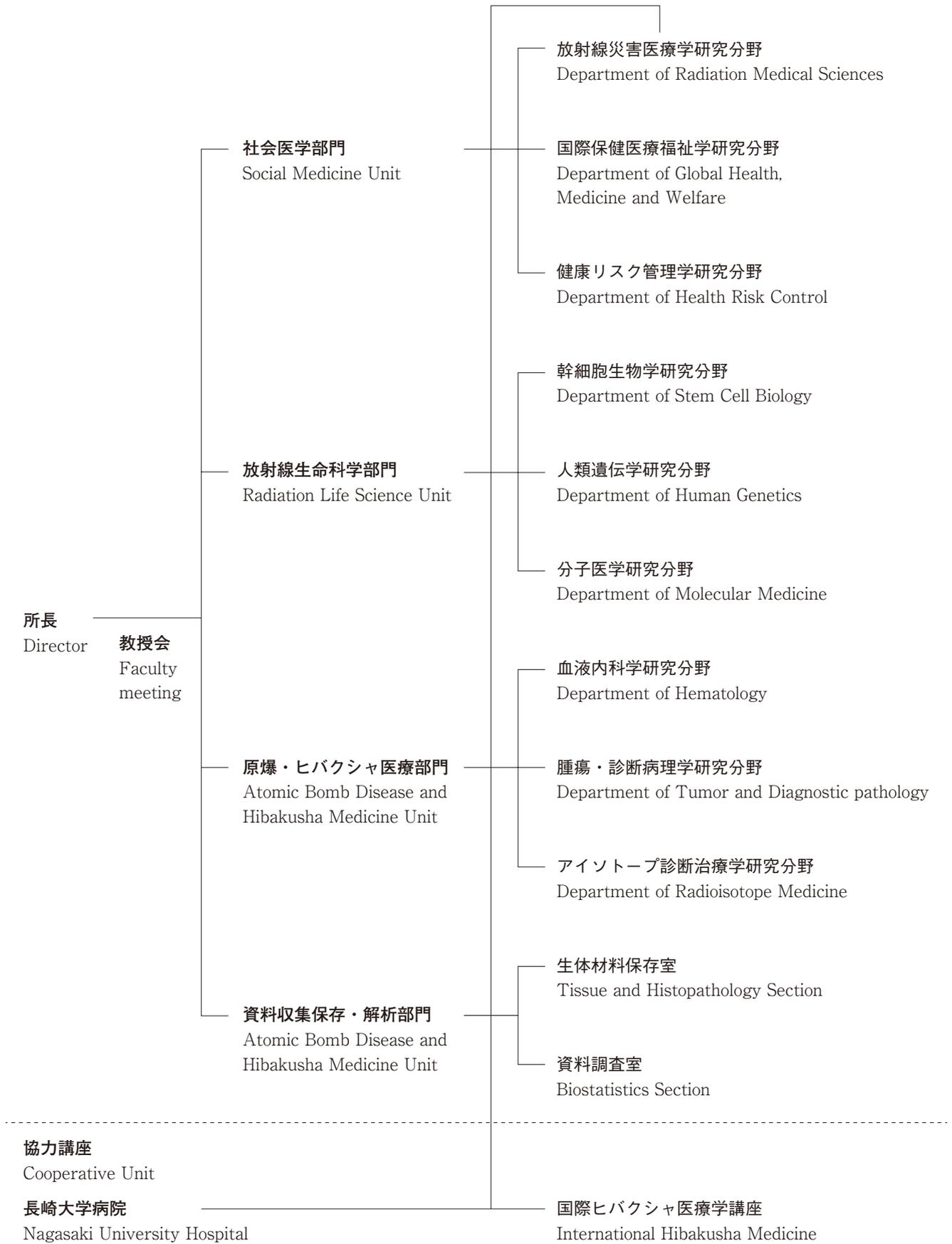
被爆者も高齢化し、特に若年被爆者が癌好発年齢に入り、今後悪性腫瘍の発生が増えてくることが懸念されます。疫学調査を進めながら同時に高齢者・癌患者への臨床的対応が求められます。被爆後70年近く経過しても何故癌化が促進されるのかという放射線影響研究分野での大きな謎は未だ解明されていません。

今後も3つのフィールドを中心とした3つの研究の柱で放射線影響学を推進し、放射線健康リスク学・ヒバクシャ医療を確立していく所存です。ご支援・ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

平成26年5月

長崎大学
原爆後障害医療研究所長
永山雄二

組織機構



原研年度内行事および社会活動

年 月 日	内 容
2013年 4月 1日	原研は放射線研究への社会の高いニーズに応えるべく、平成25年4月1日から長崎大学原爆後障害医療研究所へ改組いたしました。
2013年 4月26日	福島県川内村と長崎大学は包括連携協定を締結しました。
2013年 5月 1日	福島での被ばく医療体制構築等に対して福島県から感謝状が贈呈されました。
2013年 5月31日	林田直美講師が「角尾学術賞」を受賞しました。
2013年 6月 1日	広島大学原爆放射線医科学研究所との連携事業学術報告会を開催しました。
2013年 6月 2日	広島国際会議場で第54回原子爆弾後障害研究会を開催しました。
2013年 7月12日	高村昇教授が台湾の馬英九総統と懇談しました。
2013年 7月30日	長崎・ヒバクシャ医療国際協力会研修生が片峰学長を表敬訪問しました。
2013年 9月13日	放射線影響研究機関協議会第8回運営委員会が長崎大学原研の主催で国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館において開催されました。
2013年10月 5日	大坪竜太（大学院生）が第17回日本内分泌病理学会学術総会「最優秀賞」を受賞しました。
2013年11月28－29日	国際キックオフシンポジウムを開催いたしました。 会場 長崎大学医学部 良順会館ボードインホール
2013年12月23日	朝長万左男名誉教授（原研内科，現日本赤十字社長崎原爆病院長）が医学部創立記念講演会で講演されました。
2013年12月23日	長崎大学病院（原研内科）が骨髄移植推進財団より感謝状を贈呈されました。
2014年 1月 8日	山口裕佳（医学科2年）が第59回日本病理学会秋期特別総会「優秀賞」を受賞しました。
2014年 1月 8日	川内村で「復興子ども教室」が開催されました。
2014年 1月 8日	高村昇教授と折田真紀子保健師が根本匠復興大臣と面談しました。
2014年 2月 7日	五島市で長崎大学予防医科学研究所の開所式が開催されました。
2014年 2月 8日	宮崎泰司教授にカンボジア王国から感謝状が贈られました。
2014年 2月27日	第1回原研説明会・博士課程（医）進学説明会を開催しました。（会場 長崎大学医学部良順会館 1階専斎ホール）
2014年 3月 5日	原研「放射線・環境健康影響共同研究推進センター」開設に際し、原研内外の研究者間でのリスクに関する共同研究テーマに関する会合を開催しました。
2014年 3月 7日	“THYROID CANCER IN UKRAINE AFTER CHERNOBYL” を出版しました。

原研研究集会・セミナー

年 月 日	内 容
2013年 4月14日	第7回原研研究集会・大学院セミナーを開催しました。 講師 原研医療・原研リスク
2013年 5月18日	第8回原研研究集会・大学院セミナーを開催しました。 講師 原研放射・原研病理
2013年 6月20日	第9回原研研究集会・大学院セミナーを開催しました。 講師 原研幹細胞・原研遺伝
2013年 7月19日	第10回原研研究集会・大学院セミナーを開催しました。 講師 原研国際・原研内科
2013年 9月25日	第11回原研研究集会・大学院セミナーを開催しました。 講師 原研分子
2013年10月10日	原研主催セミナー（大学院セミナー） 講師 V.V.Kashcheev, Medical Radiological Research Center, Obninsk, Russia
2013年10月25日	原研主催セミナー（大学院セミナー） 講 師 T.Bogdanova, the Institute of Endocrinology and Metabolism (IEM) of the Academy of Medical Sciences of Ukraine, Kiev, Ukraine
2013年11月18日	原研主催セミナー（大学院セミナー） 講師 Dmitry Bulgin, MD PhD, Polyclinic ME-DENT The Center for Regenerative Medicine, Croatia
2013年12月25日	第12回原研研究集会・大学院セミナーを開催しました。 講師 原研医療・原研リスク
2014年 1月10日	原研主催セミナー（大学院セミナー） 講師 丸山 慧（厚生労働省 健康局 総務課 課長補佐）
2014年 1月22日	第13回原研研究集会（共催: 大学院セミナー・長崎大学NRGIC重点セミナー）を開催しました。 講師 Tom Etheridge（英国サセックス大学Genome Damage and Stability Centre） 伊藤公成（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 分子硬組織生物学, 教授） 三木義男（東京医科歯科大学難治疾患研究所 分子遺伝分野, 教授）
2014年 2月 7日	第14回原研研究集会（共催: 大学院セミナー・長崎大学NRGIC重点セミナー）を開催しました。 講師 Leon Mullenders（オランダ・ライデン大学 毒物遺伝学部門, 教授）
2014年 2月26日	第15回原研研究集会・大学院セミナーを開催しました。 講師 原研病理・原研放射
2014年 2月28日	原研主催セミナー（大学院セミナー） 講師 浦野 健（島根大学医学部 生化学講座 病態生化学, 教授）
2014年 3月12日	第16回原研研究集会・大学院セミナーを開催しました。 講師 柴田龍弘（国立がん研究センターがんゲノミクス研究分野, 分野長）
2014年 3月14日	原研主催セミナー（大学院セミナー） 講師 金澤伸雄（和歌山県立医科大学皮膚科, 講師）
2014年 3月15日	原研主催セミナー（大学院セミナー） 講師 武見敬三（参議院議員・長崎大学客員教授）

研究活動概要

研究業績に関して、掲載事項は、次のとおりとした。

① 論文に関して

番号・著者名：論文名，掲載雑誌名，巻（号），頁 最初－最後（発行年）

A 欧文

- A-a 学術誌に掲載された原著論文
- A-b 学術誌に掲載された総説
- A-c 著書（分担執筆を含む）
- A-d 学内紀要，各省庁等の研究助成金及び研究委託費による研究成果
- A-e-1 学術誌に掲載されたアブストラクト
- A-e-2 プロシーディングス

B 邦文

- B-a 学術誌に掲載された原著論文
- B-b 学術誌に掲載された総説
- B-c 著書（分担執筆を含む）
- B-d 学内紀要，各省庁等の研究助成金及び研究委託費による研究成果
- B-e-1 学術誌に掲載されたアブストラクト
- B-e-2 プロシーディングス

* —— SCI（Science Citation Index）に登録された原著論文及び総説

○ —— 学位論文

☆ —— 動物実験施設を利用していない動物実験に関わる論文

★ —— 動物実験施設を利用した論文

△ —— アイソトープ実験施設を利用した論文

◇ —— 遺伝子実験施設を利用した論文

※Impact factorは2011年版による。

② 学会発表一覧に関して

- A 国際学会
- A-a 招待講演，特別講演，受賞講演
- A-b シンポジウム及び学会での一般講演（ポスターを含む。）
- B 国内の年会，学会
- B-a 招待講演，特別講演，受賞講演
- B-b シンポジウム

社会医学部門

放射線災害医療学研究分野（原研医療）

スタッフ

教授：山下俊一

准教授：鈴木啓司

准教授：光武範吏

助教：松瀬美智子

大学院生：田口恭子，根本 努，森 佳織，Alyaksandr Nikitski，森 圭介，白岩 健，井山慶大

客員教授：秋野公造，大津留晶，柴田義貞，鈴木眞一

客員准教授：熊谷敦史

技能補佐員：横山弘子

事務補佐員：川口泰子，角尾佳子

2013年度研究活動実績

「甲状腺がん研究」

2013年度は、甲状腺刺激ホルモンからのシグナルが、甲状腺癌のゲノム不安定性の亢進・高度悪性化に寄与していることをマウスモデルを用いて明らかにした。また、甲状腺癌の癌幹細胞においてALDH活性やCD326が有用なマーカー候補であることを報告した。さらにSloan-Kettering Cancer Center (NY, USA) との共同研究で、甲状腺癌におけるTERTプロモーターの変異解析を行い、その頻度や他の癌遺伝子との関連についても報告した。

「放射線生物学研究」

2013年度は、低線量率・低線量被ばくマウスより採取した臓器・組織でのDNA損傷蓄積解析研究を推進した。その結果、非照射の状態におけるDNA損傷の発生が組織レベルで可視化され、さらに組織によっては局所的に高度のDNA損傷クラスターが発生していることが確認された。また、線量率の違いによるDNA損傷の残存割合から、従来のDDREF=2をはるかに超える10以上の数値が提示された。さらに、1日あたり50 μ Gy程度の放射線照射では、誘発されたDNA損傷が組織の中に残存しないことが、世界に先駆けて初めて確認された。文部科学省が推進する原子力基礎基盤戦略研究イニシアティブにも採択され、胎児期・小児期被ばくによるDNA損傷蓄積の解析に着手している。共同利用・共同研究において、12課題の国内共同研究の実施を決め、放射線影響研究主要施設との研究連携を強化している。

Research activities in the FY 2013.

[Thyroid cancer research] In the FY 2013, we have reported: 1) thyrotropin signaling confers more aggressive features with higher genomic instability on thyroid cancers in a mouse model. 2) ALDH activity and CD326 are promising candidate as a marker of thyroid cancer stem-like cells. 3) TERT promoter mutations are prevalent in thyroid cancers with certain types of genetic alterations, which was done in collaboration with Sloan-Kettering Cancer Center, NY, USA.

[Radiation biology research] In the FY 2013, we have succeeded in identifying spontaneous DNA damage in various tissues and organs. According to the residual levels of DNA damage after the completion of low-dose-rate exposure, we are able to estimate the DDREF value as 10 or more. Furthermore, we have proven for the first time that DNA damage induced by 50 μ Gy/day is not accumulated in tissues and organs. While these research projects have already supported by MOE, related new research project has just started with the aid of the grant governed by MEXT. In addition, we are now carrying out the cooperative research projects in collaboration with 12 major research facilities in the field of radiation research in Japan.

業績

論文

A 欧文

A-a

1. Hamuy R, Kinoshita N, Yoshimoto H, Hayashida K, Houbara S, Nakashima M, Suzuki K, Mitsutake N, Mussazhanova Z, Kashiyama K, Hirano A, Akita S: One-stage, simultaneous skin grafting with artificial dermis and basic fibroblast growth factor successfully improves elasticity with maturation of scar formation. *Wound Repair Regen* 21(1): 141-154, 2013(IF:2.757) * ★
2. Matsuse M, Mitsutake N, Tanimura S, Ogi T, Nishihara E, Hirokawa M, Fuziwara CS, Saenko VA, Suzuki K, Miyauchi A, Yamashita S: Functional characterization of the novel BRAF complex mutation, BRAF (V600delinsYM), identified in papillary thyroid carcinoma. *Int J Cancer* 132(3): 738-743, 2013(IF:6.198) * ◇
3. Taira Y, Hayashida N, Tsuchiya R, Yamaguchi H, Takahashi J, Kazlovsky A, Urazalin M, Rakhypbekov T, Yamashita S, Takamura N: Vertical Distribution and Estimated Doses from Artificial Radionuclides in Soil Samples around the Chernobyl Nuclear Power Plant and the Semipalatinsk Nuclear Testing Site. *PLoS One* 8(2): e57524, 2013(IF:3.730) *
4. Kashino G, Suzuki K, Kodama S, Watanabe M, Prise KM: Increased susceptibility to delayed genetic effects of low dose X-irradiation in DNA repair deficient cells. *Int J Radiat Biol* 89(4): 295-300, 2013(IF:1.895) *
5. Sekitani Y, Hayashida N, Takahashi J, Kozlovsky AA, Rudnitskiy S, Petrova A, Gutevych OK, Chorniy SA, Yamashita S, Takamura N: Urinary iodine concentrations of pregnant women in Ukraine. *Clin Chem Lab Med* 51(4): 811-816, 2013(IF:3.009) *
6. Zhu Y, Zhao T, Itasaka S, Zeng L, Yeom CJ, Hirota K, Suzuki K, Morinibu A, Shinomiya K, Ou G, Yoshimura M, Hiraoka M, Harada H. Involvement of decreased hypoxia-inducible factor 1 activity and resultant G(1)-S cell cycle transition in radioresistance of perinecrotic tumor cells. *Oncogene* 32(16): 2058-2068, 2013(IF:7.357) *
7. Kashiyama K, Nakazawa Y, Pilz DT, Guo C, Shimada M, Sasaki K, Fawcett H, Wing JF, Lewin SO, Carr L, Li TS, Yoshiura K, Utani A, Hirano A, Yamashita S, Greenblatt D, Nardo T, Stefanini M, McGibbon D, Sarkany R, Fassih H, Takahashi Y, Nagayama Y, Mitsutake N, Lehmann AR, Ogi T: Malfunction of Nuclease ERCC1-XPF Results in Diverse Clinical Manifestations and Causes Cockayne Syndrome, Xeroderma Pigmentosum, and Fanconi Anemia. *Am J Hum Genet* 92(5): 807-819, 2013(IF:11.202) * ◇
8. Matsuda N, Kumagai A, Ohtsuru A, Morita N, Miura M, Yoshida M, Kudo T, Takamura N, Yamashita S: Assessment of Internal Exposure Doses in Fukushima by a Whole Body Counter Within One Month after Nuclear Power Plant Accident. *Radiat Res* 179(6): 663-668, 2013(IF:2.698) *
9. González AJ, Akashi M, Boice Jr JD, Chino M, Homma T, Ishigure N, Kai M, Kusumi S, Lee JK, Menzel HG, Niwa O, Sakai K, Weiss W, Yamashita S, Yonekura Y: Radiological protection issues arising during and after the Fukushima nuclear reactor accident. *J Radiol Prot* 33(3): 497-571, 2013(IF:1.386) *
10. Bychkov A, Saenko V, Nakashima M, Mitsutake N, Rogounovitch T, Nikitski A, Orim F, Yamashita S: Patterns of FOXE1 expression in papillary thyroid carcinoma by immunohistochemistry. *Thyroid* 23(7) 817-828, 2013(IF:3.544) * ◇
11. Taniguchi N, Hayashida N, Shimura H, Okubo N, Asari Y, Nigawara T, Midorikawa S, Kotani K, Nakaji S, Imaizumi M, Ohtsuru A, Akamizu T, Kitaoka M, Suzuki S, Yamashita S, Takamura N, The Investigation Committee for the Proportion of Thyroid Ultrasound Findings. Ultrasonographic thyroid nodular findings in Japanese children. *J Med Ultrasonics* 40(3): 219-224, 2013(IF:0.635) *
12. Yasui K, Shimamura M, Mitsutake N, Nagayama Y: SNAIL Induces Epithelial-to-Mesenchymal Transition and Cancer Stem Cell-like Properties in Aldehyde Dehydrogenase-Negative Thyroid Cancer Cells. *Thyroid* 23(8): 986-996, 2013(IF:3.544) *
13. Yamashita S, Suzuki S: Risk of thyroid cancer after the Fukushima Nuclear Power Plant accident. *Respir Investig* 51(3): 128-133, 2013
14. Morita N, Miura M, Yoshida M, Kumagai A, Ohtsuru A, Usa T, Kudo T, Takamura N, Yamashita S, Matsuda N: Spatiotemporal Characteristics of Internal Radiation Exposure in Evacuees and First Responders after the Radiological Accident in Fukushima. *Radiat Res* 180(3): 299-306, 2013(IF:2.698) *
15. Landa I, Ganly I, Chan TA, Mitsutake N, Matsuse M, Ibrahimasic T, Ghossein RA, Fagin JA: Frequent Somatic TERT

Promoter Mutations in Thyroid Cancer: Higher Prevalence in Advanced Forms of the Disease. *J Clin Endocrinol Metab* 98(9): E1562-1566, 2013(IF:6.430) * ◇

16. Mussazhanova Z, Matsuda K, Naruke Y, Mitsutake N, Stanojevic B, Rogounovitch T, Saenko V, Suzuki K, Nishihara E, Hirokawa M, Ito M, Nakashima M: Significance of p53-binding protein 1 (53BP1) expression in thyroid papillary microcarcinoma: association with BRAF(V) (600E) mutation status. *Histopathology* 63(5): 726-734, 2013(IF:2.857) * ◇
17. Shimamura M, Nakahara M, Orim F, Kurashige T, Mitsutake N, Nakashima M, Kondo S, Yamada M, Taguchi R, Kimura S, Nagayama Y: Postnatal Expression of BRAFV600E Does Not Induce Thyroid Cancer in Mouse Models of Thyroid Papillary Carcinoma. *Endocrinology* 154(11): 4423-4430, 2013(IF:4.717) * ★
18. Hayashida N, Imaizumi M, Shimura H, Okubo N, Asari Y, Nigawara T, Midorikawa S, Kotani K, Nakaji S, Otsuru A, Akamizu T, Kitaoka M, Suzuki S, Taniguchi N, Yamashita S, Takamura N, for the Investigation Committee for the Proportion of Thyroid Ultrasound Findings: Thyroid ultrasound findings in children from three Japanese prefectures: Aomori, Yamanashi and Nagasaki. *PLoS One* 8(12): e83220, 2013(IF:3.730) *

A-c

1. Parshin V, Yamashita S, Tsyb A: *Ultrasound Diagnosis of Thyroid Diseases in Russia*. (Seibusha Nagasaki, 147 pages), 2013

A-e-1

1. Saenko V, Takahashi M, Rogounovitch TI, Akulevich NM, Drozd VM, Danilova LI, Lushchik ML, Demidchik YE, Bogdanova TI, Tronko MD, Mitsutake N, Takamura N, Matsuda F, Yamashita S: Molecular epidemiology study of Chernobyl thyroid cancer from Belarus and Ukraine. *European Thyroid Journal* 2(suppl 1): 138, 2013
2. Rogounovitch TI, Saenko VA, Bychkov A, Nikitski AV, Takahashi M, Nakashima M, Hayashi T, Hirokawa M, Miyauchi A, Shigematsu K, Mitsutake N, Matsuda F, Yamashita S: Rare allele of rs944289 (NKX2-1(TTF1)) associated with increasing risk of both malignant (PTC) and benign (FA) tumors in Japanese population. *European Thyroid Journal* 2(suppl 1): 182, 2013

B 邦文

B-b

1. 今泉美彩, 山下俊一: 放射線被曝と甲状腺機能異常症. *Current Therapy* 31 (1) :92, 2013
2. 光武範吏: 甲状腺がん分子機構. *最新医学* 68 (9) :18-24, 2013
3. 山下俊一: 福島原発事故と甲状腺疾患. *内科臨床誌Medicina* 50 (10) :1844-1847, 2013

B-e-2

1. 鈴木啓司, 山下俊一: 低線量放射線被ばくによるDNA損傷の誘発とクラスター損傷の関与. 第54回原子爆弾後障害研究会抄録, 16, 2013
2. 鈴木啓司: 放射線被ばくにより生成されたクラスター損傷の生物学的意義. 第54回原子爆弾後障害研究会抄録, 28, 2013

学会発表

A 欧文

A-a

1. 19th International Charles Heidelberger Symposium on Cancer Research特別講演 山下俊一・教授 2013年2月16日 日本
2. 19th International Charles Heidelberger Symposium on Cancer Research招待講演 山下俊一・教授 2013年2月16日 日本
3. International Workshop on Biological Effects of Low-dose Radiation 鈴木啓司・准教授 2013年10月21日 日本

A-b

1. 3rd International symposium on Biological Effects of Low-dose Radiation 鈴木啓司・准教授 2013年2月12-13日 日本
2. AT-Workshop 鈴木啓司・准教授 2013年7月28-31日 英国

B 邦文

B-a

1. 第22回臨床代謝内分泌Update招待講演 山下俊一・教授 2013年1月19日 埼玉
2. NASHIM創立20周年及び原研創設50周年記念合同シンポジウム招待講演 山下俊一・教授 2013年2月9日 長崎
3. 第99回日本消化器病学会総会特別講演 山下俊一・教授 2013年3月3日 鹿児島
4. 第113回日本外科学会定期学術集会招請講演 山下俊一・教授 2013年4月12日 福岡
5. 第30回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会招待講演 山下俊一・教授 2013年4月21日 福島
6. 日本放射線腫瘍学会小線源治療部会第15回学術大会 鈴木啓司・准教授 2013年5月17-18日 福岡
7. 第49回日本小児放射線学会学術集会特別講演 山下俊一・教授 2013年6月21日 山口
8. 第31回内分泌代謝学サマーセミナー特別講演 山下俊一・教授 2013年7月11日 大分
9. 第14回日本検査血液学会学術集会特別講演 山下俊一・教授 2013年7月27日 東京
10. 第72回日本癌学会学術総会 鈴木啓司・准教授 2013年10月5日 神奈川
11. 第54回日本熱帯医学会大会「熱帯医学からグローバルヘルスへ」(シンポジウム7地球規模課題と危機管理)招待講演 山下俊一・教授 2013年10月5日 長崎
12. 日本放射線腫瘍学会第26回学術大会(シンポジウム3「被ばく医療への今後の対応」)招待講演 山下俊一・教授 2013年10月18日 青森
13. 日本放射線影響学会第56回大会 鈴木啓司・准教授 2013年10月18-20日 青森
14. 第52回日本臨床細胞学会秋期大会ワークショップ 光武範吏・准教授 2013年11月2日 大阪
15. 第62回日本農村医学会学術総会教育講演 山下俊一・教授 2013年11月7日 福島
16. 第1回生存科学シンポジウム「21世紀の生存科学を考える」 山下俊一・教授 2013年12月14日 東京

B-b

1. 茨城大学推進研究プロジェクト公開シンポジウム 鈴木啓司・准教授 2013年3月3日 茨城

論文数一覧

	A-a	A-b	A-c	A-d	A-e	合計	SCI	B-a	B-b	B-c	B-d	B-e	合計	総計
2013	18	0	1	0	2	21	17	0	3	0	0	2	5	26

学会発表数一覧

	A-a	A-b		合計	B-a	B-b		合計	総計
		シンポジウム	学会			シンポジウム	学会		
2013	3	2	0	5	16	1	3	20	25

論文総数に係る教員生産係数一覧

	欧文論文総数 論文総数	教員生産係数 (欧文論文)	SCI掲載論文数 欧文論文総数	教員生産係数 (SCI掲載論文)
2013	0.808	5.25	0.81	4.25

Impact factor 値一覧

	Impact factor	教員当たり Impact factor	論文当たり Impact factor
2013	68.387	17.097	4.023

教育活動

氏名・職	職(担当科目)	関係機関名
鈴木啓司・准教授	先進医学と現代社会 I (遺伝子と生命)(全学モジュール)	長崎大学
鈴木啓司・准教授	医学部医学科(環境因子系)	長崎大学医学部

5. 研究活動概要－社会医学部門

氏名・職	職（担当科目）	関係機関名
鈴木啓司・准教授	リサーチセミナー	長崎大学医学部
光武範吏・准教授	先進医学と現代社会I（遺伝子と生命）（全学モジュール）	長崎大学
光武範吏・准教授	リサーチセミナー	長崎大学医学部
鈴木啓司・准教授	非常勤講師（放射線医学）	九州大学
鈴木啓司・准教授	非常勤講師（放射線生物学）	京都大学

社会活動

氏名・職	委員会等名	関係機関名
山下俊一・教授	副学長・理事長付特命教授	福島県立医科大学
山下俊一・教授	理事長（11月まで）	日本甲状腺学会
山下俊一・教授	監事	日本内分泌学会
山下俊一・教授	学会誌「THYROID」編集委員	アメリカ甲状腺学会
山下俊一・教授	学会誌「EUROPEAN THYROID JOURNAL」編集委員	ヨーロッパ甲状腺学会
山下俊一・教授	理事	アジア大洋州甲状腺学会
山下俊一・教授	学術顧問	臨床雑誌「内科」（南江堂）
山下俊一・教授	放射線医学県民健康管理センター副センター長	福島県立医科大学
山下俊一・教授	放射線健康リスク管理アドバイザー	福島県
山下俊一・教授	会員	日本学会議
山下俊一・教授	放射線誘発甲状腺疾患と放射線障害における外科治療に関するWHO協力センター・センター長	世界保健機関
山下俊一・教授	WHO西太平洋地区甲状腺研究協力センター代表	世界保健機関
山下俊一・教授	WHOチェルノブイリ医療プロジェクト専門アドバイザー	世界保健機関
山下俊一・教授	評議員	笹川記念保健協力財団
山下俊一・教授	理事	BHNテレコム支援協議会
山下俊一・教授	理事	セルフケア総合研究所
山下俊一・教授	ヨウ素関連調査研究委員会委員	成長科学協会
山下俊一・教授	理事	長崎・ヒバクシャ医療国際協力会
山下俊一・教授	永井隆平和記念・長崎賞選考委員会委員	長崎・ヒバクシャ医療国際協力会
山下俊一・教授	長崎・ヒバクシャ医療国際協力会運営副部長	長崎県，長崎市
山下俊一・教授	西日本ブロック地域の三次被ばく医療協議会委員	広島大学緊急被ばく医療推進センター
山下俊一・教授	平和宣言文起草委員会委員	長崎市
山下俊一・教授	世界アルバート・シュヴァイツァー日本事務局長	アルバート・シュヴァイツァー世界医学アカデミー
山下俊一・教授	長崎県緊急被ばく医療ネットワーク検討委員会	原子力安全研究協会
山下俊一・教授	甲状腺結節性疾患有所見率等調査委員会委員	原子力安全研究協会
山下俊一・教授	内閣官房政策調査員	内閣府
山下俊一・教授	運営委員会委員	広島大学原爆放射線医科学研究所
山下俊一・教授	「Hormones」編集委員長	ギリシャ内分泌学会
山下俊一・教授	第13回国際人類遺伝学会組織委員会	国際人類遺伝学会
山下俊一・教授	「放射線の影響とクライシスコミュニケーション」に関する先導的研究開発委員会委員長	日本学術振興会
鈴木啓司・准教授	評議員	日本放射線影響学会

氏名・職	委員会等名	関係機関名
鈴木啓司・准教授	編集委員	日本放射線影響学会
鈴木啓司・准教授	京都大学放射線生物研究センター共同利用委員会委員	京都大学
鈴木啓司・准教授	運営委員会部会委員	広島大学原爆放射線医科学研究所
鈴木啓司・准教授	編集委員	Genome Integrity
鈴木啓司・准教授	世話人	放射線影響懇話会
鈴木啓司・准教授	編集委員	Radiation Research
鈴木啓司・准教授	評議員	日本癌学会
鈴木啓司・准教授	福島県「放射線と健康」アドバイザー	福島県「放射線と健康」アドバイザリーグループ
光武範吏・准教授	国際編集委員	Arquivos Brasileiros de Endocrinologia e Metabologia
光武範吏・准教授	評議員	日本甲状腺学会
光武範吏・准教授	評議員	日本内分泌学会

教室における社会活動について

長崎・ヒバクシャ医療国際協力会の活動として、人事交流、研修生受入、放射線医療科学啓発活動を行っている。チェルノブイリの実態、セミパラチンスク健康問題を国内外へ紹介、旧ソ連の被ばく国周辺で放射線と病気の関係について、正しい教育啓発に尽力している。東日本大震災後の原子力災害に際し、緊急被ばく医療支援への取り組み、住民への教育講演活動を通じた不安解消とリスクミに貢献している。

民間等との共同研究

氏名・職	共同研究先	研究題目
鈴木啓司・准教授	iRCT株式会社	新規放射線防護剤の開発

競争的研究資金獲得状況

氏名・職	資金提供元	代表・分担	研究題目
山下俊一・教授	日本学術振興会	代表	基盤研究 (A) チェルノブイリ原発事故後の放射線発がんリスク分子疫学調査研究
鈴木啓司・准教授	日本学術振興会	代表	挑戦的萌芽研究 低分子化合物ライブラリーを用いた放射線障害防護剤HTPスクリーニング
鈴木啓司・准教授	環境省	代表	原子力災害影響調査等事業『放射線の健康影響に係わる研究調査事業』 低線量率・低線量放射線被ばくによる組織幹細胞の放射線障害の蓄積に関する研究
鈴木啓司・准教授	日本学術振興会	代表	基盤研究 (B) DNA損傷応答持続を制御するヒストンジメチル化修飾の分子機構解明
鈴木啓司・准教授	文部科学省	分担	原子力基礎基盤戦略研究イニシアティブ
光武範吏・准教授	日本学術振興会	代表	基盤研究 (C) 甲状腺癌幹細胞の高精度新規マーカー群の同定とその機能解析
光武範吏・准教授	公益財団法人 高松宮妃癌研究基金	代表	平成25年度研究助成金 個人発がんリスク評価のための大規模データベース構築と新リスク評価技術の開発

5. 研究活動概要－社会医学部門

氏名・職	資金提供元	代表・分担	研究題目
松瀬美智子・助教	日本学術振興会	代表	若手研究 (B) 甲状腺癌幹細胞をターゲットとした放射線感受性関連遺伝子スクリーニング

その他 新聞等に掲載された活動

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
山下俊一・教授	NASHIM20年原研50年記念シンポジウム	長崎新聞	2013年 2月10日	記念講演で、元長崎大大学院医歯薬学総合研究科長の山下俊一福島県立医科大副学長は長崎大が福島第一原発事故直後から現地を支援した経緯などを説明。
	ウクライナ・甲状腺への影響調査 トロンコ氏に永井賞	長崎新聞 毎日新聞	2013年 2月10日	長崎・ヒバクシャ医療国際協力会は、第9回永井隆平和記念・長崎賞をウクライナ医学アカデミー内分泌代謝研究所所長のミコラ・トロンコ氏に贈った。
山下俊一・教授	新たに2人甲状腺がん福島、放射線の影響否定	長崎新聞 毎日新聞	2013年 2月14日	検討委の山下俊一座長は「20代、30代に見つかる可能性があったものが、(調査で)かなり前倒しで見つかった」との考えを示した。
山下俊一・教授	放射線健康リスクを考える 福島で国際学術会議開幕	福島民報	2013年 2月27日	山下俊一福島医大副学長らが登壇し、放射線健康リスク管理について、将来に向けた提言をまとめる。
山下俊一・教授	“被ばく”への挑戦 長崎大と福島1	長崎新聞	2013年 3月3日	県民健康管理調査 実態解明へ研究者模索 混乱の被災地で「走りながら先鞭」
山下俊一・教授	福島県民健康管理調査検討委 外部被ばくの推計に光明	西日本新聞	2013年 3月7日	福島県の「県民健康管理調査」の検討委員会座長を務める山下俊一・福島県立医大副学長に、これまでの調査について聞いた。
山下俊一・教授	健診結果の一元化が必要 山下俊一・福島県立医大副学長	朝日新聞	2013年 3月8日	県民の健康調査は長期戦。検査する側と受ける側が協力し合い、よりよい調査にしていきたいと述べる。
山下俊一・教授	“被ばく”への挑戦 長崎大と福島6	長崎新聞	2013年 3月9日	リスクコミュニケーション 理論と実践にギャップ
山下俊一・教授	“被ばく”への挑戦 長崎大と福島7	長崎新聞	2013年 3月10日	教訓 “安全神話”に決別を
	バクレルの嘆きー放射線との戦いー 第2部 安全の指標	福島民報新聞	2013年3月 13～18日	放射線リスクをめぐる専門家や政府の対応、甲状腺検査や内部被ばく検査、リスクコミュニケーションの現状などを追う。
山下俊一・教授	インタビュー	河北新聞	2013年 3月23日	長崎大に復帰する、福島県立医大副学長の山下俊一氏に、福島県に滞在した2年間で感じた思い、事故の影響の見通しを聞いた。
山下俊一・教授	福島復興担当副学長に就任 長崎大新設	朝日新聞 西日本新聞 朝日新聞 長崎新聞 読売新聞 日本経済新聞 毎日新聞	2013年 4月3日	長崎大は、東京電力福島第一原発事故の直後に福島に入り、県民の被曝による健康影響調査などに携わっていた医学部の山下俊一教授が、新たに設けられた福島復興担当の副学長に就任したと発表した。

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
山下俊一・教授	クローズアップ2013 福島 子供の甲状腺 検査	毎日新聞	2013年 4月22日	県民健康管理調査検討委座長の山下俊一・ 県立医大副学長（非常勤，4月から長崎大 副学長）に聞いた。
山下俊一・教授	第49回 日本小児放 射線学会学術集会	教育医事新聞	2013年 4月25日	山下俊一・長崎大学理事・副学長/福島県 立医科大学副学長による特別講演「低線 量の放射線人体影響：チェルノブイリと 福島の実験から」の内容を紹介する。
山下俊一・教授	平和宣言文起草委 日本政府を強く批判	長崎新聞	2013年 6月9日	長崎原爆の日（8月9日）の平和祈念式典 で長崎市長が読み上げる平和宣言文の第2 回起草委員会が，長崎市内であった。
	ロシア，ウクライナ など 被ばく者治療 を研修4カ国医師ら 市長訪問	長崎新聞	2013年 7月23日	長崎市や県，長崎大などでつくる「長崎・ ヒバクシャ医療国際協力会」が1993年か ら国際貢献事業の一環で招いている。
山下俊一・教授	山下教授 名誉市民に カザフ・セメイ市	長崎新聞 読売新聞	2013年 9月10日， 11日	長年，被ばく医療に携わってきた長崎大 の山下俊一副学長に，カザフスタン・セ メイ市の名誉市民の称号が外国人として 初めて授与された。
山下俊一・教授	福島支援 教育でも 長崎大，学生を現地 派遣へ	西日本新聞 長崎新聞 読売新聞 毎日新聞	2013年 10月23日	山下俊一副学長は「他大学の復興支援の モデルとなる活動にしたい」と抱負を語っ た。

社会医学部門

国際保健医療福祉学研究分野（原研国際）

スタッフ

教授：高村 昇

講師：林田直美

助教：タチアナ・ログノビッチ

大学院生：森 芙美，釜崎敏彦，池岡俊幸，原口 愛，増井芙美子，木村悠子，
吉田浩二，中島香菜美，折田真紀子，東 美穂，河村靖子

大学院生（修士課程）：佐藤良信，中山優美

客員准教授：平良文亨

研究協力員：三浦恵秀，前平由紀

事務補佐員：富田茉莉花，納富貴子，前田知栄子，松岡恵子

2013年度研究活動実績

2013年度もこれまでと同様，チェルノブイリ周辺地域におけるフィールド研究を展開し，土壌中における放射性セシウムの長期的動態の評価（Taira et al. PLoS ONE 2013），といった福島復興にも関連する研究を行ったほか，ヨウ素充足評価に関する臨床疫学などを国際共同研究として行った（Sekitani et al. Clin Chem Lab Med 2013）。また，福島県民健康調査の推進にあたって問題となった小児甲状腺超音波所見，特に甲状腺のう胞や結節の頻度を福島以外の複数個所で調査した多施設研究を主導したほか（Hayashida et al. PLoS ONE 2013），2013年4月に福島県川内村に設置した長崎大学・川内村復興推進拠点における社会医学研究の推進も行い，福島の復興に必要なエビデンスの創出に努めた（Orita et al. Rad Prot Dosimet 2013; Taira et al. Environ Sci Technol 2014）。

その他にも，離島医療研究所等と連携して動脈硬化関連遺伝子多型評価（Mori-Murata et al. Clin Chem Lab Med 2013）や母子保健分野の臨床疫学研究（Sekitani et al. Clin Chem Lab Med 2013）を行ったほか，PET/CT画像解析によるFDG取り込みと肩関節痛との関連評価（Kamasaki et al. Nuc Med Commun 2014）を通じたPET/CTの新たな臨床応用の探索といった研究も行った。

Research activities in the FY 2013.

We continuously conducted the field studies around Chernobyl Nuclear Power Plant, including long-term evaluation of dynamics of radio-caesium in this area, which gives an important information for the recovery of Fukushima (Taira et al. PLoS ONE 2013), and evaluation of iodine supplementation status in this area (Sekitani et al. Clin Chem Lab Med 2013). We also conducted multi-institutional study on the prevalence of thyroid cysts and nodules in Japanese schoolchildren evaluated by ultrasound, which is one of controversial topics at Fukushima Health Survey.

In April 2013, Nagasaki University established in Kawauchi village (Fukushima Prefecture) a satellite facility of the university: the Nagasaki University - Kawauchi Village Reconstruction Promotion Base, and conducted research projects in the field of social medicine, to create scientific evidences which needs for the recovery of Fukushima after the accident (Orita et al. Rad Prot Dosimet 2013; Taira et al. Environ Sci Technol 2014).

In addition, we conducted molecular epidemiological study on the association of the genetic polymorphism with the development of atherosclerosis (Mori-Murata et al. Clin Chem Lab Med 2013) and clinical epidemiological study on the maternal health (Sekitani et al. Clin Chem Lab Med 2013) in cooperation with Institute of Island and Community Medicine of Nagasaki University. Furthermore, we conducted the clinical epidemiological study to develop a novel application of PET/CT through the comparison of the FDG uptake with shoulder joint pain (Kamasaki et al. Nuc Med Commun 2014).

業績

論文

A 欧文

A-a

1. Hayashida N, Imaizumi M, Shimura H, Okubo N, Asari Y, Nigawara T, Midorikawa S, Kotani K, Nakaji S, Otsuru A, Akamizu T, Kitaoka M, Suzuki S, Taniguchi N, Yamashita S, Takamura N: Thyroid ultrasound findings in children from three Japanese prefectures: Aomori, Yamanashi and Nagasaki. *PLoS ONE* 8 (12): e83220, 2013(IF:3.730) *
2. Shimizu Y, Nakazato M, Sekita T, Kadota K, Sato S, Koyamatsu J, Arima K, Takamura N, Aoyagi K, Maeda T: Body mass index and triglyceride-to-HDL-cholesterol ratio in relation to risk of diabetes: The Nagasaki Islands study. *Acta Med Nagasaki* 58 (3): 85-91, 2013
3. Masunaga T, Kozlovsky A, Lyzikov A, Takamura N, Yamashita S: Mental health status among younger generation around Chernobyl. *Arch Med Sci* 9 (6): 1114–1116, 2013(IF:1.067) *
4. Nagataki S, Takamura N, Kamiya K, Akashi M: Measurements of individual radiation doses in residents living around the Fukushima Nuclear Power Plant. *Rad Res* 180 (5): 439-447, 2013(IF:2.698) *
5. Shimizu Y, Nakazato M, Sekita T, Kadota K, Arima K, Yamasaki H, Goto H, Shirahama S, Takamura N, Aoyagi K, Maeda T: Relationship between adult height and body weight and risk of carotid atherosclerosis assessed in terms of carotid intima-media thickness: The Nagasaki Islands study. *J Physiol Anthropol* 32 (1): 19, 2013(IF:0.632) *
6. Sakimura C, Minami S, Hayashida N, Uga T, Inokuchi N, Eguchi S: Can the use of intraoperative intact parathyroid hormone monitoring be abandoned in patients with hyperparathyroidism? *Am J Surg* 206 (4): 574-577, 2013(IF:2.516) * ○
7. Orita M, Hayashida N, Urata H, Shinkawa T, Endo Y, Takamura N: Determinants for the return to hometowns after the accident at Fukushima Dai-ichi Nuclear Power Plant: a case study for the village of Kawauchi. *Radiat Prot Dosimetry* 156 (3): 383-385, 2013(IF:0.909) *
8. Maehira Y, Chowdhury EI, Reza M, Drahozal R, Gayen TK, Masud I, Afrin S, Takamura N, Azim T: Factors associated with relapse into drug use among male and female attendees of a three-month drug detoxification–rehabilitation programme in Dhaka, Bangladesh: a prospective cohort study. *Harm Reduct J* 10 (1): 14, 2013 *
9. Akilzhanova A, Nurkina Z, Momynaliev K, Ramanculov E, Zhumadilov Z, Rakhypbekov T, Hayashida N, Nakashima M, Takamura N: Genetic profile and determinants of homocysteine levels in Kazakhstan patients with breast cancer. *Anticancer Res* 33 (9): 4049-4059, 2013(IF:1.713) *
10. Morita N, Miura M, Yoshida M, Kumagai A, Ohtsuru A, Usa T, Kudo T, Takamura N, Yamashita S, Matsuda N: Spatiotemporal characteristics of internal radiation exposure in evacuees and first responders after the radiological accident in Fukushima. *Rad Res* 180 (3): 299-301, 2013(IF:2.698) *
11. Shimizu Y, Nakazato M, Sekita T, Kadota K, Arima K, Yamasaki H, Goto H, Takamura N, Aoyagi K, Maeda T: Relationships of adult body height and BMI status to hyperuricemia in general Japanese male population: The Nagasaki Islands Study. *Acta Med Nagasaki* 58 (2): 57-62, 2013
12. Yamanouchi K, Minami S, Hayashida N, Sakimura C, Hayashi T, Kinoshita N, Ueki I, Kuroki T, Eguchi S: Carcinomas in the remnant thyroid after thyroidectomy for Graves' disease: report of a case. *Acta Med Nagasaki* 58 (2): 63-66, 2013
13. Glushkova N, Rakhypbekov T, Madiyeva M, Maya G, Kamasheva G, Bayrkanova A, Takamura N: Factors that influence access to health care services in students of Semey State Medical University, Kazakhstan. *Life Sci J* 10 (3): 689-695, 2013(IF:0.165)
14. Hayashida H, Saito T, Kawasaki K, Kitamura M, Furugen R, Iwasaki T, Hayashida Y, Nakazato M, Sekita T, Takamura N, Maeda T: Association of periodontitis with carotid artery intima-media thickness and arterial stiffness in community-dwelling people in Japan. *Atherosclerosis* 229 (1): 186-191, 2013(IF:3.706) *
15. Taniguchi N, Hayashida N, Shimura H, Okubo N, Asari Y, Nigawara T, Midorikawa S, Kotani K, Nakaji S, Imaizumi M, Ohtsuru A, Akamizu T, Kitaoka M, Suzuki S, Yamashita S, Takamura N: Ultrasonographic thyroid nodular findings in Japanese children. *J Med Ultrason* 40 (3): 219-224, 2013(IF:0.635) *
16. Yamashita H, Nishino T, Obata Y, Nakazato M, Inoue K, Furusu A, Takamura N, Maeda T, Ozono Y, Kohno S: Association between cystatin C and arteriosclerosis in the absence of chronic kidney disease. *J Atheroscler Thromb* 20 (6): 548-556, 2013 (IF:2.933) *

17. Shimizu Y, Nakazato M, Sekita T, Kadota K, Yamasaki H, Takamura N, Aoyagi K, Kusano Y, Maeda T: Association between alkaline phosphatase and hypertension in a rural Japanese population: The Nagasaki Islands study. *J Physiol Anthropol* 32 (1): 10, 2013(IF:0.632) *
18. Shimizu Y, Nakazato M, Sekita T, Kadota K, Yamasaki H, Takamura N, Aoyagi K, Maeda T: Association of arterial stiffness and diabetes with triglycerides-to-HDL cholesterol ratio for Japanese men: the Nagasaki Island Study. *Atherosclerosis* 228 (2): 491-495, 2013(IF:3.706) *
19. Matsuda N, Kumagai A, Ohtsuru A, Morita N, Miura M, Yoshida M, Kudo T, Takamura N, Yamashita S: Assessment of internal exposure doses in Fukushima by a whole body counter within one month after the nuclear power plant accident. *Rad Res* 179 (6): 663-668, 2013(IF:2.698) *
20. Wada M, Hirose M, Kuroki M, Ikeda R, Sekitani Y, Takamura N, Kuroda N, Nakashima K: Simultaneous determination of homocysteine, methionine and cysteine in maternal plasma after delivery by HPLC-fluorescence detection with DBD-F as a label. *Biomed Chromatogr* 27 (6): 708-713, 2013(IF:1.945) *
21. Shimizu Y, Nakazato M, Sekita T, Kadota K, Arima K, Yamasaki H, Goto H, Takamura N, Aoyagi K, Maeda T: Free thyroxine (FT4) and anemia in relation to drinking status of Japanese men: The Nagasaki islands study. *Endocr J* 60 (9): 1029-1034, 2013(IF:2.228) *
22. Sekitani Y, Hayashida N, Ikeoka T, Yoshida A, Nakazato M, Wada M, Fujita A, Matsuo A, Miyamura T, Obama M, Nakashima K, Maeda T, Masuzaki H, Takamura N: Determinants of homocysteine concentrations in mother and neonatal girl pairs. *Clin Chem Lab Med* 51 (5): e89-92, 2013(IF:3.009) *
23. Sekitani Y, Hayashida N, Takahashi J, Kozlovsky A, Rudnitskiy S, Petrova A, Gutevych O, Chorniy A, Yamashita S, Takamura N: Urinary iodine concentrations of pregnant women in Zhitomir, Ukraine. *Clin Chem Lab Med* 51 (4): 811-816, 2013(IF:3.009) *
24. Taira Y, Hayashida N, Tsuchiya R, Yamaguchi H, Takahashi J, Kazlovsky A, Urazalin M, Rakhypbekov T, Kudo T, Yamashita S, Takamura N: Vertical distribution and estimated doses from artificial radionuclides in soil samples around the Chernobyl Nuclear Power Plant and the Semipalatinsk Nuclear Testing Site. *PLoS ONE* 8 (2): e57524, 2013(IF:3.730) *
25. Teraoka S, Hayashida N, Shinkawa T, Taira Y, Nagai-Sekitani Y, Irie S, Kamasaki T, Nakashima-Hashiguchi, Yoshida K, Orita M, Morishita M, Clancey G, Takamura N: Good stress management capability is associated with lower body mass index and restful sleep in the elderly. *Tohoku J Exp Med* 229 (1): 5-10, 2013(IF:1.367) * ○
26. Mussazhanova Z, Matsuda K, Naruke Y, Mitsutake N, Stanojevic B, Rougounovitch T, Saenko V, Suzuki K, Nishihara E, Hirokawa M, Ito M, Nakashima M: Significance of p53-binding protein 1 (53BP1) expression in thyroid papillary microcarcinoma: association with BRAFV600E mutation status. *Histopathology* 63(5): 726-734, 2013(IF:2.857) *
27. Bychkov A, Saenko V, Nakashima M, Mitsutake N, Rogounovitch T, Nikitski A, Orim F, Yamashita S: Patterns of FOXE1 expression in papillary thyroid carcinoma by immunohistochemistry. *Thyroid* 23(7): 817-828, 2013(IF:3.544) * ○

B 邦文

B-a

1. 小林慎一郎, 南 恵樹, 崎村千香, 山之内孝彰, 林田直美, 江口 晋: 乳房切除後疼痛症候群に対してプレガバリンが著効をみた2例. *日本臨床外科学会雑誌* 74(1): 23-26, 2013

B-b

1. 吉田浩二, 中島香菜美, 廣島陽子, 新川哲子, 林田直美, 浦田秀子, 高村 昇: 東京電力福島第1原子力発電所事故による放射線汚染等に対する緊急被ばく医療 放射線看護の専門看護師を目指した取り組みと課題. *日本放射線看護学会誌* 1(1): 37-42, 2013

B-d

1. 谷口信行, 赤水尚史, 今泉美彩, 大津留 晶, 貴田岡正史, 志村浩己, 鈴木眞一, 高村 昇, 山下俊一: 甲状腺結節性疾患有所見率等調査委員会平成24年度甲状腺結節性疾患有所見率等調査. *乳腺甲状腺超音波医学* 2(3): 33-43, 2013

B-e-1

1. 南 恵樹, 山之内孝彰, 林田直美, 崎村千香, 川上総子, 金高賢悟, 江口 晋: 乳癌手術ドレーン留置の省略は可能か? 日本乳癌学会総会プログラム抄録集21回 p 499, 2013
2. 山之内孝彰, 南 恵樹, 崎村千香, 川上総子, 林田直美, 金高賢吾, 高槻光寿, 黒木 保, 江口 晋, 林 徳真吉, 安部邦子, 木下直江: 乳癌における針生検と手術摘出標本の病理学的因子の比較 針生検の有用性と限界. 日本乳癌学会総会プログラム抄録集21回 p 401, 2013
3. 崎村千香, 南 恵樹, 山之内孝彰, 川上総子, 林田直美, 金高賢悟, 黒木 保, 江口 晋: センチネルリンパ節生検省略の可能性 センチネルリンパ節生検症例の検討から. 日本乳癌学会総会プログラム抄録集21回 p 376, 2013
4. 森 芙美, 高村 昇, 原口 愛, 池岡俊幸, 安藤隆雄, 阿比留教生, 川崎英二, 山崎浩則, 川上 純: GCKR rs780094多型は, 一般住民男性において頸動脈内膜中膜複合体肥厚と関連する. 糖尿病 56(Suppl. 1): S-194, 2013
5. 池岡俊幸, 中村 剛, 原口 愛, 安井順一, 森 芙美, 赤澤 諭, 植木郁子, 古林正和, 安藤隆雄, 林田直美, 阿比留教生, 山崎浩則, 川崎英二, 川上 純, 高村 昇: 本邦におけるTRIB1 rs2954029遺伝子多型と生活習慣病関連因子及び動脈硬化との関連についての検討. 糖尿病 56(Suppl. 1), S-125, 2013
6. 木村悠子, 林田直美, 南 恵樹, 山之内孝彰, 東郷道太, 白水重憲, 片山宗哲, 江口 晋, 高村 昇: 心拍間隔変動パワースペクトル解析による甲状腺手術前後の自律神経評価. 日本内分泌学会雑誌 89(1): 298, 2013
7. サエンコ・ウラジミール, 高橋めい子, ログノビッチ・タチアナ, ドロズド・ワレンティナ, デミドチク・ユーリ, ボグダノフ・タチアナ, トロンコ・ミコラ, 光武範史, 高村 昇, 松田文彦, 山下俊一: チェルノブイリ事故後のNRG1遺伝子と甲状腺がんの発症危険度と関連性. 日本内分泌学会雑誌 89(1): 264, 2013
8. 井上悠介, 曾山明彦, 高槻光寿, 虎島泰洋, 足立智彦, 北里 周, 小坂太一郎, 三島壯太, 伊藤信一郎, 林田直美, 山之内孝彰, 藤田文彦, 金高賢悟, 南 恵樹, 黒木 保, 江口 晋: 生体肝移植後の長期的腎機能保持に向けて chronic kidney disease と acute kidney injury の関連. 日本外科学会雑誌 114(Suppl. 2): 992, 2013
9. 崎村千香, 南 恵樹, 山之内孝彰, 林田直美, 川上総子, 黒木 保, 江口 晋: センチネルリンパ節生検陽性であった乳癌患者の検討. 日本外科学会雑誌 114(Suppl. 2): 898, 2013
10. 虎島泰洋, 山之内孝彰, 堺 裕輔, 曾山明彦, 足立智彦, 三島壯太, 小坂太一郎, 伊藤信一郎, 北里 周, 林田直美, 藤田文彦, 金高賢悟, 高槻光寿, 南 恵樹, 黒木 保, Grikscheit Tracy, 江口 晋: Tissue Engineered Small Intestine の実用化を目指して Fgf10の関与を中心に. 日本外科学会雑誌 114(Suppl. 2): 771, 2013
11. 南 恵樹, 山之内孝彰, 林田直美, 崎村千香, 川上総子, 小坂太一郎, 三島壯太, 曾山明彦, 足立智彦, 虎島泰洋, 伊藤信一郎, 藤田文彦, 金高賢悟, 高槻光寿, 黒木 保, 江口 晋: 甲状腺手術後頸部ドレーン排液量の検討 留置期間, ドレーン留置適応の考察. 日本外科学会雑誌 114(Suppl. 2): 697, 2013
12. 山之内孝彰, 南 恵樹, 林田直美, 崎村千香, 小坂太一郎, 三島壯太, 曾山明彦, 足立智彦, 虎島泰洋, 伊藤信一郎, 藤田文彦, 金高賢悟, 高槻光寿, 黒木 保, 江口 晋: パセドウ病手術時の出血量に関連する因子の検討. 日本外科学会雑誌 114(Suppl. 2): 696, 2013
13. 藤井美緒, 南 恵樹, 山之内孝彰, 崎村千香, 川上総子, 林田直美, 小坂太一郎, 三島壯太, 曾山明彦, 足立智彦, 北里 周, 伊藤信一郎, 藤田文彦, 金高賢悟, 高槻光寿, 黒木 保, 江口 晋: パセドウ病および良性甲状腺腫に対する内視鏡補助下頸部手術 (VANS) 199例の検討. 日本外科学会雑誌 114(Suppl. 2): 696, 2013

学会発表

A 欧文

A-b

1. ETA 2013 タチアナ ログノビッチ・助教 2013年9月10日 オランダ

B 邦文

B-a

1. 第116回日本小児科学会学術集会 市民公開講座 高村 昇・教授 2013年4月19日 広島市
2. 第2回日本放射線看護学会学術集会 市民公開講座 高村 昇・教授 2013年9月15日 長崎市
3. 平成25年度日本学術会議九州・沖縄地区会議学術講演会 高村 昇・教授 2013年11月29日 長崎市

5. 研究活動概要－社会医学部門

B-b

1. 第2回日本放射線看護学会学術集会 吉田浩二・大学院生 2013年9月15日 長崎市

論文数一覧

	A-a	A-b	A-c	A-d	A-e	合計	SCI	B-a	B-b	B-c	B-d	B-e	合計	総計
2013	27	0	0	0	0	27	23	1	1	0	1	13	16	43

学会発表数一覧

	A-a	A-b		合計	B-a	B-b		合計	総計
		シンポジウム	学会			シンポジウム	学会		
2013	0	0	1	1	3	1	18	22	23

論文総数に係る教員生産係数一覧

	欧文論文総数 論文総数	教員生産係数 (欧文論文)	SCI掲載論文数 欧文論文総数	教員生産係数 (SCI掲載論文)
2013	0.628	9	0.852	7.667

Impact factor 値一覧

	Impact factor	教員当たり Impact factor	論文当たり Impact factor
2013	52.127	17.376	2.355

教育活動

氏名・職	職（担当科目）	関係機関名
高村 昇・教授	原爆医学概論1	長崎大学
高村 昇・教授	医学ゼミ	長崎大学
高村 昇・教授	細胞と放射線	長崎大学
高村 昇・教授	リサーチセミナー	長崎大学
高村 昇・教授	被ばくと看護学	長崎大学
高村 昇・教授	健康科学特論	長崎大学
林田直美・講師	健康科学特論	長崎大学
林田直美・講師	教養ゼミナール	長崎大学
林田直美・講師	被ばくと看護学	長崎大学
高村 昇・教授	非常勤講師（博士課程大学院生向け講義）	広島大学
高村 昇・教授	非常勤講師（大規模災害と国際協力）	広島大学

社会活動

氏名・職	委員会等名	関係機関名
高村 昇・教授	福島県放射線健康リスク管理アドバイザー	福島県
高村 昇・教授	非常勤嘱託	アルパイン株式会社
高村 昇・教授	建築審査会委員	長崎県
高村 昇・教授	(財)放射線影響研究所 疫学部顧問	(財)放射線影響研究所
高村 昇・教授	(財)放射線影響研究所 臨床研究部顧問	(財)放射線影響研究所
高村 昇・教授	福島県民健康管理調査検討会委員	福島県
高村 昇・教授	日本放射線看護学会評議員	日本放射線看護学会
高村 昇・教授	環境放射能研究所研究連携推進会議委員	国立大学法人福島大学
高村 昇・教授	被爆者健康講話講師	国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館

氏名・職	委員会等名	関係機関名
高村 昇・教授	甲状腺結節性疾患有所見率等調査委員会委員	(財)原子力安全研究協会
高村 昇・教授	長崎市原子爆弾放射線影響研究会委員	長崎市
高村 昇・教授	住民参加型プログラム評価委員	(財)原子力安全研究協会
高村 昇・教授	東電福島第一原発緊急作業従事者に対する疫学的研究のあり方に関する専門家検討会委員	厚生労働省
高村 昇・教授	国立大学法人福島大学環境放射能研究所設置準備委員会委員	国立大学法人福島大学
高村 昇・教授	福島県川内村健康アドバイザー	福島県双葉郡川内村
高村 昇・教授	長崎ヒバクシャ医療国際協力会運営部会委員	長崎県, 長崎市
林田直美・講師	甲状腺用語診断基準委員会委員	日本乳腺甲状腺超音波診断会議
林田直美・講師	「放射線の影響とクライシスコミュニケーション」に関する先導的研究開発委員会委員	独立行政法人日本学術振興会
林田直美・講師	甲状腺結節性疾患有所見率等調査委員会委員	公益財団法人 原子力安全研究協会

民間等との共同研究 (※原研及び医学部業績集にて掲載, 医歯薬業績集では競争的資金に転載。)

氏名・職	共同研究先	研究題目
高村 昇・教授	(株)R・I・E	放射線モニタリングデバイスの開発

競争的研究資金獲得状況

氏名・職	資金提供元	代表・分担	研究題目
高村昇・教授 林田直美・講師	日本学術振興会	代表 分担	基盤研究 (B) チェルノブイリにおける放射線誘発甲状腺がんの発症メカニズム解明にむけた疫学調査
高村昇・教授 林田直美・講師	日本学術振興会	代表 分担	挑戦的萌芽研究 新規開発モニタリングデバイスによる放射能汚染地域住民の健康モニタリング評価
高村昇・教授 林田直美・講師	日本学術振興会	代表 分担	若手研究者戦略的海外派遣事業費補助金 チェルノブイリ周辺地区におけるセシウム137内部被ばくによる健康影響評価
林田直美・講師	日本学術振興会	代表	基盤研究 (C) 「一般小児における甲状腺超音波所見の経時的変化の評価」
タチアナ ログノビッチ・助教	日本学術振興会	代表	基盤研究 (B) 「チェルノブイリ小児甲状腺癌のパラフィン組織バンク設立と新規癌遺伝子解析」

その他

新聞等に掲載された活動

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
高村 昇・教授	ウクライナ・コロステン市長 文化交流協定を提案	長崎新聞	2013年 4月25日	モスカレンコ市長が長崎市と文化的交流と協定の締結を求め、長崎市副市長と共に同席した。
高村 昇・教授	長崎大「支援」から「定着」へ	福島民友	2013年 8月3日	長崎の被爆者とチェルノブイリ原発事故の双方の治療経験者としてコメントした。
高村 昇・教授	福島の現状と課題 探る	長崎新聞	2013年 9月16日	川内村の遠藤村長らと講演し、パネルディスカッションをした。
高村 昇・教授	長崎くんちで川内村 事故後初収穫 新米30キロ奉納	長崎新聞	2013年 10月10日	福島県で事故後初めて収穫された新米を諏訪神社に奉納する仲介役を務めた。
高村 昇・教授	長崎大、学生を現地 派遣へ	西日本新聞	2013年 10月23日	川内村の小学6年生に対し「復興子ども教室」を11月末から始めると発表した。
高村 昇・教授	福島・川内村小6に 復興教室	朝日新聞	2013年 10月23日	川内村の小学6年生に対し「復興子ども教室」を11月末から始めると発表した。
高村 昇・教授	放射線防護対策案、 月内にもまとめ	福島民報	2013年 11月9日	今回原子力規制委員会の対応について、妥当な判断との見方を示した。
高村 昇・教授	福島復興テーマ 長大教授ら講演	長崎新聞	2013年 11月30日	原発事故からの復興をテーマにした学術講演会で講演を行った。
高村 昇・教授	長崎大生が復興教室	福島民報	2013年 12月3日	川内村川内小に保健学科と教育学部の学生と共に訪問し6年生に「復興子ども教室」を実施した。
高村 昇・教授	長崎大が線量計貸出し 被ばく測定、分析へ	朝日新聞	2013年 12月18日	川内村で医学部の学生らと共に、帰宅する住民の住宅の空間線量と土を調べる予定。
高村 昇・教授	福島の帰村住民に線 量計貸し出しへ	読売新聞	2013年 12月18日	原発20キロ圏内の帰村者を支援するため、個人線量計を住民に貸し出すことを明らかにした。
高村 昇・教授	福島の児童 復興考える	読売新聞	2013年 12月24日	復興子ども教室で訪れた小学6年生に長崎の医学の歴史や核廃絶の取り組みなどについて講義した。
高村 昇・教授	乳歯 ストロンチウム 調査 年明けにも 開始	福島民報	2013年 12月24日	福島県内の子供の乳歯にストロンチウム90が含まれているかの調査に関してコメントした。
高村 昇・教授	長崎大で 「復興」授業	産経新聞	2013年 12月25日	復興子ども教室で訪れた小学6年生に授業を行い、川内小についてコメントした。

特筆すべき事項

氏名・職	賞の名称	授与機関名	授賞理由、研究内容等
林田直美・講師	角尾学術賞	長崎大学 医学部	チェルノブイリ周辺地域における臨床疫学研究の展開：福島を見据えて

社会医学部門

健康リスク管理学研究分野（原研リスク）

スタッフ

教授：山下俊一

准教授：Vladimir Saenko

客員教授：Tetiana Liubarets, Nadiia Bilous

2013年度研究活動実績

チェルノブイリ甲状腺癌に対するゲノムワイド分子疫学研究は、ベラルーシとウクライナからさらに追加の試料を加えて解析を行い、一定の結論を見た。チェルノブイリ甲状腺癌は散発性のものと比較し、関連する遺伝的な要因の数は低いことが示唆された。

ウクライナの研究者との長年の共同研究の成果を「Thyroid cancer in Ukraine after Chernobyl: dosimetry, epidemiology, pathology, molecular biology」という教科書にまとめることが出来た。この教科書は、事故時の年齢や居住場所と罹患率の関係、年齢や発症までの期間と癌組織の構造や浸潤度の違い、またこれら特徴の散発性癌との違いを論じている。この成果は、個々人の甲状腺被ばく線量と遺伝子異常の関連を研究する上での第一歩となると思われる。

ロシアの疫学者との共同研究として、チェルノブイリコホートにおけるスクリーニングの効果量を検討する試みも行っている。これまでのところ、スクリーニングによる標準化比は、少なくとも6-8倍に達し、これは最初の10年で最も高かったという結果が出ている。

Research activities in the FY 2013.

A genome-wide molecular epidemiology study of Chernobyl thyroid cancer using an extended set of samples from Belarussian and Ukrainian patients was accomplished. Chernobyl PTC was found to display a lower number of associated genetic elements as compared to sporadic thyroid cancer suggesting that fewer genetic factors are essential for thyroid cancer development after radiation exposure.

The results of long-term collaboration with colleagues from Ukraine were summarized in a book entitled "Thyroid cancer in Ukraine after Chernobyl: dosimetry, epidemiology, pathology, molecular biology". The book discusses the relationship of thyroid cancer incidence with the age and place of residence of children at the time of the accident, addresses changes in the structure and invasive properties of Chernobyl PTC in different age groups and in different periods after exposure, analyzes the differences in the structure and invasive properties of radiogenic and sporadic PTC, and makes initial steps towards the search for an association of individual molecular genetic abnormalities with thyroid exposure dose.

A collaborative study aimed at estimation of the screening effect size in the prospective Chernobyl cohort was performed in collaboration with a group of epidemiologists from Russia. Screening effect was shown to increase the standardized incidence ratio at least 6-8-fold and it was the highest during the first decade after Chernobyl.

業績

A 欧文

A-a

1. Matsuse M, Mitsutake N, Tanimura S, Ogi T, Nishihara E, Hirokawa M, Fuziwara CS, Saenko VA, Suzuki K, Miyauchi A, Yamashita S: Functional characterization of the novel BRAF complex mutation, BRAF (V600delinsYM), identified in papillary thyroid carcinoma. *Int J Cancer* 132(3): 738-743, 2013(IF:6.198) * ◇

5. 研究活動概要－社会医学部門

- Bychkov A, Saenko V, Nakashima M, Mitsutake N, Rogounovitch T, Nikitski A, Orim F, Yamashita S: Patterns of FOXE1 expression in papillary thyroid carcinoma by immunohistochemistry. *Thyroid* 23(7) 817-828, 2013(IF:3.544) * ◇
- Mussazhanova Z, Matsuda K, Naruke Y, Mitsutake N, Stanojevic B, Rogounovitch T, Saenko V, Suzuki K, Nishihara E, Hirokawa M, Ito M, Nakashima M: Significance of p53-binding protein 1 (53BP1) expression in thyroid papillary microcarcinoma: association with BRAF(V)(600E) mutation status. *Histopathology* 63(5): 726-734, 2013(IF:2.857) *

A-e-1

- Saenko V, Takahashi M, Rogounovitch TI, Akulevich NM, Drozd VM, Danilova LI, Lushchik ML, Demidchik YE, Bogdanova TI, Tronko MD, Mitsutake N, Takamura N, Matsuda F, Yamashita S: Molecular epidemiology study of Chernobyl thyroid cancer from Belarus and Ukraine. *European Thyroid Journal* 2(suppl 1): 138, 2013
- Rogounovitch TI, Saenko VA, Bychkov A, Nikitski AV, Takahashi M, Nakashima M, Hayashi T, Hirokawa M, Miyauchi A, Shigematsu K, Mitsutake N, Matsuda F, Yamashita S: Rare allele of ra944289 (NKX2-1(TTF1)) associated with increasing risk of both malignant (PTC) and benign (FA) tumors in Japanese population. *European Thyroid Journal* 2(suppl 1), 182, 2013

学会発表

A 欧文

A-b

- European Thyroid Association, 37th Annual Meeting サエンコ ウラジミール・准教授 2013年9月9日 オランダ

B 邦文

B-a

- 第30回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会特別講演 サエンコ ウラジミール・准教授 2013年4月21日 福島

論文数一覧

	A-a	A-b	A-c	A-d	A-e	合計	SCI	B-a	B-b	B-c	B-d	B-e	合計	総計
2013	3	0	0	0	2	5	3	0	0	0	0	0	0	5

学会発表数一覧

	A-a	A-b		合計		B-a	B-b		合計	総計
		シンポジウム	学会				シンポジウム	学会		
2013	0	0	1	1		1	0	2	3	4

論文総数に係る教員生産係数一覧

	欧文論文総数 論文総数	教員生産係数 (欧文論文)		SCI掲載論文数 欧文論文総数	教員生産係数 (SCI掲載論文)
2013	1	5		0.6	3

Impact factor 値一覧

	Impact factor	教員当たり Impact factor	論文当たり Impact factor
2013	12.599	12.599	4.2

社会活動

氏名・職	委員会等名	関係機関名
サエンコ ウラジミール・准教授	Chernobyl Tissue Bank	EC, NCL, WHO, SHMF
サエンコ ウラジミール・准教授	長崎・ヒバクシャ医療国際協力会	長崎県, 長崎市

教室における社会活動について

国際学術交流と同時に旧ソ連を中心とした招聘派遣事業の窓口調整や研修生の受け入れ指導を行っている。チェルノブイリ支援活動、さらにロシア・ウクライナにおけるチェルノブイリ甲状腺がん組織バンクに参画している。福島原発事故における甲状腺への影響についてリスク関係の貢献をしている。

競争的研究資金獲得状況

氏名・職	資金提供元	代表・分担	研究題目
サエンコ ウラジミール・准教授	日本学術振興会	代表	基盤研究 (C) 甲状腺癌リスク因子FOXO1とNKX2-1は良性腺腫形成にも関連するのか

その他

新聞等に掲載された活動

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
	ウクライナ・甲状腺への影響調査 トロンコ氏に永井賞	長崎新聞 毎日新聞	2013年 2月10日	長崎・ヒバクシャ医療国際協力会は、第9回永井隆平和祈念・長崎賞をウクライナ医学アカデミー内分泌代謝研究所所長のミコラ・トロンコ氏に贈った。
	ロシア、ウクライナなど被ばく者治療を研修4カ国医師ら市長訪問	長崎新聞	2013年 7月23日	長崎市や県、長崎大などでつくる「長崎・ヒバクシャ医療国際協力会」が1993年から国際貢献事業の一環で招いている。

放射線生命科学部門

幹細胞生物学研究分野（原研幹細胞）

スタッフ

教授：李 桃生

助教：浦田芳重

助教：後藤信治

助教：小野悠介

産学官連携研究員：増田慎也

大学院生：土居華子

外国人客員研究員：Haytham Mohanned Ahmed Ali, 郭 昌莹

客員研究員：黄 文敬

留学生：Bayarmaa Enkhbayar

技能補佐員：濱崎あゆみ

事務補佐員：西坂優子

2013年度研究活動実績

1. 放射線被ばくによる組織幹細胞影響

健常マウスに γ 放射線全身照射（2～250 mGy/dayx30days）を行い、造血幹細胞への影響を分子・細胞レベルで調べた。また、全身放射線照射したマウスに対して、新規放射線保護剤投与による効果を組織幹細胞の視点から調べた。

2. 幹細胞と再生医療に関する研究

臍帯血・臍帯組織由来の種々の幹細胞を用いて、創傷治癒の効果と機序を調べた。また、部分的初期化による心筋幹細胞の作製を試み、心血管再生への応用の可能性を探った。

3. 組織幹細胞の酸化抵抗性機構に関する研究

骨髄由来造血幹細胞を分離・純化し、組織幹細胞が備えているレドックス制御機構の特性およびストレス抵抗性など細胞生物学的意義の解明に取り組んだ。

4. がん幹細胞に関連する研究

種々のがん幹細胞マーカーを用いて、細胞株からがん幹細胞を分離し、その性質を解析すると共に、特にがん幹細胞の代謝に関する特性を調べた。また、膀胱癌の予後不良に関する機構について、がん幹細胞と酸化ストレスの側面から評価した。

5. 骨格筋組織幹細胞（サテライト細胞）関連研究

骨格筋組織幹細胞の運命決定機構および筋可塑性の分子基盤を解明する基礎研究から、代謝性疾患、遺伝性筋疾患、加齢性筋肉脆弱症（サルコペニア）に対する新たな治療法開発への応用を目指すトランスレーショナル研究を幅広く行った。また、低線量放射線被ばくがサテライト細胞に与える影響を調査し、非発がん組織である骨格筋への低線量放射線被ばくの影響を評価した。

Research activities in the FY 2013.

1. Radiation induced damages to tissue-specific stem cells

Considering the critical roles of stem cells in carcinogenesis and tissue repair/regeneration, we investigated about the sensitivity and dose dependency of radiation-induced injury, especially in hematopoietic stem/progenitor cells by exposure of adult mice to γ ray for 30 days in succession at a daily dose range of 2~250 mGy. Using the hematopoietic stem cells as experimental tool, we also tried to search new radiation protective drugs.

2. Studies on stem cells and regenerative medicine

We successfully purified/expanded several types of stem cells from human umbilical cord tissues or cord blood samples, and then compared their potency for wound repairing in animal model. We also tried to induce cardiac stem/progenitor cells from cardiac fibroblasts by defined factors.

3. Signaling characterization on the redox-balance regulation in tissue stem cells

By a direct comparison of hematopoietic stem cells with the matured mononuclear cells in bone marrow, we investigated the signaling characterization on the redox-balance regulation in tissue stem cells and further tried to understand about their significance in stem cell biology.

4. Studies on cancer stem cells

By using various well-known markers for cancer stem cells identification, we isolated cancer cells into different sub-populations, and then investigated the biological characterization of cancer stem cells, especially about their property of energy metabolisms. We also tried to understand the molecular and cellular mechanisms on the therapeutic resistance and poor outcome of pancreatic adenocarcinoma, and included a viewing of cancer stem cells.

5. Research on muscle stem cells (satellite cells)

Several projects focused on satellite cells were actively conducted in the past year, including basic and translational research that aimed to understand the cellular and molecular mechanisms on metabolic regulation and muscular disorders. We also investigated whether low dose radiation exposure could impair satellite cell function, which might provide important information about non-cancer risk of radiation exposure.

業績

A 欧文

A-a

1. Ueda K, Tanaka T, Hayashi M, Tanaka N, Li TS, Hamano K: Right middle lobe transposition after upper lobectomy: influence on postoperative pulmonary function. *Thorac Cardiovasc Surg* 61(2):138-143,2013(IF:1.447) * ☆
2. Kawakatsu M, Urata Y, Goto S, Ono Y, Li TS: Placental extract protects bone marrow-derived stem/progenitor cells against radiation injury through anti-inflammatory activity. *J Radiat Res* 54(2):268-276,2013(IF:0.925) * ★
3. Suga A, Ueda K, Takemoto Y, Nishimoto A, Hosoyama T, Li TS, Hamano K: Significant role of bone marrow-derived cells in compensatory regenerative lung growth. *J Surg Res* 183(1):84-90,2013(IF:2.108) * ☆
4. Kawakatsu M, Urata Y, Imai R, Goto S, Ono Y, Nishida N, Li TS: Nicaraven attenuates radiation-induced injury in hematopoietic stem/progenitor cells in mice. *Plos One* 8(3):e60023,2013(IF:3.730) * ★ ◇
5. Guo CW, Kawakatsu M, Idemitsu M, Urata Y, Goto S, Ono Y, Hamano K, Li TS: Culture under low physiological oxygen conditions improves the stemness and quality of induced pluripotent stem cells. *J Cell Physiol* 228(11):2159-66,2013(IF:4.218) * ☆ ◇
6. Kashiyama K, Nakazawa Y, Pilz DT, Guo C, Shimada M, Sasaki K, Fawcett H, Wing JF, Lewin SO, Carr L, Li TS, Yoshiura K, Utani A, Hirano A, Yamashita S, Greenblatt D, Nardo T, Stefanini M, McGibbon D, Sarkany R, Fasshi H, Takahashi Y, Nagayama Y, Mitsutake N, Lehmann AR, Ogi T: Multifunction of nuclease ERCC1-XPF results in diverse clinical

manifestation and causes Cockayne syndrome, xeroderma pigmentosum, and Fanconi anemia. *Am J Hum Genet* 92(5):807-819,2013(IF:11.202) * ☆

7. Nishimoto A, Kugimiya N, Hosoyama T, Enoki T, Li TS, Hamano k. JAB1 regulates unphosphorylated STAT3 DNA-binding activity through protein-protein interaction in human colon cancer cells. *Biochem Biophys Res Commun* 438(3):513-8,2013(IF:2.406) * ☆

A-c

1. Yusuke Ono : Stem cell hierarchies in muscle satellite cells. In: Sakuma K Ed., "Basic Biology and Current Understanding of Skeletal Muscle" Nova Biomedical .Chapter1.p1-19,2013.

B 邦文

B-b

1. 李桃生：心血管再生治療の現状と問題点. 最新医学68 (6) :1178-82;2013
2. 小野悠介：筋サテライト細胞の不均一性. 生体の科学64 (2) 154-161,2013

B-c

1. 小野悠介:第9章 運動と免疫, 第13章 運動と活性酸素「小山勝弘編 運動生理学～生理学の基礎から疾病予防まで～(分担執筆)」三共出版. 第9章p83-92; 第13章p123-132, 2013.
2. 小野悠介：再生医療で用いられる細胞種の培養技術～骨格筋幹細胞～「再生医療事業の課題解決のための手引書(分担執筆)」再生医療における臨床研究と製品開発. 技術情報協会出版. 第3節〈3〉 p177-180, 2013.

B-d

1. 小野悠介, 増田慎也, 浦田芳重, 後藤信治, 李桃生：低線量放射線がマウス組織幹細胞に与える影響～骨格筋幹細胞に着目して～, 第9回広島大学・長崎大学連携研究事業カンファレンス報告書, 2013.

B-e-1

1. 李桃生, 郭朝万, 川勝美穂, 浦田芳重, 後藤信治, 小野悠介：培養酸素濃度がiPS細胞の性質およびゲノム不安定性に与える影響, 日本再生医療学会雑誌(増刊号) p188,2013.
2. 工藤智明, 細山 徹, 桂 春作, 弘中 紫, 大島真子, 久保正幸, 李 桃生, 濱野公一：自己末梢血単核球を用いた血管新生療法における低酸素プレコンディショニングの前臨床試験, 再生医療12 (Supplement) p282,2013.
3. 村上順一, 上田和弘, 林 雅太郎, 李 桃生, 濱野公一：肺気腫は肺腫瘍増大に好適な微小環境である：MT1-MMP/MMP-2 axisの関与(ポスター), 日本外科学会雑誌114 (臨時増刊号2) p551,2013.

A 欧文

A-b

1. Cell Symposia 李 桃生・教授 2013年11月21日 アメリカ
2. Asian Association of Aging Research Symposium-2013 小野悠介・助教 2013年11月8日 韓国
3. 9th AACR-Japanese Cancer Association Joint Conference 李 桃生・教授 2013年2月21日 アメリカ
4. 7th International Conference of the Society on Sarcopenia, Cachexia and Wasting Disorders 小野悠介・助教 2013年12月12日 日本

B 邦文

B-b

1. 第1回骨格筋生物学研究会 小野悠介・助教 2013年3月9日 大阪
2. 第9回広島大学・長崎大学連携研究事業カンファレンス 小野悠介・助教 2013年6月1日 広島

論文数一覧

	A-a	A-b	A-c	A-d	A-e	合計	SCI	B-a	B-b	B-c	B-d	B-e	合計	総計
2013	7	0	1	0	0	8	7	0	2	2	1	3	8	16

学会発表数一覧

	A-a	A-b		合計	B-a	B-b		合計	総計
		シンポジウム	学会			シンポジウム	学会		
2013	0	2	2	4	0	2	6	8	12

論文総数に係る教員生産係数一覧

	欧文論文総数 論文総数	教員生産係数 (欧文論文)	SCI掲載論文数 欧文論文総数	教員生産係数 (SCI掲載論文)
2013	0.5	2	0.875	1.75

Impact factor 値一覧

	Impact factor	教員当たり Impact factor	論文当たり Impact factor
2013	26.036	6.509	3.719

教育活動

氏名・職	職（担当科目）	関係機関名
李 桃生・教授	細胞生物学	長崎大学医学部
李 桃生・教授	全学モジュールⅡ「幹細胞と再生医療」	長崎大学教養教育
浦田芳重・助教	人間生物学, 細胞膜の生化学, 先端機器実習	長崎大学医学部
浦田芳重・助教	全学モジュールⅠ「遺伝子と生命」	長崎大学教養教育
後藤信治・助教	臓器の生化学, 先端機器実習	長崎大学医学部
後藤信治・助教	教養ゼミナール	長崎大学教養教育
李 桃生・教授	非常勤講師（臨床系特別専門講義）	山口大学大学院医学系研究科
浦田芳重・助教	非常勤講師（生化学）	長崎玉成高等学校衛生看護専攻科
浦田芳重・助教	非常勤講師（生物学）	活水女子大学
後藤信治・助教	非常勤講師（生化学）	長崎県中央看護学校
後藤信治・助教	非常勤講師（化学）	九州医学技術専門学校
小野悠介・助教	非常勤講師（分子栄養学）	京都府立大学生命環境科学研究科
小野悠介・助教	非常勤講師（実験技術指導）	京都府立大学生命環境科学研究科
小野悠介・助教	非常勤講師（研究指導）	東北大学大学院医学系研究科

社会活動

氏名・職	委員会等名	関係機関名
李 桃生・教授	構成員・世話人	長崎障害者支援再生医療研究会
李 桃生・教授	Editorial board member	World Journal of Stem Cells
李 桃生・教授	Editorial board member	Current Signal Transduction Therapy
李 桃生・教授	Editorial board member	Chinese Journal of Clinicians
李 桃生・教授	Editorial board member	Current Angiogenesis
李 桃生・教授	Editorial board member	Current Tissue Engineering
李 桃生・教授	評議員（代議員）	日本再生医療学会
李 桃生・教授	審査員	The Czech Science Foundation
李 桃生・教授	審査員	The Israel Science Foundation

氏名・職	委員会等名	関係機関名
小野悠介・助教	実行委員（第69回長崎大会）	日本体力医学会
小野悠介・助教	世話人	第2回骨格筋生物学研究会

民間等との共同研究

氏名・職	共同研究先	研究題目
李 桃生・教授	Shanghai Key Laboratory of Reproductive Medicine	Sensitivity of ionizing radiation-induced injury on different cells
小野悠介・助教	京都府立大学生命環境科学研究科	骨格筋機能をターゲットとしたDNAメチル化制御
小野悠介・助教	大阪大学医学系研究科	筋再生とエピゲノム変化に関する研究

競争的研究資金獲得状況

氏名・職	資金提供元	代表・分担	研究題目
李 桃生・教授	日本学術振興会	代表	挑戦的萌芽研究 新規作成法による組織特異的幹細胞の創出と再生医療への応用
李 桃生・教授	日本学術振興会	分担	基盤研究（B） 脊髄傷害に対する虚血プレコンディショニングの保護効果とその機序の解明
李 桃生・教授	日本学術振興会	分担	基盤研究（C） メカニカルストレスの変化に着目した新たな心筋再生治療法
李 桃生・教授	日本学術振興会	分担	基盤研究（B） 自己骨髄由来幹細胞を用いた心血管再生における新たな治療戦略
李 桃生・教授	日本学術振興会	分担	挑戦的萌芽研究 マイクロRNAによる心筋前駆細胞への分化誘導制御
李 桃生・教授	日本学術振興会	分担	基盤研究（C） 臨床応用を目指した幹細胞プレコンディショニングによる血管細胞治療の効果の向上
後藤信治・助教	日本学術振興会	代表	基盤研究（C） 生体防御調節因子の細胞内挙動に基づく新規がん幹細胞マーカーの探索
小野悠介・助教	日本学術振興会	代表	挑戦的萌芽研究 生体恒常性維持における骨格筋の新たな役割
増田慎也・ 産学官連携研究員	日本学術振興会	代表	研究活動スタート支援 筋インスリン抵抗性に対するnotch2の作用機序及び運動・食事との相互作用の解明
小野悠介・助教	文部科学省	代表	テニユアトラック普及・定着事業（個人選抜型） 骨格筋幹細胞制御によるサルコペニアおよび筋ジストロフィー症の治療法の開発
李 桃生・教授	公益財団法人 持田記念医学薬学振興財団	代表	平成25年度 持田記念研究助成金 新規作成法による組織特異的幹細胞の創出と再生医療への応用
小野悠介・助教	公益財団法人 鈴木謙三記念医科学応用研究財団	代表	平成25年度 調査研究助成金 生体恒常性維持における骨格筋の新たな役割解明と生活習慣病の予防治療戦略

氏名・職	資金提供元	代表・分担	研究題目
小野悠介・助教	公益財団法人 上原記念生命科学財団	代表	平成25年度 研究奨励金 生体恒常性維持における骨格筋の新たな役割
小野悠介・助教	公益財団法人 武田科学振興財団	分担	平成25年度 特定研究助成 代謝変換制御機構に基づく創薬の画期的なプラットフォームの構築

特 許

氏名・職	特許権名称	出願年月日	取得年月日	番号
李 桃生・教授	METHODS FOR ENHANCING YIELD OF STEM CELL CULTURES AND ENHANCING STEM CELL THERAPY	2011年 8月16日	2011年 12月8日	20110300112 (アメリカ)
李 桃生・教授	METHODS AND COMPOSITIONS FOR MAINTAINING GENOMIC STABILITY IN CULTURE STEM CELLS	2011年 4月28日	2011年 11月3日	20110269230 (アメリカ)

放射線生命科学部門

人類遺伝学研究分野（原研遺伝）

スタッフ

教授：吉浦孝一郎

講師：木下 晃

助教：三嶋博之

研究支援推進員：宮崎仁美

技術補佐員：林田知佐

2013年度研究活動実績

1. 疾患ゲノム研究

先天性稀少疾患のゲノム解析を行った。琉球大学遺伝医学教室，和歌山県立医科大学皮膚科学教室，名古屋市立大学小児科学教室等との共同研究により，稀少遺伝子疾患の原因変異・原因遺伝子同定を進めている。次世代型シーケンサー（NGS: next generation sequencer）を使用したexome解析法を基軸として研究を推進している。

2. 歌舞伎症候群研究

歌舞伎症候群は，MLL2遺伝子，KDM6Aの2つの遺伝子が原因として報告されている。これらの遺伝子は，ヒストン修飾に関わる遺伝子であり，歌舞伎症候群の症状発現にエピジェネティック修飾が重要であると考えられる。今後の，歌舞伎症候群におけるエピジェネティック解析を行うために，全国から歌舞伎症候群患者の遺伝子診断を行うとともに，患者末梢有核球の細胞バンク化を行っている。

3. 微量DNAからのゲノム解析用ライブラリー作製法開発

微量DNAをNGSで解析するには，増幅する必要がある。一細胞DNAからの塩基配列決定は今後の課題と思われるので，微量DNAから次世代シーケンサーで解析出来るようなライブラリー構築法を改良している。開発の改良の副産物として，multiplex PCR法，ハイブリダイゼーションを原理としたターゲット領域濃縮法など種々のライブラリー構築法について，各種 kit に頼らないライブラリー構築法が開発できる。

Research activities in the FY 2013.

1. genome analyses of genetic disorders

Genome analyses of genetic disorders have been performed. To identify the causative mutations or causative genes we are collaborating with department of genetics in Rykyu University, department of dermatology in Wakayama Prefectural Medical School, department of pediatrics in Nagoya City University and so on. Our gene hunting work is now based on the whole exome sequencing (WES) using Next-Generation Sequencer (NGS).

2. Research for Kabuki Syndrome

It has been reported that MLL2 and KDM6A gene mutated in the patients with Kabuki Syndrome. These genes are related to the epigenetic modification and it is thought that the epigenetic modification can be one of important factors for expression of symptoms in Kabuki Syndrome. To analyze the epigenetic change in Kabuki syndrome, we are collecting cells with nucleus from patients' peripheral blood and making cell bank proposing genetic test.

3. developing the way of constructing library for NGS sequencing from tiny amount of DNA

DNA should be amplified for NGS analyses at the present situation. To analyze DNA from one cell in the near future, we are developing the efficient method for construction of the library that is immediate challenge. In the course of developing the method, we developed the DNA enrichment method by multiplexing PCR or hybridization and library construction method without commercial kits.

業績

A 欧文

A-a

1. Sasaki K, Mishima H, Miura K, Yoshiura KI : Uniparental disomy analysis in trios using genome-wide SNP array and whole-genome sequencing data imply segmental uniparental isodisomy in general populations. *Gene* 512(2): 267-274, 2013(IF:2.196) * ◇
2. Yamada A, Ishikawa T, Ota I, Kimura M, Shimizu D, Tanabe M, Chishima T, Sasaki T, Ichikawa Y, Morita S, Yoshiura KI, Takabe K, Endo I: High expression of ATP-binding cassette transporter ABCC11 in breast tumors is associated with aggressive subtypes and low disease-free survival. *Breast Cancer Res Treat* 137(3): 773-782, 2013(IF:4.469) *
3. Higashijima A, Miura K, Mishima H, Kinoshita A, Jo O, Abe S, Hasegawa Y, Miura S, Yamasaki K, Yoshida A, Yoshiura K, Masuzaki H: Characterization of placenta-specific microRNAs in fetal growth restriction pregnancy. *Prenat Diagn* 33(3): 214-222, 2013(IF:2.683) * ○◇
4. Abe S, Miura K, Kinoshita A, Mishima H, Miura S, Yamasaki K, Hasegawa Y, Higashijima A, Jo O, Sasa K, Yoshida A, Yoshiura K, Masuzaki H: Copy number variation of the antimicrobial-gene, defensin beta 4, is associated with susceptibility to cervical cancer. *J Hum Genet* 58(5): 250-253, 2013(IF:2.365) * ○◇
5. Kashiyama K, Nakazawa Y, Pilz D, Guo C, Shimada M, Sasaki K, Fawcett H, Wing J, Lewin S, Carr L, Yoshiura K, Utani A, Hirano A, Yamashita S, Greenblatt D, Nardo T, Stefanini M, McGibbon D, Sarkany R, Fassihi H, Takahashi Y, Nagayama Y, Mitsutake N, Lehmann AR, and Ogi T: Malfunction of the ERCC1/XPF endonuclease results in diverse clinical manifestations and causes three nucleotide excision-repair-deficient disorders, Cockayne Syndrome, xeroderma pigmentosum and Fanconi Anemia. *Am J Hum Genet* 92(5): 807-819, 2013(IF:11.202) *
6. Miyake N, Koshimizu E, Okamoto N, Mizuno S, Ogata T, Nagai T, Kosho T, Ohashi H, Kato M, Sasaki G, Mabe H, Watanabe Y, Yoshino M, Matsuishi T, Takashi J, Shotelersuk V, Tekin M, Ochi N, Kubota M, Ito N, Ihara K, Hara T, Tonoki H, Ohta T, Saito K, Matsuo M, Urano M, Enokizono T, Sato A, Tanaka H, Ogawa A, Fujita T, Hiraki Y, Kitanaka S, Matsubara Y, Makita T, Taguri M, Nakashima M, Tsurusaki Y, Saito H, Yoshiura K, Matsumoto N, Niikawa N: MLL2 and KDM6A mutations in patients with Kabuki syndrome. *Am J Med Gene A*. 161(9): 2234-2243, 2013(IF:2.304) *
7. Nakao K, Oikawa M, Arai J, Mussazhanova Z, Kondo H, Shichijo K, Nakashima M, Hayashi T, Yoshiura K, Hatachi T, Nagayasu T: A Predictive Factor of the Quality of Microarray Comparative Genomic Hybridization Analysis for Formalin-fixed Paraffin-embedded Archival Tissue. *Diagn Mol Pathol* 22(3): 174-180, 2013(IF:1.861) *
8. Hasegawa Y, Miura K, Furuya K, Yoshiura K, Masuzaki H: Identification of Complete Hydatidiform Mole Pregnancy-Associated MicroRNAs in Plasma. *Clin Chem* 59(9): 1410-1412, 2013(IF:7.149) * ◇
9. Higashimoto K, Maeda T, Okada J, Ohtsuka Y, Sasaki K, Hirose A, Nomiyama M, Takayanagi T, Fukuzawa R, Yatsuki H, Koide K, Nishioka K, Joh K, Watanabe Y, Yoshiura KI, Soejima H: Homozygous deletion of DIS3L2 exon 9 due to non-allelic homologous recombination between LINE-1s in a Japanese patient with Perlman syndrome. *Eur J Hum Genet* 21(11):1316-1319, 2013(IF:4.319) *
10. Hamaguchi D, Miura K, Abe S, Kinoshita A, Miura S, Yamasaki K, Yoshiura KI, Masuzaki H: Initial viral load in cases of single human papillomavirus 16 or 52 persistent infection is associated with progression of later cytopathological findings in the uterine cervix. *J Med Virol* 85(12): 2093-2100, 2013(IF:2.373) * ◇

A-b

1. Ishikawa T, Toyoda Y, Yoshiura K, Niikawa N: Pharmacogenetics of human ABC transporter ABCC11: new insights into apocrine gland growth and metabolite secretion. *Front Genet* 3:306., 2013

B 邦文

B-b

1. Ogi T, Nakazawa Y, Sasaki K, Guo C, Yoshiura K, Utani A, Nagayama Y: [Molecular cloning and characterisation of UVSSA, the responsible gene for UV-sensitive syndrome] . Seikagaku. 85 (3) : 133-144, 2013. Review. Japanese. No abstract available.

B-c

1. 吉浦孝一郎：遺伝性疾患におけるエクソーム解析の有用性と近将来. 医学のあゆみ245(5):363-368, 2013.
2. 三嶋博之：全エクソーム解析における情報処理. 医学のあゆみ245(5):345-351, 2013.
3. 黒滝直弘, 小野慎二, 小澤寛樹, 吉浦孝一郎：発作性運動誘発性舞蹈アテトーゼの分子メカニズム. 神経内科79(6):718-725, 2013.

B-d

1. 吉浦孝一郎（研究代表）：地域集積・収集した稀少疾患の系統的原因究明（難病・がん等の疾患分野の医療の実用化研究事業（難病関係研究分野））総括・分担研究報告pp: 1-27, 2012.

学会発表

A 欧文

A-b

1. 第63回アメリカ人類遺伝学会 ポスター発表 吉浦孝一郎・教授 2013年10月24日 アメリカ

B 邦文

B-a

1. ヒト疾患の次世代Gene Hunting. CiRA Genomics, Epigenomics and Bioinformatics Seminar Series Gene 三嶋博之・助教 2013年5月16日 京都
2. 次世代シーケンサーを用いたGene Hunting 三嶋博之・助教 2013年3月12日 北海道

B-b

1. 公開シンポジウム－次世代遺伝子解析装置を用いた難病の原因究明, 治療法開発研究プロジェクトの成果－ 吉浦孝一郎・教授 2013年7月13日 東京
2. Gene Hunting: できること・できないこと 三嶋博之・助教 2013年10月29日 東京

論文数一覧

	A-a	A-b	A-c	A-d	A-e	合計	SCI	B-a	B-b	B-c	B-d	B-e	合計	総計
2013	10	1	0	0	0	11	10	0	1	3	1	0	5	16

学会発表数一覧

	A-a	A-b		合計		B-a	B-b		合計	総計
		シンポジウム	学会				シンポジウム	学会		
2013	0	0	1	1		2	2	7	11	12

論文総数に係る教員生産係数一覧

	欧文論文総数 論文総数	教員生産係数 (欧文論文)		SCI掲載論文数 欧文論文総数	教員生産係数 (SCI掲載論文)
2013	0.688	3.667		0.909	3.333

Impact factor 値一覧

	Impact factor	教員当たり Impact factor	論文当たり Impact factor
2013	40.921	13.64	4.092

教育活動

氏名・職	職（担当科目）	関係機関名
吉浦孝一郎・教授	分子遺伝系	長崎大学医学部医学科
吉浦孝一郎・教授	細胞生物学	長崎大学医学部医学科
吉浦孝一郎・教授	人間生物学	長崎大学医学部医学科
吉浦孝一郎・教授	モジュール講義「心身の健康と生命」	長崎大学全学教育
木下 晃・講師	モジュール講義「心身の健康と生命」	長崎大学全学教育
吉浦孝一郎・教授	非常勤講師（遺伝学）	横浜市立大学
木下 晃・講師	非常勤講師（遺伝子染色体検査学）	九州医療技術専門学校
吉浦孝一郎・教授	非常勤講師（高大連携事業）	長崎県立西高等学校

社会活動

氏名・職	委員会等名	関係機関名
吉浦孝一郎・教授	評議員	日本人類遺伝学会
吉浦孝一郎・教授	委員	長崎県原子爆弾被爆者対策協議会
吉浦孝一郎・教授	運営部会委員	長崎・ヒバクシャ医療国際協力会
吉浦孝一郎・教授	研究推進委員	(社) 沖縄総合科学研究所
吉浦孝一郎・教授	遺伝子に関する倫理委員会 委員	(公) 放射線影響研究所

競争的研究資金獲得状況

氏名・職	資金提供元	代表・分担	研究題目
吉浦孝一郎・教授	厚生労働省	代表	難病・がん等の疾患分野の医療の実用化研究事業（難病関係研究分野） 地域集積・収集した稀少疾患の系統的原因究明
吉浦孝一郎・教授	厚生労働省	分担	難治性疾患克服研究事業 先天性異常の疾患群の診療指針と治療法開発をめざした情報・検体共有のフレームワークの確立
吉浦孝一郎・教授	日本学術振興会	代表	科学研究費補助金（基盤研究（B）） 歌舞伎症候群解析から広げる全ゲノム対象エピジェネティック解析法の開発
吉浦孝一郎・教授	日本学術振興会	代表	科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究） 歌舞伎症候群解析から広げる全ゲノム対象エピジェネティック解析法の開発
木下 晃・講師	厚生労働省	代表	難治性疾患克服研究事業 カムラチー・エンゲルマン病の治療法の確立： 新規遺伝子探索，モデル構築，分子標的治療薬の探索
木下 晃・講師	日本学術振興会	代表	科学研究費補助金（基盤研究（C）） プロテアソーム不全と炎症疾患：細胞ストレスによる新たな発症機序の解明

5. 研究活動概要－放射線生命科学部門

氏名・職	資金提供元	代表・分担	研究題目
三嶋博之・助教	日本学術振興会	代表	科学研究費補助金（基盤研究（C）） ヒト全ゲノムシーケンスのための統合ア ノテーションワークフローの構築

特 許

氏名・職	特許権名称	出願年月日	取得年月日	番号
吉浦孝一郎・教授 新川詔夫・教授	耳垢型又は腋下臭症の評価方法	2005年 6月17日	平成24年 4月13日	特許第4967135号
吉浦孝一郎・教授	胎盤機能の網羅的かつ非侵襲的評価方法および 検査用試薬	2007年 4月13日	平成26年 3月7日	特許第5487555号

放射線生命科学部門

分子医学研究分野（原研分子）

スタッフ

教授：永山雄二

准教授：萩 朋男

助教：蔵重智美

助教：中沢由華

研究機関研究員：郭 朝万，勝木洋子

学術振興会PD：佐々木健作

客員研究員：中原麻美

大学院生：安井和明，嶋村美加，野崎彩

学部生（研究医コース）：濱田航一郎

技能補佐員：嶋田繭子

事務補佐員：玉利徳子，松永知子，片山香織

2013年度研究活動実績

1. 甲状腺癌の研究では、甲状腺乳頭癌原因遺伝子の1つである変異BRAFによる発癌機構研究のためにコンディショナルトランスジェニックマウス、甲状腺特異的Cre発現アデノウイルスを作製し、胎児期と出生後、甲状腺全体と一部発現の場合の発癌を比較検討した。このマウスはTPO-Creと交配すると胎児期から変異BRAFを発現して甲状腺癌を発症するが、生後Cre発現アデノウイルスを甲状腺に局注して変異BRAFを発現させると癌化は認められなかった。また、甲状腺癌の増殖と進展に関して、上皮間質移行（EMT）と癌幹細胞の関連を検討するため、EMT転写因子SNAIL強制発現系を用いて甲状腺癌、特に癌幹細胞の性質を解析したところ、甲状腺癌幹細胞マーカーであるALDH陰性分画の癌幹細胞性質を増加させた。
2. 放射線によって生じるDNA損傷修復システムの分子メカニズムの解析を通して、放射線誘発がんの分子病態の解明及びがん治療薬の開発を目指している。DNA損傷修復とそのチェックポイント機構に異常を示す、ゼッケル症候群（SS）、コケイン症候群（CS）、紫外線高感受性症候群（UV^sS）、色素性乾皮症（XP）、重複免疫不全（SCID）などのゲノム不安定性疾患の臨床診断を行いながら、新規疾患責任遺伝子を探索している。これまでに約350検体を収集・解析し、5つの新規疾患責任遺伝子（ATRIP, ERCC1, XPF, UVSSA, PRKDC）を同定した。現在は、これらの遺伝子産物の詳細な分子機能解析を実施しているほか、新たな責任遺伝子探索を進めている。

Research activities in the FY 2013.

1. In thyroid cancer projects, transgenic mice which conditionally express the mutant BRAF, a frequent oncogene in papillary thyroid carcinoma, exclusively in the thyroids in the presence of Cre DNA recombinase and recombinant adenovirus expressing Cre under the control of thyroglobulin promoter were generated in order to compare the oncogenicity of the mutant BRAF when expressed in fetal period versus after the birth and in the whole thyroid lobes versus a fraction of thyrocytes. These mice developed thyroid cancers when they were crossed with TPO-Cre mice and expressed the mutant BRAF in the whole thyroids from the fetal periods, but did not when they were intrathyroidally injected with adenovirus expressing Cre under the control of thyroglobulin promoter after the birth. Regarding thyroid cancer proliferation and extension, the consequences of forced expression of SNAIL, an EMT-related transcription factor, in an epithelial-type thyroid cancer cell line were studied to clarify the relationship between epithelial to mesenchymal transition (EMT) and

cancer stem cells (CSC). SNAIL-induction of EMT increased the stem property in aldehyde dehydrogenase (a marker for thyroid CSC)-positive fraction of the cells.

2. We also focus on molecular mechanisms of DNA damage repair and checkpoint signaling pathways so that we can understand the various DNA damage-induced carcinogenesis and their potential drug discovery. A malfunction in DNA repair system often results in cancer predisposition diseases. We've investigated pathogenic changes responsible for Seckel syndrome (SS), Cockayne syndrome (CS), UV-sensitive syndrome (UV^SS), xeroderma pigmentosum (XP) and severe combined immune deficiency (SCID), all of which are characterised by a malfunction of one of the DNA repair / damage checkpoint signaling pathways. We recently identified disease causative genetic changes in *ATRIP* (SS), *ERCC1* (CS), *XPF* (CS), *KIAA1530/UVSSA* (UV^SS), and *PRKDC* (SCID) genes in the affected individuals. We are currently further studying their molecular pathogenesis as well as detailed molecular mechanisms responsible for the genome integrity.

業績

論文

A 欧文

A-a

1. Johnson KTM, Ziler B, Schott M, Müller M, Minich WB, Nagayama Y, Gulbins E, Eckstein AK, Berchner-Pfannschmidt U: Examination of Orbital Tissues in Murine Models of Graves' Disease reveals expression of UCP-1 and the TSHR in retrobulbar adipose tissues. *Hor Metb Res* 45(6):401-407, 2013(IF:2.145) *
2. Kobayashi M, Kaneko-koike C, Abiru N, Uchida T, Akazawa S, Nakamura K, Kuriya G, Satoh T, Ida H, Kawasaki E, Yamasaki H, Nagayama Y, Sasak H, Kawakami A: Genetic deletion of Granzyme B does not confer resistance to the development of spontaneous diabetes in NOD mice. *Clin Exp Immunol* 173(3):411-418,2013(IF:3.409) * ★
3. Kuriya G, Abiru N, Kobayashi M, Nagayama Y, Akazawa S, Nakamura K, Sato T, Horie I, Kuwahara H, Kawasaki E, Yamasaki H, Yu L, Eisenbarth GS, Iwakura Y, Eguchi K: Double deficiency in IL-17 and IFN-g signaling significantly suppresses the development of diabetes in the NOD mouse. *Diabetologia* 56(8):1773-1780,2013(IF:6.487) * ★
4. Yasui K, Shimamura M, Mitsutake N, Nagayama Y: SNAIL Induces Epithelial-to-Mesenchymal Transition but not Cancer Stem Cell-like Properties in Thyroid Cancer. *Thyroid* 23(8):989-996,2013(IF:3.544) * ○
5. Shimamura M, Nakahara M, Orim F, Kurashige T, Mitsutake N, Nakashima M, Kondo S, Yamada M, Taguchi R, Kimura S, Nagayama Y: Postnatal expression of BRAFV600E does not induce thyroid cancer in mouse models of thyroid papillary carcinoma. *Endocrinology* 154(11):4423-30,2013(IF:4.717) * ★
6. Woodbine L, Neal JA, Sasi NK, Shimada M, Deem K, Coleman H, Dobyns WB, Ogi T, Meek K, Davies EG, Jeggo PA: PRKDC mutations in a SCID patient with profound neurological abnormalities. *J Clin Invest* 123(7):2969-80, 2013(IF:12.812) * ◇
7. Kashiyama K, Nakazawa Y, Pilz DT, Guo C, Shimada M, Sasaki K, Fawcett H, Wing JF, Lewin SO, Carr L, Li TS, Yoshiura K, Utani A, Hirano A, Yamashita S, Greenblatt D, Nardo T, Stefanini M, McGibbon D, Sarkany R, Fassih H, Takahashi Y, Nagayama Y, Mitsutake N, Lehmann AR, Ogi T: Malfunction of nuclease ERCC1-XPF results in diverse clinical manifestations and causes Cockayne syndrome, xeroderma pigmentosum, and Fanconi anemia. *Am J Hum Genet* 92(5):807-19, 2013(IF:11.202) * ◇

B 邦文

B-b

1. Ogi T, Nakazawa Y, Sasaki K, Guo C, Yoshiura K, Utani A, Nagayama Y: Molecular cloning and characterisation of UVSSA, the responsible gene for UV-sensitive syndrome. *Seikagaku* 85(3):133-44, 2013 ◇

学会発表

A 欧文

A-a

1. 11th International Conference of Environmental Mutagens (ICEM) 招待講演 荻朋男・准教授 2013年11月8日 ブラジル

A-b

1. The International Kick-Off Symposium for Atomic Bomb Disease Institute at Nagasaki University 一般講演 荻朋男・准教授 2013年11月28日 長崎
2. 11th International Conference of Environmental Mutagens (ICEM) 中沢由華・助教 2013年11月8日 ブラジル

B 邦文

B-a

1. 日本環境変異原学会 変異機構研究会第26回夏の学校 招待講演 荻朋男・准教授 2013年6月22日 一宮
2. 第31回日本美容皮膚科学会総会・学術大会 招待講演 荻朋男・准教授 2013年8月10日 神戸

論文数一覧

	A-a	A-b	A-c	A-d	A-e	合計	SCI	B-a	B-b	B-c	B-d	B-e	合計	総計
2013	7	0	0	0	0	7	7	0	1	0	0	0	1	8

学会発表数一覧

	A-a	A-b		合計		B-a	B-b		合計	総計
		シンポジウム	学会				シンポジウム	学会		
2013	1	1	1	3		2	0	6	8	11

論文総数に係る教員生産係数一覧

	欧文論文総数 論文総数	教員生産係数 (欧文論文)		SCI掲載論文数 欧文論文総数	教員生産係数 (SCI掲載論文)
2013	0.875	1.75		1	1.75

Impact factor 値一覧

	Impact factor	教員当たり Impact factor	論文当たり Impact factor
2013	44.316	11.079	6.331

教育活動 (※原研業績集にて掲載。)

氏名・職	担当科目	関係機関名
永山雄二・教授	全学モジュールI「先進医学と現代社会(細胞と放射線)」	長崎大学教養教育
永山雄二・教授	細胞生物学	長崎大学医学部
永山雄二・教授	人間生物学	長崎大学医学部
永山雄二・教授	内臓機能・体液系II	長崎大学医学部
永山雄二・教授	分子遺伝	長崎大学医学部
永山雄二・教授	基礎医学TBL	長崎大学医学部
荻朋男・准教授	全学モジュールI「先進医学と現代社会(細胞と放射線)」	長崎大学教養教育
荻朋男・准教授	分子遺伝	長崎大学医学部

社会活動

氏名・職	委員会等名	関係機関名
永山雄二・教授	長崎・ヒバクシャ医療国際協力会 運営部会 委員	長崎県
永山雄二・教授	長崎原子爆弾後障害研究会 会長	長崎市
永山雄二・教授	長崎市原子爆弾放射線影響研究会 委員	長崎市
萩朋男・准教授	Molecular and Cellular Biology誌 編集委員	アメリカ微生物学会

民間等との共同研究（※原研及び医学部業績集にて掲載。医歯業業績集では競争的資金に転載。）

氏名・職	共同研究先	研究題目
萩朋男・准教授	カネボウ化粧品株式会社	光線過敏及び早期老化を示す遺伝性DNA修復 欠損疾患の遺伝子探索と機能解析

競争的研究資金獲得状況

氏名・職	資金提供元	代表・分担	研究題目
永山雄二・教授	日本学術振興会	代表	基盤研究（C） 甲状腺自己免疫の研究：マウスにおける抗 TSH受容体免疫反応と免疫寛容
永山雄二・教授	長崎大学	代表	大学高度化推進経費 長崎大学第二期中期目標・中期計画における 重点研究 放射線健康影響リスク制御国際戦 略拠点
中原麻美・ 客員研究員	日本学術振興会	代表	若手研究（B） よりよいバセドウ病・バセドウ病眼症マウス モデルの作製
萩朋男・准教授	日本学術振興会	代表	若手研究（A） 紫外線感受性症候群責任因子によるRNAポリ メラーゼユビキチン化と待避機構の解析
萩朋男・准教授	日本学術振興会	代表	挑戦的萌芽研究 ヌクレオチド除去修復欠損性日光過敏症のウ イルス発現系とゲノム解析による網羅的探索
萩朋男・准教授	長崎大学	代表	大学高度化推進経費 長崎大学第二期中期目標・中期計画における 重点研究 ゲノム不安定性と発がん分子メカ ニズムの基礎的研究拠点形成
萩朋男・准教授	宇部興産学術振興財団	代表	第53回学術奨励賞 ヌクレオチド除去修復機構におけるUVSSAの 機能および発がん/老化抑制機構の解明
中沢由華・助教	科学技術振興機構	代表	テニュアトラック普及定着事業 個人選抜型 先天性DNA修復欠損性疾患の分子病態
中沢由華・助教	日本学術振興会	代表	若手研究（B） NER欠損性疾患の診断及び新規NER因子の探 索と機能解析
中沢由華・助教	稲盛財団	代表	稲盛財団研究助成 紫外線高感受性症候群の責任遺伝子UVSSAの 分子機能解析および老化メカニズムの解明

氏名・職	資金提供元	代表・分担	研究題目
中沢由華・助教	日本科学協会	代表	平成25年度笹川科学研究助成学術研究部門 損傷DNA修復機構の1つである転写共役ヌクレ オチド除去修復機構開始反応の詳細解明
郭朝万・ 研究機関研究員	日本学術振興会	代表	若手研究（B） 新規転写共役修復因子UVSSAの精製と生化学 的解析
嶋田繭子・ プロジェクト研究員	長崎大学	代表	大学高度化推進経費 紫外線感受性症候群，色素性乾皮症，コケイ ン症候群の新規責任因子の同定
佐々木健作・学振PD	武田科学振興財団	代表	医学系研究奨励（基礎） DNA修復によるゲノム完全性維持とゲノム不 安定性の分子機構の解明

その他

新聞等に掲載された活動

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
荻朋男・准教授	がん/老化/骨格異常 に 関 与 す る DNA 修 復 遺 伝 子 を 同 定	読売新聞, 長崎新聞	2013年 4月26日	がん/老化/骨格異常に 関 与 す る DNA 修 復 遺 伝 子 を 同 定 し た . ゲ ノ ム 不 安 定 性 を 呈 する 遺 伝 性 疾 患 に 関 連 す る 様 々 な DNA 修 復 遺 伝 子 と そ の 機 能 を 解 明 す る 事 で , 社 会 的 に 関 心 の 高 い 老 化 や が ん 化 の メ カ ニ ズ ム 解 明 に つ な が る .

特筆すべき事項（※医歯薬業績集にて掲載。）

①記者会見

2013年4月25日

長崎大学原爆後障害医療研究所

がん/老化/骨格異常に 関 与 す る DNA 修 復 遺 伝 子 を 同 定

～抗がん剤による白血病や胃がんなどのテーラーメイド医療や新規抗がん剤の開発への利用に期待～

原爆・ヒバクシャ医療部門

血液内科学研究分野（原研内科）

スタッフ

教授：宮崎泰司

准教授：波多智子

講師：今泉芳孝

助教：田口 潤

助教：今西大介

助教：澤山 靖

大学院生：松尾真稔，加藤丈晴，田口正剛，中島 潤，上条玲奈，北之園英明，

蓬萊真喜子，牧山純也，谷口広明，馬場真紀

技術補佐員：金澤かな子

研究支援推進員：浦上裕艶

事務補佐員：川辺奈々，小松真純，塩崎千恵

2013年度研究活動実績

当科では研究所の臨床部門として（1）原爆被爆者に生じた疾病，特に造血器腫瘍の研究，（2）造血器悪性腫瘍の診断並びに治療に関する研究，（3）造血器腫瘍の病態解析研究を推進している。2013年度は特に，以下の様な研究を進めた。

（1）原爆被爆者にみられる造血器腫瘍の疫学的研究

放射線影響研究所との共同研究としてLife span studyコホートで観察された造血器悪性腫瘍，特に白血病，骨髄腫，悪性リンパ腫の発生について1950年～2001年までのデータをまとめた。その結果，白血病，特に急性骨髄性白血病の発症リスクが被爆後45年を経てもなお有意に上昇していることが明らかとなった。

（2）白血病ならびに悪性リンパ腫に関する治療研究

Japan Clinical Oncology GroupおよびJapan Adult Leukemia Study Groupとの共同研究を推進し，悪性リンパ腫，成人白血病の治療研究を実施した。また，成人T細胞白血病に対する同種造血幹細胞移植の成績について検討を行った。

（3）白血病の分子病態の解析研究

急性骨髄性白血病に高頻度に視られるNPM1遺伝子変異が，転写因子ELF4機能の活性化を通じて，HDM2機能に影響を与える事を明らかにした。NPM1変異と白血病化の関連を示唆する結果が得られた。

Research activities in the FY 2013.

In Department of Hematology, as a clinical department of the Institute, we pursued our study regarding (1) diseases among atomic bomb survivors, especially hematological tumors, (2) diagnosis and treatment for hematological malignancies, (3) pathophysiological analysis of hematological malignancies. In the fiscal year of 2013, we could demonstrate the results;

(1) Epidemiological study of hematological malignancies among atomic bomb survivors.

As a collaborative study with Radiation Effect Research Foundation, the incidence of leukemia, myeloma, and malignant lymphoma in the life span study cohort was analyzed. It was demonstrated that the incidence of leukemia, especially acute myeloid leukemia was significantly elevated even 45 years or more after the atomic bombing.

(2) Studies for the treatment of hematological malignancies

As a member of Japan Clinical Oncology Group and Japan Adult Leukemia Study Group, we joined clinical trials for malignant lymphoma and adult leukemias. We also analyzed the results of allogeneic hematopoietic stem cell transplantation for adult T-cell leukemia.

(3) Studies for molecular mechanism of leukemia

Mutation of the NPM1 gene is one of the most frequent among adult acute myeloid leukemia. We analyzed the effect of this mutation on a transcription factor, ELF4, and showed that NPM1 mutation up-regulated the transcriptional function of ELF4, resulting in the increased transcription of HMD2. This suggested that NPM1 mutation could contribute to leukemogenesis through TP53 pathway.

業績

論文

A 欧文

A-a

1. Itonaga H, Tsushima H, Taguchi J, Fukushima T, Taniguchi H, Sato S, Ando K, Sawayama Y, Matsuo E, Yamasaki R, Onimaru Y, Imanishi D, Imaizumi Y, Yoshida S, Hata T, Moriuchi Y, Uike N, Miyazaki Y: Treatment of relapsed adult T-cell leukemia/lymphoma after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation: the Nagasaki Transplant Group experience. *Blood* 121(1): 219-225, 2013 (IF:9.060) * ○
2. Matsuda A, Germing U, Miyazaki Y: Correlation between the low marrow blast cutpoint and WHO classification for myelodysplastic syndromes. *Eur J Haematol* 90(1): 79-80, 2013 (IF:2.548) *
3. Ogura M, Itoh K, Ishizawa K, Kobayashi Y, Tobinai K, Kinoshita T, Hirano M, Ueda R, Shibata T, Nakamura S, Tsukasaki K, Hotta T, Shimoyama M, Morishima Y; for the Lymphoma Study Group (LSG) of the Japan Clinical Oncology Group (JCOG) : Phase II study of ABV (doxorubicin with increased dose, bleomycin and vinblastine) therapy in newly diagnosed advanced-stage Hodgkin lymphoma: Japan Clinical Oncology Group study (JCOG9705). *Leuk Lymphoma* 54(1): 46-52, 2013 (IF:2.301) *
4. Niino D, Tsuchiya T, Tomonaga M, Miyazaki Y, Ohshima K: Clinicopathological features of acute megakaryoblastic leukaemia: Relationship between fibrosis and platelet-derived growth factor. *Pathol Int* 63(3): 141-149, 2013 (IF:1.722) *
5. Ando K, Tsushima H, Matsuo E, Horio K, Tomonaga-Sato S, Imanishi D, Imaizumi Y, Iwanaga M, Itonaga H, Yoshida S, Hata T, Moriuchi R, Kiyoi H, Nimer S, Mano H, Naoe T, Tomonaga M, Miyazaki Y: Mutations in the nucleolar phosphoprotein, nucleophosmin, promote the expression of the oncogenic transcription factor MEF/ELF4 in leukemia cells and potentiates transformation. *J Biol Chem* 288(13): 9457-9467, 2013 (IF:4.651) * ◇
6. Hsu WL, Preston DL, Soda M, Sugiyama H, Funamoto S, Kodama K, Kimura A, Kamada N, Dohy H, Tomonaga M, Iwanaga M, Miyazaki Y, Cullings HM, Suyama A, Ozasa K, Shore RE, Mabuchi K : The Incidence of Leukemia, Lymphoma and Multiple Myeloma among Atomic Bomb Survivors: 1950-2001. *Radiat Res* 179(3): 361-382, 2013 (IF:2.698) *
7. Itonaga H, Taguchi J, Fukushima T, Tsushima H, Sato S, Ando K, Sawayama Y, Matsuo E, Yamasaki R, Onimaru Y, Imanishi D, Imaizumi Y, Yoshida S, Hata T, Moriuchi Y, Honda S, Miyazaki Y: Distinct Clinical Features of Infectious Complications in Adult T Cell Leukemia /Lymphoma Patients after Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation: A Retrospective Analysis in the Nagasaki Transplant Group. *Biol Blood Marrow Transplant* 19(4): 607-615, 2013 (IF:3.940) *
8. Fukushima T, Itonaga H, Moriuchi Y, Yoshida S, Taguchi J, Imaizumi Y, Imanishi D, Tsushima H, Sawayama Y, Matsuo E, Hata T, Miyazaki Y: Feasibility of cord blood transplantation in chemosensitive adult T-cell leukemia/lymphoma: a retrospective analysis of the Nagasaki Transplantation Network. *Int J Hematol* 97(4): 485-490, 2013 (IF: 1.681) *
9. Yanada M, Tsuzuki M, Fujita H, Fujimaki K, Fujisawa S, Sunami K, Taniwaki M, Ohwada A, Tsuboi K, Maeda A, Takeshita A, Ohtake S, Miyazaki Y, Atsuta Y, Kobayashi Y, Naoe T, Emi N: Phase 2 study of arsenic trioxide followed by autologous hematopoietic cell transplantation for relapsed acute promyelocytic leukemia. *Blood* 121(16): 3095-3102, 2013 (IF: 9.060) *
10. Yoshida N, Nishikori M, Izumi T, Imaizumi Y, Sawayama Y, Niino D, Tashima M, Hoshi S, Ohshima K, Shimoyama M, Seto M, Tsukasaki K : Primary peripheral T-cell lymphoma, not otherwise specified of the thyroid with autoimmune thyroiditis. *Br J Haematol* 161(2): 214-223, 2013 (IF: 4.942) *
11. Taguchi M, Imaizumi Y, Taguchi J, Imanishi D, Sasaki D, Hasegawa H, Tsushima H, Hata T, Miyazaki Y: Transient proliferation of donor-derived ATL cell-like lymphocytes early after allogeneic stem cell transplantation in an adult T-cell leukemia/lymphoma patient. *Blood* 121(21): 4428-4430, 2013 (IF: 9.060) *
12. Nakasone H, Kanda J, Yano S, Atsuta Y, Ago H, Fukuda T, Kakihana K, Adachi T, Yujiri T, Taniguchi S, Taguchi J,

- Morishima Y, Nagamura T, Sakamaki H, Mori T, Murata M; GVHD Working Group of the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation: A case-control study of bronchiolitis obliterans syndrome following allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. *Transpl Int* 26(6): 631-639, 2013(IF: 3.155) *
13. Ueda Y, Mizutani C, Nannya Y, Kurokawa M, Kobayashi S, Takeuchi J, Tamura H, Ogata K, Dan K, Shibayama H, Kanakura Y, Niimi K, Sasaki K, Watanabe M, Emi N, Teramura M, Motoji T, Kida M, Usuki K, Takada S, Sakura T, Ito Y, Ohyashiki K, Ogawa H, Suzuki T, Ozawa K, Imai K, Kasai M, Hata T, Miyazaki Y, Morita Y, Kanamaru A, Matsuda A, Tohyama K, Koga D, Tamaki H, Mitani K, Naoe T, Sugiyama H, Takaku F: Clinical evaluation of WT1 mRNA expression levels in peripheral blood and bone marrow in patients with myelodysplastic syndromes. *Leuk Lymphoma* 54(7): 1450-1458, 2013(IF: 2.301) *
 14. Matsuda A, Jinnai I, Iwanaga M, Okamura D, Ishikawa M, Maeda T, Hata T, Kawai N, Miyazaki Y, Bessho M, Tomonaga M: Correlation Between Dysplastic Lineage and Type of Cytopenia in Myelodysplastic Syndromes Patients With Refractory Anemia According to the FAB Classification. *Am J Clin Pathol* 140(2): 253-257, 2013(IF: 2.881) *
 15. Kako S, Morita S, Sakamaki H, Iida H, Kurokawa M, Miyamura K, Kanamori H, Hara M, Kobayashi N, Morishima Y, Kawa K, Kyo T, Sakura T, Jinnai I, Takeuchi J, Miyazaki Y, Miyawaki S, Ohnishi K, Naoe T, Kanda Y: The role of HLA-matched unrelated transplantation in adult patients with Ph chromosome-negative ALL in first remission. A decision analysis. *Bone Marrow Transplant* 48(8): 1077-1083, 2013(IF: 3.541) * ○
 16. Nakamura H, Iwamoto N, Horai Y, Takagi Y, Ichinose K, Kawashiri S, Taguchi J, Hayashi T, Nakamura T, Kawakami A: A case of adult T-cell leukemia presenting primary Sjögren's syndrome-like symptoms. *Int J Rheum Dis* 16(4): 489-492, 2013(IF: 1.650) *
 17. Iriyama N, Hatta Y, Takeuchi J, Ogawa Y, Ohtake S, Sakura T, Mitani K, Ishida F, Takahashi M, Maeda T, Izumi T, Sakamaki H, Miyawaki S, Honda S, Miyazaki Y, Taki T, Taniwaki M, Naoe T: CD56 expression is an independent prognostic factor for relapse in acute myeloid leukemia with t(8;21). *Leuk Res* 37(9): 1021-1026, 2013(IF: 2.764) *
 18. Shinohara Y, Takahashi N, Nishiwaki K, Hino M, Kashimura M, Wakita H, Hatano Y, Hirasawa A, Nakagawa Y, Itoh K, Masuoka H, Aotsuka N, Matsuura Y, Takahara S, Sano K, Kuroki J, Hata T, Nakamae H, Mugitani A, Nakane T, Miyazaki Y, Niioka T, Miura M, Sawada K: A multicenter clinical study evaluating the confirmed complete molecular response rate in imatinib-treated patients with chronic phase chronic myeloid leukemia by using the international scale of real-time quantitative polymerase chain reaction. *Haematologica* 98(9): 1407-1413, 2013(IF: 5.935) *
 19. Yanada M, Ohtake S, Miyawaki S, Sakamaki H, Sakura T, Maeda T, Miyamura K, Asou N, Oh I, Miyatake J, Kanbayashi H, Takeuchi J, Takahashi M, Dobashi N, Kiyoi H, Miyazaki Y, Emi N, Kobayashi Y, Ohno R, Naoe T; for the Japan Adult Leukemia Study Group: The demarcation between younger and older acute myeloid leukemia patients: A pooled analysis of 3 prospective studies. *Cancer* 119(18): 3326-3333, 2013(IF: 5.201) *
 20. Fujita H, Asou N, Iwanaga M, Hyo R, Nomura S, Kiyoi H, Okada M, Inaguma Y, Matsuda M, Yamauchi T, Ohtake S, Izumi T, Nakaseko C, Ishigatsubo Y, Shinagawa K, Takeshita A, Miyazaki Y, Ohnishi K, Miyawaki S, Naoe T; the Japan Adult Leukemia Study Group: Role of hematopoietic stem cell transplantation for relapsed acute promyelocytic leukemia: A retrospective analysis of JALSG-APL97. *Cancer Sci* 104(10): 1339-1345, 2013(IF: 3.749) *
 21. Ishida T, Hishizawa M, Kato K, Tanosaki R, Fukuda T, Takatsuka Y, Eto T, Miyazaki Y, Hidaka M, Uike N, Miyamoto T, Tsudo M, Sakamaki H, Morishima Y, Suzuki R, Utsunomiya A: Impact of Graft-versus-Host Disease on Allogeneic Hematopoietic Cell Transplantation for Adult T Cell Leukemia-Lymphoma Focusing on Preconditioning Regimens: Nationwide Retrospective Study. *Biol Blood Marrow Transplant* 19(12): 1731-1739, 2013(IF: 3.541) *
 22. Hata T, Tsushima H, Baba M, Imaizumi Y, Taguchi J, Imanishi D, Nagai K, Tomonaga M, Miyazaki Y: Long-term outcome of immuno-suppressive therapy for Japanese patients with lower-risk myelodysplastic syndromes. *Int J Hematol* 98(6): 687-693, 2013(IF: 1.681) *
 23. Isomoto H, Matsushima K, Hayashi T, Imaizumi Y, Shiota J, Ishii H, Minami H, Ohnita K, Takeshima F, Shikuwa S, Miyazaki Y, Nakao K: Endoscopic findings of lymphomas of the stomach. *BMC Gastroenterol* 13(1): 174, 2013(IF: 2.110) *

A-e-1

1. Matsuo M, Iwanaga M, Hata T, Tsushima H, Ando K, Honada H, Soda M, Tomonaga M, Miyazaki Y: Impact of radiation exposure on the prognosis of Myelodysplastic syndromes in Nagasaki Atomic Bomb survivors : a preliminary analysis . *Leukemia Research* 37(Suppl1): S72, 2013
2. Sekeres M, Ades L, Tuechler H, Sanz G, Levis A, Malcovati L, Cazzola M, Magalhaes S, Luebbert M, Haase D, Schanz J,

- Cermak J, Garcia-Manero G, Sole F, Benett J, Bowen D, Deyfus F, Kantarjian H, Kuendgen A, Fonatsch C, Le Beau M, Slovak M, Kieger O, Maciejewski J, Miyazaki Y, Pfeilstöcker M, Sperr W, Stauder R, Tauro S, Valent P, Vallespi T, Van de Loosdrecht A, Germing U, Fenaux P, Greenberg P: Revised International Prognostic Scoring System (IPSS-R) for primary treated myelodysplastic syndromes (MDS) patients : A report from the IWG-PM. *Leukemia Research* 37(Suppl1):S74, 2013
3. Iwanaga M, Soda M, Miyazaki Y: Increase in incidence of a type of leukemia transformed from MDS/MPN : A population-based study in Nagasaki, Japan. *Leukemia Research* 37(Suppl1): S139, 2013
 4. Pfeilstöcker M, Tüchler H, Schanz J, Sanz G, Manero GG, Sole F, Bennett JM, Bowen D, Fenaux P, Dreyfus F, Kantarjian HM, Kuendgen A, Levis A, Malcovati L, Cazzola M, Cermak J, Fonatsch C, Lebeau M, Slovak ML, Krieger O, Luebbert M, Maciejewski JP, Silvia MMM, Miyazaki Y, Sekeres MA, Sperr WR, Stauder R, Tauro S, Valent P, Vallespi T, Loosdrecht A, Germing U, Haase D, and Greenberg PL: Time Changes In Predictive Power of MDS Prognostic Scores-Effects On Revised Scores Such As The IPSS-R, Impact Of Age. *Blood* 122(21): 1544, 2013.
 5. Taniguchi H, Hasegawa H, Sasaki D, Ando K, Sawayama Y, Imaizumi Y, Imanishi D, Taguchi J, Hata T, Tsuakasaki K, Yanagihara K, Mori N, Miyazaki Y: Heat Shock Protein 90 Inhibitor NVP-AUY922 Has Potent Anti-Tumor Activity With Adult T-Cell Leukemia-Lymphoma Cells. *Blood* 122(21): 1829, 2013.
 6. Itonaga H, Iwanaga M, Aoki K, Aoki J, Ishiyama K, Kobayashi T, Sakura T, Fukuda T, Yujiri T, Hirokawa M, Morishima Y, Nagamura-Inoue T, Atsuta Y, Ishikawa T, Miyazaki Y: Influence Of Acute and Chronic Graft-Versus-Host Disease On Outcome After Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation For Chronic Myelomonocytic Leukemia. *Blood* 122(21): 2102, 2013.
 7. Ishiyama K, Ohtake S, Sakamaki H, Miyazaki Y, Miyawaki S, Ohnishi K, Naoe T: Outcomes Of Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation In AML Patients Registered In Prospective Studies : The JALSG Experience. *Blood* 122(21): 2112, 2013.
 8. Miyamura K, Miyamoto T, Kurokawa M, Tanimoto M, Yamamoto K, Taniwaki M, Kimura S, Ohyashiki K, Kawaguchi T, Matsumura I, Hata T, Tsurumi H, Saito S, Hino M, Tadokoro S, Meguro K, Hyodo H, Yamamoto M, Kubo K, Tsukada J, Kondo M, Amagasaki T, Kawahara E, Yanada M: Nilotinib Following Molecular Suboptimal Response (SoR) To Imatinib In Japanese Patients(pts) With Chronic Phase (CML-CP) : 12 Month Follow-Up From The SENSOR Study. *Blood* 122(21): 2729, 2013.
 9. Sasaki D, Hasegawa H, Taniguchi H, Imaizumi Y, Uno N, Yoshitomo M, Miyazaki Y, Yanagihara K: EZH2 Inhibitor DZNep Induces Apoptosis In Adult-T-Cell Leukemia/Lymphoma Cells By BCL2 Suppression Via Regulation Of Mir181a. *Blood* 122(21): 4265, 2013.
 10. Yoshida N, Karube K, Utsunomiya A, Tsuakasaki K, Imaizumi Y, Taira N, Uike N, Umino A, Arita K, Suguro M, Tsuzuki S, Kinoshita T, Ohshima K, Seto M: Cell Cycle Deregulation Determines Acute Transformation In Chronic Type Adult T-Cell Leukemia/ Lymphoma. *Blood* 122(21): 845, 2013.

B 邦文

B-a

1. 谷口広明, 今泉芳孝, 牧山純也, 糸永英弘, 安東恒史, 澤山 靖, 今西大介, 田口 潤, 対馬秀樹, 波多智子, 長谷川寛雄, 林徳眞吉, 新野大介, 大島孝一, 塚崎邦弘, 宮崎泰司: 成人T細胞白血病リンパ腫の救援治療後の予後の検討. *臨床血液* 54(12) : 2159-2165, 2013

B-b

1. 宮崎泰司: 骨髄異形成症候群 (MDS) revised international prognostic scoring system (IPSS-R). *Kyo No.174* : 9-14, 2013
2. 澤山 靖, 宮崎泰司: 【特集 血液腫瘍に対して開発中の注目すべき新薬】 骨髄異形成症候群に対する経口azacitidineとrigosertib. *血液内科* 66(1) : 15-20, 2013
3. 波多智子, 加藤文晴, 田口 潤: [私のこの一枚 (106)] 皮膚腫瘍で発症した芽球形形質細胞様樹状細胞腫瘍. *血液フロンティア* 23(4) : 439-442, 2013
4. 松尾真稔, 宮崎泰司: 【解説】 MDSにおけるIPSS-R: 改訂のポイント. *血液内科* 66(6) : 769-774, 2013
5. 宮崎泰司: CML/MDSの新たな展開 骨髄異形成症候群の改訂国際予後スコアリングシステム. *臨床血液* 54(6) : 545-551, 2013.
6. 今西大介, 宮崎泰司: 【特集/微熱・高熱・不明熱-発熱と各種疾患】 悪性腫瘍. *臨床と研究* 90(8) : 1073-1077, 2013
7. 対馬秀樹: 【話題】 同種造血幹細胞移植後再発成人T細胞白血病の治療. *血液内科* 67(2) : 213-218, 2013.

8. 蓬菜真喜子,宮崎泰司：【特集 低リスク骨髄異形成症候群（MDS）のマネジメント】総論：IPSS-R時代の低リスクMDSのマネジメント. 血液内科67(3)：273-276, 2013.
9. 波多智子：【特集 低リスク骨髄異形成症候群（MDS）のマネジメント】低リスクMDSの層別化・予後予測モデル. 血液内科67(3)：283-290, 2013.
10. 加藤丈晴, 宮崎泰司：【特集／白血病・悪性リンパ腫】－白血病・悪性リンパ腫の治療の最前線－骨髄異形成症候群.臨床と研究90(11)：1460-1464, 2013
11. 田口正剛, 宮崎泰司：【特集 超高齢化時代の血液疾患診療】2.高齢者における骨髄異形成症候群の特性と治療. 血液フロンティア23(12)：1683-1692, 2013

B-c

1. 波多智子, 宮崎泰司：[IX 造血器腫瘍と類縁疾患] 白血病－急性骨髄性白血病－急性赤白血病（M6）. 別冊日本臨床 新領域別症候群シリーズ No.23血液症候群（第2版）－その他の血液疾患を含めて－Ⅲ：146-149, 2013
2. 今西大介, 宮崎泰司：[IX 造血器腫瘍と類縁疾患] 造血器腫瘍と類縁疾患 白血病 急性骨髄性白血病 巨核芽球性白血病（M7）. 別冊日本臨床 新領域別症候群シリーズ No.23 血液症候群（第2版）－その他の血液疾患を含めて－Ⅲ：150-153, 2013
3. 対馬秀樹：[IX 造血器腫瘍と類縁疾患] 骨髄異形成症候群（MDS）－慢性骨髄単球性白血病. 別冊日本臨床 新領域別症候群シリーズ No.23 血液症候群（第2版）－その他の血液疾患を含めて－Ⅲ：278-283, 2013
4. 馬場真紀, 対馬秀樹：[IX 造血器腫瘍と類縁疾患] 骨髄異形成症候群（MDS）－治療関連骨髄異形成症候群. 別冊日本臨床 新領域別症候群シリーズ No.23 血液症候群（第2版）－その他の血液疾患を含めて－Ⅲ：289-293, 2013
5. 今泉芳孝, 宮崎泰司：[IV ウイルス感染症 RNAウイルス感染症 ヒトTリンパ球向性ウイルスⅠ型（HTLV-1）感染症] 成人T細胞白血病・リンパ腫. 別冊日本臨床 新領域別症候群シリーズ No.24 感染症群（第2版）－症候群から感染性単一疾患までを含めて－上 病原体別感染症編：515-518, 2013
6. 宮崎泰司：[17 環境・職業性因子による疾患] 放射線による急性放射線障害. (山口 徹, 北原光夫, 福井次矢総編集, 坂部 貢責任編集, 今日の治療指針2013年版 Volume55, 医学書院（東京）, p902所収) 2013
7. 宮崎泰司, 朝長万左男：[2 白血球系疾患] 3. 慢性骨髄性白血病. (北村 聖編集, 臨床病態学1巻（第2版）, スーヴェルヒロカワ（東京）, p595-597所収) 2013
8. 宮崎泰司, 朝長万左男：[2 白血球系疾患] 4. 骨髄増殖性疾患. (北村 聖編集, 臨床病態学1巻（第2版）, スーヴェルヒロカワ（東京）, p597-599所収) 2013
9. 宮崎泰司, 朝長万左男：[2 白血球系疾患] 7. 白血球増加症. (北村 聖編集, 臨床病態学1巻（第2版）, スーヴェルヒロカワ（東京）, p601-602所収) 2013
10. 宮崎泰司, 朝長万左男：[2 白血球系疾患] 8. 白血球減少症. (北村 聖編集, 臨床病態学1巻（第2版）, スーヴェルヒロカワ（東京）, p602-603所収) 2013
11. 宮崎泰司：[血液／リンパ系疾患] 白血病 (泉 孝英編集主幹, 今日の診療のために ガイドライン 外来診療2013, 日経BPマーケティング（東京）, p475-476所収) 2013
12. 田口正剛：[E 骨髄抑制] 2. 貧血. (鈴木賢一, 中垣 繁, 米村雅人編集, がん薬物療法の支持療法マニュアル～症状の見分け方から治療まで～, 南江堂（東京）, p118-122所収) 2013
13. 対馬秀樹, 宮崎泰司：[第4部 臨床との連携] V. 放射線障害と造血器腫瘍. (定平吉都, 北川昌伸編集, 腫瘍病理鑑別アトラス 造血器腫瘍, 文光堂（東京）, p269-273, 所収) 2013
14. 宮崎泰司：14-6 造血器腫瘍のWHO分類. (矢崎義雄編集, 内科学 第10版, 朝倉書店（東京）, p1910-1915所収) 2013
15. 宮崎泰司：2. 骨髄異形成症候群の病態. (直江知樹編集, インフォームドコンセントのための図説シリーズ 白血病／骨髄異形成症候群. 医薬ジャーナル社（大阪）, p14-17, 2013
16. 宮崎泰司：I. 白血病（※責任編集）(一般社団法人 日本血液学会編集, 造血器腫瘍診療ガイドライン 2013年版, 金原出版株式会社（東京）, p8-129所収) 2013
17. 宮崎泰司：慢性骨髄性白血病. (小川 聡編集, 内科学書 改訂第8版Vol.6 血液・造血器疾患 神経疾患, ㈱中山書店（東京）, p126-129所収) 2013
18. 波多智子：【第2章分類】分類. (金倉 譲総編集, 松村 到専門編集, ここまできた白血病／MDS（骨髄異形成症候群）治療 プリンシプル血液疾患の臨床, ㈱中山書店（東京）, p28-38所収) 2013
19. 波多智子：【第3章検査・診断】形態診断. (金倉 譲総編集, 松村 到専門編集, ここまできた白血病／MDS（骨髄異形

成症候群)治療 プリンシプル血液疾患の臨床, (株)中山書店(東京), p46-53所収) 2013

20. 宮崎泰司:【特集 MDS(骨髄異形成症候群)研究と診療の今】IPSS-R:改訂を巡る議論とそのポイント.(木崎昌弘編集主幹,伊豆津 宏二,柴山浩彦,張替秀郎,宮崎泰司編集委員,Hematology AGORA(血液の広場)2013年秋号,(株)毘沙門堂(東京),p20-23所収) 2013
21. 宮崎泰司:【第8章 造血器腫瘍と関連疾患】C. 骨髄異形成症候群.(木崎昌弘編集,カラーテキスト 血液病学,中外医学社(東京),p449-255所収) 2013

B-d

1. 谷口広明,海江田 哲,吉見龍二,新野大介,大島孝一,宮崎泰司:末梢性T細胞性リンパ腫とびまん性大細胞型B細胞性リンパ腫を合併したdiscordant lymphomaと考えられる1例.五島中央病院紀要第14号:7-11,2013
2. 荒木 究,波多史朗,千早啓介,河野政紀,福島 翔,谷口広明,山道 忍,小河原大樹,吉川大介,岡本健太,河津多代,池田秀樹,千住憲彦,神田哲郎:ボセンゲンが奏功した慢性肺血栓性塞栓症の一例.五島中央病院紀要第14号:13-16,2013
3. 小林裕児,藤本武士,福田安雄,江口勝美:両上肢の痺れ感のみを呈した亜急性脊髄連合変性症の1例.佐世保市立総合病院紀要 37巻p39-41,2011 ※2013年1月発行
4. 川崎玲奈,小林裕児,澤山 靖:学会及び研究発表.佐世保市立総合病院紀要 37巻p108-109,113-115,2011 ※2013年1月発行
5. 野中俊章,藤本武士,福田安雄,澤山 靖,江口勝美:M蛋白血症を伴わなかったPOEMS症候群の1例.佐世保市立総合病院紀要 第38巻:p9-11,2012 ※2013年9月発行
6. 木下朝博,飛内賢正,塚崎邦弘,伊藤國明,谷脇雅史,鈴木孝世,石澤賢一,永井宏和,大間知謙,楠本 茂:H22-がん臨床一般-014 悪性リンパ腫に対する最適化されたモノクローナル抗体併用療法の開発による標準的治療法の確立.(研究代表者 木下朝博)(日本対がん協会がん臨床研究推進室編集,平成24年度厚労科学研究 がん臨床研究成果発表会(研究者向け)抄録集,59-62,所収) 2013
7. 鶴池直邦,石田高司,内丸 薫,神奈木真理,瀬戸加大,安永純一郎朗,山中竹春,渡辺信和,宇都宮 與,岡村 純,重松明男,末廣陽子,谷口修一,田口 潤,田野崎隆二,崔 日承,豊嶋崇徳,中前博久,長藤宏司,福田隆浩,森内幸美:H22-がん臨床一般-028 成人T細胞性白血病(ATL)の根治を目指した細胞療法の確立およびそのHTLV-1抑制メカニズムの解明に関する研究.(研究代表者 鶴池直邦)(日本対がん協会がん臨床研究推進室編集,平成24年度厚労科学研究 がん臨床研究成果発表会(研究者向け)抄録集,p117-120所収) 2013
8. 山本一仁,鶴池直邦,小椋美知則,中田匡信,横山雅大,渡辺 隆,今泉芳孝:H22-がん臨床一般-029 進行期難治性B細胞リンパ腫に対する治療を目指した自家末梢血幹細胞移植併用大量化学療法の確立に関する研究.(研究代表者 山本一仁)(日本対がん協会がん臨床研究推進室編集,平成24年度厚労科学研究 がん臨床研究成果発表会(研究者向け)抄録集,p121-124所収) 2013
9. 塚崎邦弘,飛内賢正,宇都宮 與,鶴池直邦,石塚賢治,丸山 大,福島卓也,今泉芳孝:H22-がん臨床一般-031 成人T細胞白血病リンパ腫に対するインターフェロン α とジドブジン併用療法の有用性の検証.(研究代表者 塚崎邦弘)(日本対がん協会がん臨床研究推進室編集,平成24年度厚労科学研究 がん臨床研究成果発表会(研究者向け)抄録集,p129-132所収) 2013
10. 直江知樹,薄井紀子,大西一功,竹内 仁,白杵憲祐,小林幸夫,宮崎泰司,熱田由子,伊藤良和,松村 到,今村陽俊:H23-がん臨床一般-004 成人難治性白血病におけるバイオマーカーに基づく層別化治療法の確立.(研究代表者 直江知樹)(日本対がん協会がん臨床研究推進室編集,平成24年度厚労科学研究 がん臨床研究成果発表会(研究者向け)抄録集,p189-193所収) 2013
11. 塚崎邦弘,渡邊俊樹,飛内賢正,宇都宮 與,鶴池直邦,石澤賢一,石田陽治,内丸 薫,田中淳司,石塚賢治,石田高司,野坂生郷,今泉芳孝,戸倉新樹,河井一浩,天野正宏,大島孝一,岩永正子:H23-がん臨床一般-022 ATLの診療実態・指針の分析による診療体制の整備.(研究代表者 塚崎邦弘)(日本対がん協会がん臨床研究推進室編集,平成24年度厚労科学研究 がん臨床研究成果発表会(研究者向け)抄録集,p267-270所収) 2013
12. 熱田由子,坂巻 壽,田淵 健,森島泰雄,長村登紀子,神田善伸,宮村耕一,村田 誠,谷口修一,(研究協力者:宮崎泰司 他25名):(本邦における造血細胞移植一元化登録研究システムの確立,厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等克服研究事業(免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業)本邦における造血細胞移植一元化登録研究システムの確立 平成24年度 総括・分担研究報告書,研究代表者 熱田由子,p3-9所収) 2013
13. 宮崎泰司,垣花和彦,河野彰夫,石川隆之,玉置広哉,加藤 淳,廣川 誠,田中正嗣,金森平和,増岡和宏,高木伸介,増子正

- 義, 高見昭良, 小澤幸泰, 岡本真一郎, 衛藤徹也, 大西 康, 中尾眞二, 白杵憲佑, 芦田隆司, 太田秀一, 糸永英弘, 石山 謙, 小林寿美子, 石井一慶, 池田宇次, 町田真一郎, 青木一成, 鈴木達也, 青木 淳, 康 秀男: (WG活動報告, 骨髄異形成症候群 (MDS) 【成人】), 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等克服研究事業 (免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業) 本邦における造血細胞移植－一元化登録研究システムの確立 平成24年度 総括・分担研究報告書, 研究代表者 熱田由子, p66所収), 2013
14. 宮崎泰司: 長崎県におけるATL臨床研究から (平成24年度沖縄感染症医療研究ネットワーク基盤構築事業 委託業務報告書 「ATLの予防・治療を目的とした研究検査薬, 臨床診断技術ならびに新規医薬品の開発基盤形成, および沖縄県独自のATLの研究拠点の構築 公益財団法人 沖縄科学技術振興センター, p36」 所収, 2013
 15. 鶴池直邦, 石田高司, 内丸 薫, 神奈木真理, 瀬戸加大, 安永純一郎, 山中竹春, 渡辺信和, 宇都宮 與, 岡村 純, 重松明男, 末廣陽子, 谷口修一, 田口 潤, 田野崎隆二, 崔 日承, 豊嶋崇徳, 中前博久, 長藤宏司, 福田隆浩, 森内幸美, 福島卓也, 佐藤賢文: 厚生労働科学研究費補助金 (がん臨床研究事業) 総合研究報告書 成人T細胞白血病 (ATL) の根治を目指した細胞療法の確立およびそのHTLV-1抑制メカニズムの解明に関する研究 (H22-がん臨床一般-028) (研究代表者 鶴池直邦, 厚生労働科学研究費補助金 (がん臨床研究事業) 成人T細胞白血病 (ATL) の根治を目指した細胞療法の確立およびそのHTLV-1抑制メカニズムの解明に関する研究 平成22年度～平成24年度 総合研究報告書, p1-16) 所収, 2013
 16. 鶴池直邦, 石田高司, 内丸 薫, 神奈木真理, 瀬戸加大, 安永純一郎, 山中竹春, 渡辺信和, 宇都宮 與, 岡村 純, 重松明男, 末廣陽子, 谷口修一, 田口 潤, 田野崎隆二, 崔 日承, 豊嶋崇徳, 中前博久, 長藤宏司, 福田隆浩, 森内幸美: 厚生労働科学研究費補助金 (がん臨床研究事業) 平成24年度 総括研究報告書 成人T細胞白血病 (ATL) の根治を目指した細胞療法の確立およびそのHTLV-1抑制メカニズムの解明に関する研究 (H22-がん臨床一般-028) (研究代表者 鶴池直邦, 厚生労働科学研究費補助金 (がん臨床研究事業) 成人T細胞白血病 (ATL) の根治を目指した細胞療法の確立およびそのHTLV-1抑制メカニズムの解明に関する研究 平成22年度～平成24年度 総合研究報告書, p115-123) 所収, 2013
 17. 田口 潤: 厚生労働科学研究費補助金 (がん臨床研究事業) 平成24年度 分担研究報告書 成人T細胞白血病 (ATL) に対する根治を目指した細胞療法の確立に関する臨床研究. (研究代表者 鶴池直邦, 厚生労働科学研究費補助金 (がん臨床研究事業) 成人T細胞白血病 (ATL) の根治を目指した細胞療法の確立およびそのHTLV-1抑制メカニズムの解明に関する研究 平成22年度～平成24年度 総合研究報告書, p165-166) 所収, 2013
 18. 直江知樹, 薄井紀子, 大西一功, 竹内 仁, 白杵憲祐, 小林幸夫, 宮崎泰司, 熱田由子, 伊藤良和, 松村 到, 今井陽俊: 厚生労働科学研究費補助金 (がん臨床研究事業) 総括研究報告書 成人難治性白血病におけるバイオマーカーに基づく層別化治療法の確立. (研究代表者 直江知樹, 厚生労働科学研究費補助金 (がん臨床研究事業) 成人難治性白血病におけるバイオマーカーに基づく層別化治療法の確立 平成24年度総括・分担報告書, p3-8) 所収, 2013
 19. 宮崎泰司: 厚生労働科学研究費補助金 (がん臨床研究事業) 分担研究報告書 骨髄異形成症候群の研究ならびにデータセンターの運営. (研究代表者 直江知樹, 厚生労働科学研究費補助金 (がん臨床研究事業) 成人難治性白血病におけるバイオマーカーに基づく層別化治療法の確立 平成24年度総括・分担報告書, p30-34) 所収, 2013
 20. 今泉芳孝: 厚生労働科学研究費補助金 (がん臨床研究事業) 分担研究報告書 「ATLの診療実態・指針の分析による診療体制の整備」に関する研究 (研究代表者 塚崎邦弘, 厚生労働科学研究費補助金 (がん臨床研究事業) ATLの診療実態・指針の分析による診療体制の整備 平成24年度 総括・分担研究報告書 p61-62) 所収, 2013
 21. 今泉芳孝: 厚生労働科学研究費補助金 (がん臨床研究事業) 分担研究報告書 「成人T細胞白血病リンパ腫に対するインターフェロン α とジドブジン併用療法の有用性の検証」に関する研究 (研究代表者 塚崎邦弘, 厚生労働科学研究費補助金 (がん臨床研究事業) 成人T細胞白血病リンパ腫に対するインターフェロン α とジドブジン併用療法の有用性の検証 平成24年度 総括・分担研究報告書 p11-12) 所収, 2013
 22. 今泉芳孝: 厚生労働科学研究費補助金 (がん臨床研究事業) 分担研究報告書 進行期難治性B細胞リンパ腫に対する治療を目指した自家末梢血幹細胞移植併用大量化学療法の確立に関する研究 (研究代表者 山本一仁, 厚生労働科学研究費補助金 (がん臨床研究事業) 進行期難治性B細胞リンパ腫に対する治療を目指した自家末梢血幹細胞移植併用大量化学療法の確立に関する研究 平成24年度 総括・分担研究報告書 p47-48) 所収, 2013
 23. 黒川峰夫, 小澤敬也, 金倉 譲, 直江知樹, 中尾眞二, 澤田賢一, 赤司浩一, 宮崎泰司, 高折晃史, 岡本真一郎, 中畑龍俊, 太田晶子: 厚生労働科学研究費補助金 (難治性疾患等克服研究事業) 総括研究報告書 特発性造血障害に関する調査研究 (研究代表者 黒川峰夫, 厚生労働科学研究費補助金 (難治性疾患等克服研究事業) 特発性造血障害に関する調査研究 平成24年度 総括・分担研究報告書, p3-37) 所収, 2013
 24. 宮崎泰司: 厚生労働科学研究費補助金 (難治性疾患等克服研究事業) 分担研究報告書 骨髄異形成症候群の国際予後スコアリングシステム改訂. (研究代表者 黒川峰夫, 厚生労働科学研究費補助金 (難治性疾患等克服研究事業) 特発

性造血障害に関する調査研究 平成24年度 総括・分担研究報告書, p56-58) 所収, 2013

25. 今泉芳孝:厚生労働科学研究費補助金(第3次対がん総合戦略研究事業) 分担研究報告書 ATLの腫瘍化並びに急性転化, 病型変化に関連する遺伝子群の探索と病態への関与の研究(研究代表者 瀬戸加大, 厚生労働科学研究費補助金(第3次対がん総合戦略研究事業) ATLの腫瘍化並びに急性転化, 病型変化に関連する遺伝子群の探索と病態への関与の研究 平成24年度 総括・分担研究報告書 p36-38) 所収, 2013
26. 小笹晃太郎, 早田みどり, 杉山裕美, 児玉和紀, 朝長万左男, 木村昭郎, 鎌田七男, 土肥博雄, 岩永正子, 宮崎泰司, Cologne JB: RP 29-60 白血病および関連疾患の探知調査(公益財団法人 放射線影響書 年報(平成24年度) p106) 所収, 2013
27. Hsu WL, Preston DL, 早田みどり, 杉山裕美, 船本幸代, 児玉和紀, 木村昭郎, 鎌田七男, 土肥博雄, 朝長万左男, 岩永正子, 宮崎泰司, Cullings HM, 陶山昭彦, 小笹晃太郎, Shore RE, 馬淵晴彦: RR29-11 原爆被爆者の白血病, リンパ腫, 多発性骨髄腫の罹患率: 1950-2001 (公益財団法人 放射線影響書 年報(平成24年度) p110-111) 所収, 2013

B-e-1

1. 三浦史郎, 蔵重智美, 近藤久義, 松田勝也, 大坪竜太, 松山睦美, 七條和子, 波多智子, 宮崎泰司, 山下俊一, 関根一郎, 中島正洋: 長崎原爆被爆者腫瘍組織バンクの経過報告(第3報) 核酸の抽出, 保存. 日本病理学会会誌102(1): 441, 2013
2. 小川大輔, 惣宇利正善, 一瀬白帝, 宮崎泰司: 大腿筋肉内出血にて発症した自己免疫性後天性血友病XⅢ(後天性凝固第13因子欠乏症)の症例. 日本血栓止血学会会誌24(2): 255, 2013
3. 吉田雅明, 加留部謙之輔, 宇都宮 與, 塚崎邦弘, 今泉芳孝, 平良直也, 鶴池直邦, 海野 啓, 在田幸太郎, 片山 幸, 都築忍, 大島孝一, 瀬戸加大: Cell cycle関連遺伝子の異常は慢性型ATLLの急性転化に関与する. 日本リンパ網内系学会会誌53巻p95, p106, 2013
4. 牧山純也, 今泉芳孝, 谷口広明, 森脇裕司, 澤山 靖, 今西大介, 田口 潤, 對馬秀樹, 波多智子, 塚崎邦弘, 宮崎泰司: 当科における高齢者成人T細胞白血病・リンパ腫の診療実態と治療成績. 日本リンパ網内系学会会誌 53巻p156, 2013
5. 長井一浩, 佐々木大介, 藤井 実, 寺澤 崇, 上領章久, 中道志織, 古賀嘉人, 深堀由紀子, 柳原克紀, 関根一郎, 上平 憲, 宮崎泰司: マイクロRNA発現プロファイリングによる濃厚血小板製剤の品質評価に応用可能な新規バイオマーカー探索. 日本輸血細胞治療学会誌59(2): 278, 2013
6. 小川大輔, 對馬秀樹, 宮崎泰司: 腸閉塞後に発症したインヒビター陽性後天性血友病Aの症例. 臨床血液54(5): 484-485, 2013
7. 足立智彦, 長井一浩, 北里 周, 大野慎一郎, 藤田文彦, 金高賢吾, 高槻光寿, 宮崎泰司, 江口 晋: 切除不能・転移性膵癌に対するWT1ペプチド樹状細胞ワクチン療法の成績. 膵臓28(3): 407, 2013
8. 足立智彦, 長井一浩, 北里 周, 曾山明彦, 日高匡章, 藤田文彦, 南 恵樹, 金高賢吾, 高槻光寿, 黒木 保, 宮崎泰司, 江口 晋: 切除不能・転移再発性胆道癌に対するWT1ペプチド樹状細胞ワクチン療法の成績. 胆道27(3): 505, 2013
9. Kato T, Kihara R, Asou N, Ohtake S, Miyawaki S, Miyazaki Y, Sakura T, Ogawa Y, Usui N, Kanamori H, Kikuchi H, Imai K, Uike N, Kimura F, Kitamura K, Nakaseko C, Tsuboi K, Takeshita A, Ishida F, Suzushima H, Kato Y, Miwa H, Kaneda N, Naoe T, Kiyoi H: Prevalence and characteristics of CEBPA double mutations on the same allele in AML. 臨床血液 54(9):1060, 2013
10. Yoshida N, Karube K, Utsunomiya A, Tsukasaki K, Imaizumi Y, Taira N, Uike N, Umino A, Arita K, Katayama M, Tsuzuki S, Ohshima K, Seto M: Alterations of cell cycle-related genes are involved in transformation of chronic ATL. 臨床血液 54(9):1065, 2013
11. Kobayashi S, Ueda Y, Kurokawa M, Tamura H, Ogata K, Dan K, Shibayama H, Kihara R, Emi N, Motoji T, Sakai K, Usui K, Ogawa H, Sakura T, Ohyashiki K, Ozawa K, Imai K, Miyazaki Y, Morita Y, Matsuda A, Toyama K, Kakumoto K, Koga D, Tamaki H, Miyani K, Naoe T, Sugiyama H: WT-1 expression level in BM is the great prognostic marker with Revised IPSS. 臨床血液54(9):1071, 2013
12. Kobayashi T, Nannya Y, Ichikawa M, Kohara T, Kobune M, Harada H, Yonemura Y, Matsuda A, Kawabata H, Tohyama K, Miyazaki Y, Kurokawa M: A nationwide survey of hypoplastic myelodysplastic syndrome (A multicenter retrospective study). 臨床血液54(9):1072, 2013
13. Ichiyama K, Aoki J, Aoki K, Itonaga H, Ichikawa T, Miyazaki Y, Taniguchi S, Ohashi K, Fukuda T, Mori T, Mori S, Nagayama T, Atsuta Y, Sakamaki H: Chronic GVHD may improve the outcomes of cord blood transplantation for patients for MDS patients. 臨床血液54(9):1081, 2013
14. Yanada M, Ohtake S, Miyawaki S, Sakamaki H, Sakura T, Taeda T, Miyamura K, Asou N, Oh I, Miyake J, Kobayashi H,

- Takeuchi J, Takahashi M, Dobashi N, Kiyoi H, Miyazaki Y, Emi N, Kobayashi Y, Ohno R, Naoe T: The demarcation between younger and older AML patients : pooled analysis of 3 JALSG studies. 臨床血液54(9):1090, 2013
15. Kato T, Hata T, Taguchi J, Taguchi M, Hourai M, Makiyama J, Niino D, Tsushima H, Imaizumi Y, Imanishi D, Ohshima K, Miyazaki Y: Successful second alloSCT with RIC for relapsed blastic plasmacytoid dendritic cell neoplasm. 臨床血液54(9):1246, 2013
 16. Matsuo M, Iwanaga M, Imanishi D, Imaizumi Y, Taguchi J, Sawayama Y, Tsushima H, Hata T, Miyazaki Y: Clinical characteristics of myelodysplastic syndromes in Nagasaki atomic bomb survivors. 臨床血液54(9):1265, 2013
 17. Utsunomiya A, Ishida T, Tsukasaki K, Takahashi T, Ogura M : Changes in NK cell number and activity resulting from first-line chemotherapy for ATL /PTCL. 臨床血液54(9):1302, 2013
 18. Makiyama J, Imaizumi Y, Taniguchi H, Sawayama Y, Imanishi D, Taguchi J, Tsushima H, Hata T, Tsukasaki K, Miyazaki Y: Re-evaluation of VCAP-AMP-VECP in clinical practice for aggressive adult T-cell leukemia-lymphoma. 臨床血液54(9):1302, 2013
 19. Sato S, Itonaga H, Sawayama Y, Onimaru Y, Moriuchi Y, Imanishi D, Tsushima H, Hata T, Sasaki D, Yanagihara K, Kunirima K, Miyazaki Y: An elderly with TET2 mutation : JAK2 mutation positive CMML developed following NPM1-mutated AML. 臨床血液54(9):1398, 2013
 20. Taniguchi H, Imaizumi Y, Hourai M, Taniguchi M, Makiyama J, Sato S, Ando K, Sawayama Y, Moriuchi Y, Matsuo E, Imanishi D, Taguchi J, Tsushima H, Hata T, Hasegawa H, Yoshida S, Moriuchi Y, Miyazaki Y: Mogamulizumab in clinical practice for relapsed/refractory adult T-cell leukemia-lymphoma. 臨床血液54(9):1436, 2013
 21. Ogawa D, Miyazaki Y: Efficacy and safety of brachial subcutaneous Bortezomib plus MP treatment for multiple myeloma. 臨床血液54(9):1452, 2013
 22. Miyamura K, Miyamoto T, Kurokawa M, Tanimoto M, Yamamoto K, Taniwaki M, Kimura S, Ohyashiki K, Kawaguchi T, Matsumura I, Hata T, Tsurumi H, Naoe T, Hino M, Tadokoro S, Meguro K, Hyodo H, Yamamoto M, Kubo K, Tsukada J, Amagasaki T, Kondo M, Kawahara E, Yanada M: Nilotinib in CML-CP patients with suboptimal response (SoR) to imatinib (IM): SENSOR 12-month data. 臨床血液54(9):1183, 2013
 23. Imaizumi Y, Ogura M, Uike N, Asou N, Utsunomiya A, Uchida T, Aoki T, Tsukasaki K, Taguchi J, Choi I, Maruyama D, Nosaka K, Chen N, Shiota T, Tobinai K: Phase I dose-escalation study of lenalidomide in relapsed patients with ATL or PTCL. 臨床血液54(9):1185, 2013
 24. Uozumi K, Ishida T, Jo T, Suzumiya H, Takemoto S, Yamamoto K, Uike N, Saburi Y, Nosaka K, Utsunomiya A, Tobinai K, Fujiwara H, Ishitsuka K, Yoshida S, Taira N, Moriuchi Y, Imada K, Miyamoto T, Tsukasaki K, Tomonaga M, Ueda R: Randomized phase II study of mLSG15 plus mogamulizumab vs mLSG15 alone for untreated, aggressive ATL. 臨床血液54(9):1186, 2013
 25. Maeda T, Matsuda A, Jinnai I, Iwanaga M, Okamura D, Ishikawa M, Hata T, Kawai N, Miyazaki Y, Bessho M, Tomonaga M: Correlation between dysplastic lineage and type of cytopenia in FAB-RA except 5q-syndrome. 臨床血液54(9):1208, 2013
 26. Kawabata H, Ishikawa T, Matsuda A, Tohyama K, Zaike Y, Hata T, Suzuki T, Araseki K, Usuki K, Chiba S, Arima N, Nohgawa M, Ozawa K, Kurokawa M, Takaori-Kondo A: Extremely poor prognosis in MDS patients with monosomy-7 or more than 3 chromosomal abnormalities. 臨床血液54(9): 1208, 2013
 27. Niino D, Maeda K, Kato T, Choi I, Miyashita K, Nanri T, Yoshida S: Hodgkin lymphoma-like Adult T-cell leukemia/lymphoma : Report of 7 cases. 臨床血液54(9):1217, 2013

学会発表

A 欧文

A-b

1. The 12th International Symposium on Myelodysplastic Syndromes (MDS) (Poster Session I – P258) 岩永正子・客員研究員 宮崎泰司・教授 他1名 2013年5月9日 ドイツ
2. The 12th International Symposium on Myelodysplastic Syndromes (MDS) (Poster Session II – P109) 松尾真稔・医員(大学院生) 岩永正子・客員研究員 波多智子・講師 対馬秀樹・助教 宮崎泰司・教授 他1名 2013年5月10日 ドイツ
3. The 12th International Symposium on Myelodysplastic Syndromes (MDS) (Poster Session II – P113) 宮崎泰司・教授(発表者: Sekeres, M) 他33名 2013年5月10日 ドイツ
4. Turning the Tide Against MDS and Other Bone Marrow Failure Syndromes Complimentary Lunch Symposium 宮崎泰司・

教授 2013年12月6日 アメリカ

5. 55thASH Annual Meeting and Exposition (Poster Session I -1544) 宮崎泰司・教授 (発表者: Michael feilstöcker) 他32名 2013年12月7日 アメリカ
6. 55thASH Annual Meeting and Exposition (Poster Session I -1829) 谷口広明・医員 (大学院生) 安東恒史・助教 澤山 靖・助教 今泉芳孝・助教 今西大介・助教 田口 潤・助教 波多智子・講師 宮崎泰司・教授 他5名 2013年12月7日 アメリカ
7. 55thASH Annual Meeting and Exposition (Poster Session I -2102) 岩永正子・客員研究員 宮崎泰司・教授 (発表者: 糸永英弘) 他12名 2013年12月7日 アメリカ
8. 55thASH Annual Meeting and Exposition (Poster Session I -2112) 宮崎泰司・教授 (発表者: 石山 謙) 他5名 2013年12月7日 アメリカ
9. 55thASH Annual Meeting and Exposition (Poster Session II -2729) 波多智子・講師 (発表者: 宮村耕一) 他22名 2013年12月8日 アメリカ
10. 55thASH Annual Meeting and Exposition (Poster Session III -4265) 谷口広明・医員 (大学院生) 今泉芳孝・助教 宮崎泰司・教授 (発表者: 佐々木大介) 他4名 2013年12月9日 アメリカ
11. 55thASH Annual Meeting and Exposition (Oral Session 622-845) 今泉芳孝・助教 (発表者: 吉田雅明) 他4名 2013年12月10日 アメリカ

B 邦文

B-a

1. 九州地区卒後教育セミナー第26回博多シンポジウム (日本臨床衛生検査技師会九州支部主催) 宮崎泰司・教授 2013年11月24日 福岡

B-b

1. 第34回長崎移植懇話会 中島 潤・医員 田口正剛・医員 (大学院生) 蓬莱真喜子・医員 (大学院生) 松尾真稔・医員 (大学院生) 谷口広明・医員 (大学院生) 田口 潤・助教 宮崎泰司・教授 2013年1月23日 長崎
2. 平成24年度厚生労働科学研究 がん臨床研究成果発表会 (H22-がん臨床-一般-028) 田口 潤・助教 (発表者: 鶴池直邦) 他19名 2013年2月4日 東京
3. 平成24年度厚生労働科学研究 がん臨床研究成果発表会 (H22-がん臨床-一般-029) 今泉芳孝・助教 (発表者: 山本一仁) 他5名 2013年2月4日 東京
4. 平成24年度厚生労働科学研究 がん臨床研究成果発表会 (H22-がん臨床-一般-031) 今泉芳孝・助教 (発表者: 塚崎邦弘) 他6名 2013年2月4日 東京
5. 平成24年度厚生労働科学研究 がん臨床研究成果発表会 (H23-がん臨床-一般-022) 今泉芳孝・助教 (発表者: 塚崎邦弘) 他16名 2013年2月5日 東京
6. 平成24年度厚生労働科学研究 がん臨床研究成果発表会 (H23-がん臨床-一般-004) 宮崎泰司・教授 (発表者: 直江知樹) 他9名 2013年2月4日 東京
7. 第9回広島大学・長崎大学連携教育研究事業カンファレンス-放射線災害医療の国際教育研究拠点に向けた機関連携事業- (セッション1-3) 宮崎泰司・教授 松尾真稔・医員 (大学院生) 岩永正子・客員研究員 2013年6月1日 広島
8. 第54回原爆後障害研究会 (一般演題27) 松尾真稔・医員 (大学院生) 岩永正子・客員研究員 対馬秀樹・助教 波多智子・講師 宮崎泰司・教授 他1名 2013年6月2日 広島
9. 第6回HTLV-1研究会・シンポジウム (一般演題口演O-6) 岩永正子・客員研究員 他2名 2013年8月24日 東京
10. 第6回HTLV-1研究会・シンポジウム (一般演題口演O-7) 岩永正子・客員研究員 (発表者: 相良康子) 他5名 2013年8月24日 東京
11. 第6回HTLV-1研究会・シンポジウム (一般演題口演O-19) 岩永正子・客員研究員 (発表者: 中武彩子) 他14名 2013年8月25日 東京
12. 第6回HTLV-1研究会・シンポジウム (一般演題口演O-20) 岩永正子・客員研究員 (発表者: 武本重毅) 他8名 2013年8月25日 東京
13. 第6回HTLV-1研究会・シンポジウム (一般演題口演O-24) 谷口広明・医員 (大学院生) 安東恒史・助教 澤山 靖・助教 今西大介・助教 今泉芳孝・助教 田口 潤・助教 波多智子・講師 宮崎泰司・教授 他5名 2013年8月25日

5. 研究活動概要－原爆・ヒバクシャ医療部門

東京

14. 第6回HTLV-1研究会・シンポジウム（ポスター発表P-12） 今泉芳孝・助教 谷口広明・医員（大学院生）宮崎泰司・教授（発表者：佐々木大介）他5名 2013年8月23日－25日 東京
15. 第35回長崎移植懇話会 加藤丈晴・医員（大学院生）田口 潤・助教 田口正剛・大学院生 蓬萊真喜子・医員（大学院生）松尾真稔・医員（大学院生）谷口広明・医員（大学院生）安東恒史・助教 澤山 靖・助教 今泉芳孝・助教 今西大介・助教 波多智子・講師 宮崎泰司・教授 他3名 2013年11月27日 長崎
16. 長崎県ATLVウイルス母子感染防止に関する講演会 宮崎泰司・教授 2013年12月18日 長崎

論文数一覧

	A-a	A-b	A-c	A-d	A-e	合計	SCI	B-a	B-b	B-c	B-d	B-e	合計	総計
2013	23	0	0	0	10	33	23	1	11	21	27	27	87	120

学会発表数一覧

	A-a	A-b		合計	B-a	B-b		合計	総計
		シンポジウム	学会			シンポジウム	学会		
2013	0	4	7	11	1	16	39	56	67

論文総数に係る教員生産係数一覧

	欧文論文総数 論文総数	教員生産係数 (欧文論文)	SCI掲載論文数 欧文論文総数	教員生産係数 (SCI掲載論文)
2013	0.275	3.667	0.697	2.556

Impact factor 値一覧

	Impact factor	教員当たり Impact factor	論文当たり Impact factor
2013	90.172	10.019	3.921

教育活動

氏名・職	職（担当科目）	関係機関名
宮崎泰司・教授	全学モジュールⅡ「被ばく者と医療」	長崎大学教養教育
宮崎泰司・教授	人間生物学, 血液	長崎大学医学部
宮崎泰司・教授	原爆医学概論, 原爆被爆者医療, 原爆の造血に対する影響	長崎大学医学部
宮崎泰司・教授	血液・リンパ系／3年	長崎大学医学部
宮崎泰司・教授	診断学／4年	長崎大学医学部
宮崎泰司・教授	PBLチュートリアル／5年	長崎大学医学部
宮崎泰司・教授	臨床実習／5年	長崎大学医学部
宮崎泰司・教授	高次臨床実習／6年	長崎大学医学部
宮崎泰司・教授	内科総括講義／6年	長崎大学医学部
宮崎泰司・教授	卒前集中講義／6年	長崎大学医学部
波多智子・准教授	血液・リンパ系／3年	長崎大学医学部
波多智子・准教授	診断学／4年	長崎大学医学部
波多智子・准教授	PBLチュートリアル／5年	長崎大学医学部
波多智子・准教授	臨床実習／5年	長崎大学医学部
波多智子・准教授	高次臨床実習／6年	長崎大学医学部
波多智子・准教授	内科総括講義／6年	長崎大学医学部
波多智子・准教授	卒前集中講義／6年	長崎大学医学部
波多智子・准教授	臨床病態学Ⅰ／2年	長崎大学医学部保健学科

氏名・職	職（担当科目）	関係機関名
波多智子・准教授	内科学各論／3年	長崎大学歯学部・薬学部
対馬秀樹・助教	臨床実習／5年	長崎大学医学部
対馬秀樹・助教	高次臨床実習／6年	長崎大学医学部
今泉芳孝・助教	血液・リンパ系／3年	長崎大学医学部
今泉芳孝・助教	診断学／4年	長崎大学医学部
今泉芳孝・助教	PBLチュートリアル／5年	長崎大学医学部
今泉芳孝・助教	臨床実習／5年	長崎大学医学部
今泉芳孝・助教	内科総括講義／6年	長崎大学医学部
今泉芳孝・助教	高次臨床実習／6年	長崎大学医学部
今西大介・助教	血液・リンパ系／3年	長崎大学医学部
今西大介・助教	腫瘍系／3年	長崎大学医学部
今西大介・助教	診断学／4年	長崎大学医学部
今西大介・助教	PBLチュートリアル／5年	長崎大学医学部
今西大介・助教	臨床実習／5年	長崎大学医学部
今西大介・助教	高次臨床実習／6年	長崎大学医学部
田口 潤・助教	血液・リンパ系／3年	長崎大学医学部
田口 潤・助教	感染症系／4年	長崎大学医学部
田口 潤・助教	診断学／4年	長崎大学医学部
田口 潤・助教	PBLチュートリアル／5年	長崎大学医学部
田口 潤・助教	臨床実習／5年	長崎大学医学部
田口 潤・助教	高次臨床実習／6年	長崎大学医学部
田口 潤・助教	全学モジュールⅡ「幹細胞と再生医療」	長崎大学教養教育
澤山 靖・助教	血液・リンパ系／3年	長崎大学医学部
澤山 靖・助教	診断学／4年	長崎大学医学部
澤山 靖・助教	PBLチュートリアル／5年	長崎大学医学部
澤山 靖・助教	臨床実習／5年	長崎大学医学部
澤山 靖・助教	高次臨床実習／6年	長崎大学医学部
安東恒史・助教	診断学／4年	長崎大学医学部
安東恒史・助教	臨床実習／5年	長崎大学医学部
安東恒史・助教	高次臨床実習／6年	長崎大学医学部
澤山 靖・助教	非常勤講師（疾病論Ⅳ（血液・造血器））	長崎市医師会看護学校

社会活動

氏名・職	委員会等名	関係機関名
宮崎泰司・教授	特定疾患対策協議会委員	長崎県
宮崎泰司・教授	長崎県保健医療対策協議会がん対策部会委員	長崎県
宮崎泰司・教授	治験審査委員会 委員長	長崎県医師会
宮崎泰司・教授	専門委員	独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 審査業務部
宮崎泰司・教授	理事	特定非営利活動法人 成人白血病治療共同研究支援機構（NPO- JALSG支援機構）Japan Adult Leukemia Study Group
宮崎泰司・教授	幹事・副代表	日本成人白血病治療共同研究グループ（Japan Adult Leukemia Study Group：JALSG）
宮崎泰司・教授	ドナー安全委員会 委員	公益財団法人 骨髄移植推進財団（H25.10.1より 名称変更：公益財団法人 日本骨髄バンク）

5. 研究活動概要－原爆・ヒバクシャ医療部門

氏名・職	委員会等名	関係機関名
宮崎泰司・教授	九州地区代表医師	公益財団法人 骨髄移植推進財団H25.10.1より 名称変更：公益財団法人 日本骨髄バンク)
宮崎泰司・教授	評議員	日本内科学会
宮崎泰司・教授	編集委員「Internal Medicine」	日本内科学会
宮崎泰司・教授	評議員	日本内科学会九州支部
宮崎泰司・教授	理事	日本血液学会
宮崎泰司・教授	教育委員会 副委員長	日本血液学会
宮崎泰司・教授	教育委員会プログラム企画委員会 委員長	日本血液学会
宮崎泰司・教授	Associate Editor「International of Hematology」	日本血液学会
宮崎泰司・教授	評議員	日本癌学会
宮崎泰司・教授	評議員	日本造血幹細胞移植学会
宮崎泰司・教授	九州免疫血液研究会 世話人	九州免疫血液研究会
宮崎泰司・教授	代表世話人	長崎幹細胞移植研究会
宮崎泰司・教授	幹事	Indolent Hematologic Malignancy研究会
宮崎泰司・教授	編集アドバイザー「Trends in Hematological Malignancies」	(株)メディカルレビュー社
宮崎泰司・教授	Reviewer「Japanese Journal of Clinical Oncology (JJCO)」	OXFORD JOURNALS
宮崎泰司・教授	Reviewer「Journal of Clinical and Experimental Haematology (JCEH)」	日本リンパ網内系学会
宮崎泰司・教授	編集委員「Internal Medicine」	日本内科学会
宮崎泰司・教授	シニア編集アドバイザー「PNH Frontier」	(株)メディカルレビュー社
宮崎泰司・教授	Editorial Board「Leukemia」	Nature Publishing Group
宮崎泰司・教授	疫学部 顧問	公益財団法人 放射線影響研究所
宮崎泰司・教授	臨床研究部 顧問	公益財団法人 放射線影響研究所
宮崎泰司・教授	評議員	公益財団法人 長崎原子爆弾被爆者対策協議会
宮崎泰司・教授	難病情報センター情報企画委員（不応性貧血（骨髄異形成症候群）担当）	公益財団法人 難病医学研究財団 難病情報センター
宮崎泰司・教授	「沖縄感染症医療研究ネットワーク基盤構築事業」に関する研究推進委員	公益財団法人 沖縄科学技術振興センター
宮崎泰司・教授	長崎県緊急被ばく医療ネットワーク検討会委員	公益財団法人 原子力安全研究協会
宮崎泰司・教授	骨髄異形成症候群（MDS）連絡会 顧問	MDS連絡会
波多智子・准教授	血液専門医試験問題作成委員	日本血液学会
波多智子・准教授	教育企画委員会 委員	日本血液学会
波多智子・准教授	運営委員	日本成人白血病治療共同研究グループ（Japan Adult Leukemia Study Group：JALSG）
波多智子・准教授	長崎県社会保険診療報酬請求書審査委員会委員	社会保険診療報酬支払基金長崎支部
波多智子・准教授	調整医師	公益財団法人 骨髄移植推進財団（H25.10.1より 名称変更：公益財団法人 日本骨髄バンク）
波多智子・准教授	九州血液セミナー 幹事	九州血液セミナー
対馬秀樹・助教	長崎市夜間急患センター運営協議会委員（2013.5まで）	長崎市
対馬秀樹・助教	在韓被爆者健康診断・相談事業（2013.5まで）	長崎県
今泉芳孝・助教	長崎市夜間急患センター運営協議会委員（2013.6から）	長崎市
今泉芳孝・助教	在韓被爆者健康診断・相談事業（2013.6から）	長崎県
今泉芳孝・助教	評議員	日本血液学会

氏名・職	委員会等名	関係機関名
田口 潤・助教	調整医師	公益財団法人 骨髄移植推進財団 (H25.10.1より名称変更:公益財団法人 日本骨髄バンク)
田口 潤・助教	移植施設責任者	公益財団法人 骨髄移植推進財団 (H25.10.1より名称変更:公益財団法人 日本骨髄バンク)
田口 潤・助教	評議員	日本造血細胞移植学会
澤山 靖・助教	調整医師	公益財団法人 骨髄移植推進財団 (H25.10.1より名称変更:公益財団法人 日本骨髄バンク)
安東恒史・助教	調整医師	公益財団法人 骨髄移植推進財団 (H25.10.1より名称変更:公益財団法人 日本骨髄バンク)

民間等との共同研究 (※原研及び医学部業績集にて掲載。医歯薬業績集では競争的資金に転載。)

氏名・職	共同研究先	研究題目
宮崎泰司・教授	大塚製薬	ODK-1001/1002臨床性能試験
宮崎泰司・教授	大塚製薬	ODK-1003臨床性能試験

競争的研究資金獲得状況

氏名・職	資金提供元	代表・分担	研究題目
宮崎泰司・教授	厚生労働省	代表	厚生労働科学研究費補助金(がん臨床研究事業)全例登録を基盤とした高リスク骨髄異形成症候群に対する標準治療の確立および予後マーカー探索の研究
宮崎泰司・教授	厚生労働省	代表	厚生労働科学研究費補助金(地球規模保健課題推進研究事業)我が国の経験を踏まえた開発途上国における献血制度の構築と普及に関する研究(指定)
宮崎泰司・教授	厚生労働省	分担	厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患克服研究事業)特発性造血障害に関する研究(研究代表者:黒川峰夫)
宮崎泰司・教授	厚生労働省	分担	厚生労働科学研究費補助金(第3次対がん総合戦略事業)DNAチップによる急性白血病の新規分類法提案(研究代表者 間野博行)
今泉芳孝・助教	厚生労働省	分担	厚生労働科学研究費補助金(がん臨床研究事業)ATLの診療実態・指針の分析による診療体制の整備(研究代表者 塚崎邦弘)
今泉芳孝・助教	厚生労働省	分担	厚生労働科学研究費補助金(がん臨床研究事業)成人T細胞白血病リンパ腫に対するインターフェロン α とジドブジン併用療法の有用性の検証に係る調査研究(研究代表者 塚崎邦弘)
今泉芳孝・助教	厚生労働省	分担	厚生労働科学研究費補助金(第3次対がん総合戦略研究事業)ATLの腫瘍化並びに急性転化、病型変化に関連する遺伝子群の探索と病態への関与の研究(研究代表者 軽留部謙之輔)
宮崎泰司・教授	独立行政法人国立がん研究センター	分担	独立行政法人国立がん研究センター(運営交付金・研究開発費)難治性白血病に対する標準的治療法の確立に関する研究(研究代表者:小林幸夫)

5. 研究活動概要－原爆・ヒバクシャ医療部門

氏名・職	資金提供元	代表・分担	研究題目
宮崎泰司・教授	独立行政法人国立長寿医療研究センター	分担	独立行政法人国立長寿医療研究センター（長寿医療研究開発費）高齢者造血障害における層別化治療を目指した分子疫学的研究（研究代表者：笠井雅信）
宮崎泰司・教授	科学技術振興機構	分担	独立行政法人科学技術振興機構（次世代がん）創薬コンセプトに基づく戦略的治療デザイン的确立（研究代表者：直江知樹）
宮崎泰司・教授	日本学術振興会	分担	基盤研究（C） 原爆被爆者造血器腫瘍の臨床的特性に基づいた発症リスク評価（研究代表者：岩永正子）
今泉芳孝・助教	日本学術振興会	分担	基盤研究（C） 低悪性度ATLとHTLV-1キャリアの併合解析による中間群の抽出（研究代表者：塚崎邦弘）

その他

新聞等に掲載された活動

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
宮崎泰司・教授	韓国での放射線被曝者医療セミナーに参加して	NASHIMヒバクシャ医療国際協力会通信 Vol.33	2013年3月27日	韓国への専門家派遣～被曝者医療セミナーの開催～：ハプチョンでの医療機関訪問と被ばく者医療セミナー開催。ソウルでの医療関係者向け、広島・長崎の被ばく者医療向けの最新の知見と福島原発事故への対応や健康影響について講演をするため、広島の放射線被曝者医療国際協力推進協議会（HICARE）と初めて合同で実施した。
宮崎泰司・教授	第12回国際MDSシンポジウムに参加して	骨髄異形成症候群（MDS）連絡会 わいわいHome通信 No.13	2013年6月	2013年5月にベルリンで開催されたMDSシンポジウムに出席した感想及び最新のMDS研究の紹介。また、ドイツでのMDS患者会の様子を紹介した。
蓬萊真喜子・医員（大学院生）	長崎 女性医師× Special Discussion 長崎の女性医師4人による“長崎の医師でよかった”トーク	キャリアの軌跡 女性医師特集号-2 Vol.40（長崎大学病院 医療教育開発センター発行）	2013年6月20日	女性医師支援に力を入れた働きやすい環境について、長崎の女性医師4人で意見を出し合った。
宮崎泰司・教授	白血病原因遺伝子を発見－被曝数十年後高確率で発症、死亡（マウス実験）	読売新聞（東京版）夕刊	2013年9月10日	広島大学の稲葉俊哉教授、本田浩章教授らの研究チームが9月9日付の科学誌「キャンサー・セル」電子版に放射線被曝による白血病の原因遺伝子をマウス実験にて発見した。と発表した件について、読売新聞記者より取材され「7番染色体の欠落は放射線に限定されたことではなく、薬剤などでも起きる。マウスを使った実験だが、放射線被曝で起きる白血病の原因解明にもつながる効果だ」とコメントをした。

原爆・ヒバクシャ医療部門

腫瘍・診断病理学研究分野（原研病理）

スタッフ

教授：中島正洋

助教：七條和子

助教：松田勝也

助教：赤澤祐子（2013年10月1日～）

大学院生：Mussazhanova Zhanna

技術職員：川田敏幸

2013年度研究活動実績

本研究分野では、原爆被爆者腫瘍の分子病理学的研究や放射線発がんの分子機構解明を目的とした研究と同時に、腫瘍診断病理学と分子病理学研究も行っている。本年度は以下の3つの研究成果について紹介する。

1) Semi-dry dot-blot法（SDB法）を用いた新しい乳癌センチネルリンパ節転移診断法を報告した（Otsubo, et al., *Int J Cancer* 2013）。SDB法は、検体をhomogenizeすることなく、通常の術中迅速診断に提出する検体の洗浄液を用いて解析するため、同一検体による病理診断との比較が可能である。前方視的研究により、最終病理診断に対する本法の感度、特異度、一致率は各々 93.3%, 96.9%, 96.6%であり、診断時間は術中迅速診断と同様の約43.3分で、精確、鋭敏かつ迅速で低コストの方法であることが判明した。今後のキット化を検討中である。

2) 甲状腺微小乳頭癌でのDNA損傷応答分子53BP1の発現が、BRAF遺伝子変異や病理組織像と有意な関連のあることを明らかにした（Mussazhanova, et al., *Histopathology* 2013）。53BP1損傷応答異常型発現を示す微小乳頭癌は、安定型と比較して、BRAF^{V600E}突然変異と乳頭状・索状組織構造が、有意に高頻度であった。甲状腺がん化早期でのBRAF^{V600E}突然変異を介したゲノム不安定性の関与が示唆される。

3) 甲状腺濾胞性腫瘍の病理診断における53BP1蛍光免疫染色の有用性について大学院生が研究発表を行い、第17回日本内分泌病理学会学術総会（横浜市）で最優秀賞を受賞した。濾胞癌は、乳頭癌で見られるような特徴的核所見は認めず、病理診断が困難な腫瘍として知られる。本研究は濾胞癌と濾胞腺腫の鑑別診断に役立つ知見を提供した。

Research activities in the FY 2013.

Our research projects include “Diagnostic and molecular pathology for cancers” as well as “Molecular pathologic study of cancers from A-bomb survivors” and “Analyses of molecular pathogenesis for radiation-induced tumor”. In FY 2013, we have accomplished three results as following:

1) We developed a new detection method for lymph node metastasis in breast cancer patients by using the semi-dry dot-blot (SDB) method (Otsubo, et al., *Int J Cancer* 2013). This method detects the presence of cancer cells with washing but homogenizing of sectioned lymph nodes and enables to compare its result with pathologic diagnosis by same specimen. Our prospective study revealed the sensitivity, specificity, accuracy, and mean required time of this technique were 93.3%, 96.9%, 96.6%, and 43.3 minutes, respectively. Thus, our new method is accurate, sensitive, quick, and cost-effective. Now, we are developing a kit to utilize this method, clinically.

2) To clarify the value of a DNA damage response (DDR) molecule 53BP1 expression as a new molecular marker for the aggressiveness of thyroid papillary microcarcinoma, we assessed the association between the type of 53BP1 expression and clinicopathological features of PMC (Mussazhanova, et al., *Histopathology* 2013). In conclusion, abnormal/high DDR type of 53BP1 expression might be associated with genomic instability and papillary/trabecular morphology at an early stage of papillary thyroid carcinogenesis through BRAF^{V600E} mutation.

3) Our post-graduate student was awarded a best presentation prize in the 17th annual meeting of Japan Endocrine Pathology Society (Yokohama) because of presenting his study about the validity of immunofluorescence analysis for 53BP1 expression in pathologic diagnosis for thyroid follicular tumors (TFTs). It is not rare for pathologist to feel difficulty in diagnosing TFTs, such as follicular adenoma and carcinoma, because the criteria for distinguishing these lesions are based upon histological evidence of capsular or vascular invasion and metastasis but not upon nuclear atypia. This study provided a new finding to help differential diagnosis for TFTs.

業績

論文

A 欧文

A-a

1. Hamuy R, Kinoshita N, Yoshimoto H, Hayashida K, Houbara S, Nakashima M, Suzuki K, Mitsutake N, Mussazhanova Z, Kashiyama K, Hirano A, Akita S: One-stage, simultaneous skin grafting with artificial dermis and basic fibroblast growth factor successfully improves elasticity with maturation of scar formation. *Wound Repair and Regeneration* 21(1):141-154, 2013(IF:2.911) *
2. Khan KN, Kitajima M, Fujishita A, Nakashima M, Masuzaki H: Toll-like receptor system and endometriosis. *Journal of Obstetrics and Gynaecology Research* 39(8):1281-1292, 2013(IF:0.841) *
3. Khan KN, Kitajima M, Inoue T, Tateishi S, Fujishita A, Nakashima M, Masuzaki H: Additive effects of inflammation and stress reaction on Toll-like receptor 4-mediated growth of endometriotic stromal cells. *Human Reproduction* 28(10):2794-2803, 2013(IF:4.670) *
4. Nagaoka K, Yanagihara K, Harada Y, Yamada K, Migiyama Y, Morinaga Y, Izumikawa K, Takeya H, Nakashima M, Nishimura M, Kohno S: Establishment of a new murine model of liver abscess due to fusobacterium necrophorum via Injection into Caudal Vein. *Journal of Medical Microbiology* 62(11):1755-1759, 2013(IF:2.297) *
5. Akilzhanova A, Nurkina Z, Momynaliev K, Ramanculov E, Zhumadilov Z, Rakhypbekov T, Hayashida N, Nakashima M, Takamura N: Genetic profile and determinants of homocysteine levels in Kazakhstan patients with breast cancer. *Anticancer Research* 33(9):4049-4059, 2013(IF:1.713) *
6. Bychkov A, Saenko V, Nakashima M, Mitsutake N, Rogounovitch T, Nikitski A, Orim F, Yamashita S: Patterns of FOXE1 expression in papillary thyroid carcinoma by immunohistochemistry. *Thyroid* 23(7):817-828, 2013(IF:3.544) *
7. Toyoda T, Tosaka S, Tosaka R, Maekawa T, Cho S, Eguchi S, Nakashima M, Sumikawa K: Milrinone-induced postconditioning reduces hepatic ischemia-reperfusion injury in rats: the roles of phosphatidylinositol 3-kinase and nitric oxide. *Journal of Surgical Research* 186(1):446-451, 2013(IF:2.018) *
8. Mussazhanova Z, Matsuda K, Naruke Y, Mitsutake N, Stanojevic B, Rougounovitch T, Saenko V, Suzuki K, Nishihara E, Hirokawa M, Ito M, Nakashima M: Significance of p53-binding protein 1 (53BP1) expression in thyroid papillary microcarcinoma: association with BRAFV600E mutation status. *Histopathology* 63(5):726-734, 2013(IF:2.857) *
9. Khan KN, Kitajima M, Fujishita A, Hiraki K, Matsumoto A, Nakashima M, Masuzaki H: Pelvic pain in women with ovarian endometrioma is mostly associated with coexisting peritoneal lesions. *Human Reproduction* 28(1):109-118, 2013(IF:4.670) *
10. Nakao K, Oikawa M, Arai J, Mussazhanova Z, Kondo H, Shichijo K, Nakashima M, Hayashi T, Yoshiura K, Hatachi T, Nagayasu T: A predictive factor of the quality of microarray comparative genomic hybridization analysis for formalin-fixed paraffin-embedded archival tissue. *Diagnostic Molecular Pathology* 22(3):174-180, 2013(IF:1.861) *
11. Otsubo R, Oikawa M, Hirakawa H, Shibata K, Abe K, Hayashi T, Kinoshita N, Shigematsu K, Hatachi T, Yano H, Matsumoto M, Takagi K, Tsuchiya T, Tomoshige K, Nakashima M, Taniguchi H, Omagari T, Itoyanagi N, Nagayasu T: Novel diagnostic procedure for determining metastasis to sentinel lymph nodes in breast cancer using a semi-dry dot-blot method. *International Journal of Cancer* 134(4):905-912, 2013(IF:6.198) *
12. Akazawa Y, Isomoto H, Matsushima K, Kanda T, Minami H, Yamaguchi N, Taura N, Shinozawa K, Ohnita K, Takeshima F, Nakano M, Moss J, Hirayama T, Nakao K: Endoplasmic reticulum stress contributes to helicobacter pylori VacA-induced apoptosis. *Plos one* 8(12): e82322, 2013(IF:3.730) *

A-e-1

1. Shichijo K, Takatsuji T, Yamamoto M, Ohtaki M: Internal deposition and nuclide identification of alpha-emitters by autoradiography in specimen of atomic bomb victims at Nagasaki. The 3rd International symposium of RIRBM 3:69, 2013

B 邦文

B-a

1. 山口仁平, 金子賢一, 石丸幸太郎, 高橋晴雄, 岡田雅彦, 中島正洋: 口腔底骨外性ユーイング肉腫例. 耳鼻臨床 106(1):35-40, 2013
2. 東 俊太郎, 荒木智徳, 三嶋亮介, 柳 謙二, 井上健一郎, 牧山和也, 磯本 一, 中尾一彦, 三浦史郎: 内視鏡の読み方 病原性大腸菌O157:H7出血性大腸炎. 臨床消化器内科 28(6):753-756, 2013
3. 和田英雄, 富永哲郎, 古川克郎, 党 和夫, 柴崎信一, 岡 忠之: 小腸内視鏡検査にて術前診断しえた腹部鈍的外傷後の遅発性小腸狭窄の1例. 日救急医学会誌 33(6):1077-1080, 2013

B-e-1

4. 松山睦美, 七條和子, 松田勝也, 三浦史郎, 関根一郎, 中島正洋: ラット甲状腺濾胞上皮の放射線応答に対する年齢影響. 日本放射線影響学会講演要旨集 56:132, 2013
5. 七條和子, 高辻俊宏, 福本 学, 松山睦美, 三浦史郎, 関根一郎, 中島正洋: 内部被曝及び外部被曝における組織障害と放射線応答について. 日本放射線影響学会講演要旨集 56:131, 2013
6. 松田勝也, 山領 豪, 三浦史郎, 松山睦美, 七條和子, 大坪竜太, 宮下光世, 関根一郎, 中島正洋: 塵肺との関連が示唆された胸膜血管肉腫の1剖検例. 日本病理学会会誌 102(1):430, 2013
7. 三浦史郎, 蔵重智美, 近藤久義, 松田勝也, 大坪竜太, 松山睦美, 七條和子, 波多智子, 宮崎泰司, 山下俊一, 関根一郎, 中島正洋: 長崎被爆者腫瘍組織バンクの経過報告(第3報)～核酸の抽出, 保存～. 日本病理学会誌 102(1):441, 2013
8. 七條和子, 高辻俊宏, 福本 学, 松山睦美, ムサジャノワ ジャンナ, 三浦史郎, 松田勝也, 関根一郎: 長崎原爆被爆者の剖検・パラフィン標本を用いた残留放射能の検出法と内部被曝の影響について. 日本病理学会誌 102(1):441, 2013
9. 山口裕佳, 松田勝也, 三浦史郎, 大坪竜太, 中島正洋: 神経内分泌腫瘍の分化・異型度とPTEN異常およびソマトスタチン受容体発現の解析. 日本病理学会会誌 102(2):36, 2013
10. 川上総子, 南 恵樹, 崎村千香, 林田直美, 山之内孝彰, 金高賢悟, 江口 晋, 三浦史郎, 中島正洋: 乳腺原発印環細胞癌の1例. 日本乳癌学会九州地方会抄録集 10:36, 2013
11. 大坪竜太, 松田勝也, 三浦史郎, 松山睦美, 七條和子, 中島正洋: 甲状腺濾胞性腫瘍術前診断法としてのp53-binding protein 1 (53BP1) 蛍光免疫染色の意義. 日本内分泌病理学会抄録集 17:39, 2013

学会発表

A 欧文

A-a

1. 第13回IAP日韓合同スライドカンファランス 中島正洋・教授 2013年12月6日-7日 日本

A-b

1. The 3rd International symposium of RIRBM, Hiroshima University- Biological Effects of Low Dose Radiation - 七條和子・助教 2013年2月12日-13日 日本
2. The 64th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases 赤澤祐子・助教 2013年11月1日-5日 アメリカ

論文数一覧

	A-a	A-b	A-c	A-d	A-e	合計	SCI	B-a	B-b	B-c	B-d	B-e	合計	総計
2013	12	0	0	0	1	13	12	3	0	0	0	8	11	24

5. 研究活動概要－原爆・ヒバクシャ医療部門

学会発表数一覧

	A-a	A-b		合計		B-a	B-b		合計	総計
		シンポジウム	学会				シンポジウム	学会		
2013	1	1	1	3		0	0	16	16	19

論文総数に係る教員生産係数一覧

	欧文論文総数 論文総数	教員生産係数 (欧文論文)		SCI掲載論文数 欧文論文総数	教員生産係数 (SCI掲載論文)
2013	0.542	3.25		0.923	3

Impact factor 値一覧

	Impact factor	教員当たり Impact factor	論文当たり Impact factor
2013	37.31	9.328	3.109

学術受賞 (※論文数等調査にて使用。原研及び医歯薬業績集では特筆すべき事項に転載。)

氏名・職	賞の名称	授与機関名	授賞理由、研究内容等
大坪竜太・ 大学院3年	第17回日本内分泌病理学会 学術総会 最優秀賞	日本内分泌 病理学会	甲状腺濾胞性腫瘍術前診断法としてのp53-binding protein1 (53BP1) 蛍光免疫染色の意義
山口裕佳・ 医学科2年	第59回日本病理学会秋期 特別総会 優秀賞	日本病理学会	神経内分泌腫瘍の分化・異型度とPTEN異常および ソマトスタチン受容体発現の解析

教育活動 (※原研業績集にて掲載。)

氏名・職	職 (担当科目)	関係機関名
中島正洋・教授	病理総論系	長崎大学医学部
中島正洋・教授	総合病理学・CPC	長崎大学医学部
中島正洋・教授	病理各論系	長崎大学医学部
中島正洋・教授	消化器系	長崎大学医学部
中島正洋・教授	国際保健入門	長崎大学医学部
中島正洋・教授	原爆医学概論	長崎大学医学部
中島正洋・教授	臨床実習/5年	長崎大学医学部
中島正洋・教授	放射線リスクと健康科学	長崎大学医学部
中島正洋・教授	病理各論	長崎大学歯学部
中島正洋・教授	全学モジュールⅠ 「遺伝子と生命」	長崎大学教養教育
中島正洋・教授	全学モジュールⅡ 「被ばく者と医療」	長崎大学教養教育
松田勝也・助教	臨床実習/5年	長崎大学医学部
中島正洋・教授	非常勤講師 (病理学)	長崎市医師会看護専門学校
七條和子・助教	非常勤講師 (病理学)	長崎女子短期大学

社会活動

氏名・職	委員会等名	関係機関名
中島正洋・教授	評議員	日本病理学会
中島正洋・教授	評議員	日本内分泌病理学会
中島正洋・教授	評議員	日本臨床細胞学会
中島正洋・教授	非常勤研究員	(財)放射線影響研究所
中島正洋・教授	疫学部顧問	(財)放射線影響研究所

氏名・職	委員会等名	関係機関名
中島正洋・教授	原爆症に関する調査研究班班員	(財)日本公衆衛生協会
中島正洋・教授	幹事	日本臨床細胞学会長崎支部
中島正洋・教授	がん対策部会専門委員会(がん登録委員会)委員	長崎県保健医療対策協議会
中島正洋・教授	代議員	日本細胞診断学推進協会
中島正洋・教授	理事	日本甲状腺病理学会
七條和子・助教	評議員	日本実験潰瘍学会
七條和子・助教	評議員	日本薬理学会
七條和子・助教	評議員	日本自律神経学会
松田勝也・助教	幹事	日本臨床細胞学会長崎支部

民間等との共同研究

氏名・職	共同研究先	研究題目
七條和子・助教	広島大学原爆放射線医科学研究所	原爆被爆者に関するプルトニウムと内部被曝の研究－その3

競争的研究資金獲得状況

氏名・職	資金提供元	代表・分担	研究題目
中島正洋・教授	日本学術振興会	代表	基盤研究(C) 甲状腺濾胞性腫瘍の53BP1発現とゲノム不安定性：分子病理マーカーとしての意義
中島正洋・教授	日本学術振興会	分担	基盤研究(C) 放射線誘発小児甲状腺がんの発生機序の解明
中島正洋・教授	日本学術振興会	分担	基盤研究(B) 甲状腺がん発症の分子機構と予後決定因子の解明
中島正洋・教授	日本学術振興会	分担	基盤研究(A) チェルノブイリ原発事故後の放射線発がんリスク分子疫学調査研究
中島正洋・教授	日本学術振興会	分担	基盤研究(C) 放射線腸炎に対する自家脂肪組織由来間葉系前駆細胞を用いた再生治療
中島正洋・教授	日本学術振興会	分担	基盤研究(C) 甲状腺癌リスク因子FOXO1とNKX2-1は良性腺腫形成にも関連するのか
中島正洋・教授	日本学術振興会	分担	基盤研究(B) チェルノブイリ小児甲状腺癌のパラフィン組織バンク設立と新規癌遺伝子解析
七條和子・助教	日本学術振興会	代表	基盤研究(C) 被爆者病理標本における残留放射能の検出と内部被曝の分子病態解明

特許

氏名・職	特許権名称	出願年月日	取得年月日	番号
七條和子・助教	皮膚熱傷治療剤および表皮再生促進剤	2007年 2月28日	出願中	特願2007-049534

氏名・職	特許権名称	出願年月日	取得年月日	番号
平川 宏・助教	癌転移の検出方法および検出キット	2010年 2月22日	出願中	特願2010-036515

その他
新聞等に掲載された活動

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
七條和子・助教	病理標本から被ばく く解明	長崎新聞	2013年 2月3日	原爆投下からやがて70年になろうとする 中、被爆地長崎では米国から返還された 被爆者の病理（解剖）標本から、内部被 ばくの実態を解明する作業がすすめられ ている。
中島正洋・教授	長崎大「原研」創 設50年	長崎新聞	2013年 2月9日	原研創設50周年の紹介記事で、被爆者臓 器保存の内容、生体試料バンクの必要性、 がん研究について解説した。
中島正洋・教授	終わりのなき被爆と の闘い～被爆者と 医師の68年～	NHKスペシャル (放送)	2013年 8月6日	被爆から68年の今、第2の白血病MDS（骨 髄異形成症候群）が被爆者を襲っている。 MDSと被爆の因果関係の証明、目に見え ない放射線が人の体を蝕むメカニズムな ど広島、長崎の医師たちの粘り強い研究 と治療。終わることのない原爆の脅威を 抱える患者の叫びと寄り添う医師たちの 絆を映した番組への取材協力。

原爆・ヒバクシャ医療部門

アイソトープ診断治療学研究分野（原研放射）

スタッフ

教授：工藤 崇

准教授：岡市協生

助教：井原 誠

技術専門職員：福田直子

派遣職員：馬場幸紀

2013年度研究活動実績

我々の教室は放射線の生体に与える細胞レベルの障害についての基礎研究と、ホールボディカウンターを用いた生体内微量放射能測定に関する研究、放射性同位元素を用いた生体イメージング（核医学）の臨床応用・研究、並びに医療放射線のリスク研究を行っている。

2013年度は、基礎研究においては昨年度に引き続き、p53の放射線感受性に与える影響についての研究とDNA二本鎖切断の修復系に関する研究を行った。p53については、様々な変異が存在し、変異部位によって放射線感受性が異なることが明らかになった。また、DNA二本鎖切断については、細胞株によって修復系が異なることが明らかとなった。臨床研究として、心電図同期心筋血流シンチグラフィの自動解析ソフトを用いた解析精度を日本核医学会において報告した。また、病院放射線部門とホールボディカウンターの連携により、成人正常男性における放射性ヨウ素の生体内挙動に関する研究を行った。これは長崎大学病院が病院として取り組む初めての臨床研究である。また、ドイツマインツ大学、ライプニッツ予防医学・疫学研究所（BIPS）との連携による、小児CTによる医療被ばくの日独比較研究を行っている。放射線影響学会、日本医学放射線学会にて発表の後、2014年度に論文として公表の予定である。

Research activities in the FY 2013.

Our department studies about basic scientific research about cell biological response to radiation, measuring radioactivity in living human using whole body counter and nuclear medicine practices. In year 2013, we continuously studied about #1: relationship between radiological effect and p35, #2: DNA double strand repair.

Regarding former issue, we found difference of cell responses to radiation damage relates to the site of mutation of p53. Regarding later issue, we found that there is difference of DNA repair pathway between cell strains. For the clinical study, we reported the evaluation of automated analysis of ECG gated myocardial perfusion imaging analysis in annual meeting of Japan Society of Nuclear Medicine. This year, we performed collaborative study with Nagasaki University Hospital about biodistribution of radioactive iodine in healthy adult male using gamma camera in hospital and whole body counter in atomic bomb disease institute. This is the first clinical study which whole Nagasaki University Hospital worked as the body of clinical study. We also performing international comparative study of pediatric CT practices in Japan and Germany with Johannes Gutenberg-Universität Mainz and Leibniz institute for prevention research and epidemiology - BIPS. The results were partly presented in the annual meeting of Japan Radiation Research Society and Japan Radiological Society. The complete results of this study will be published within year 2014.

業績

論文

A 欧文

A-a

1. Fukuoka Y, Nakano A, Uzui H, Amaya N, Ishida K, Arakawa K, Kudo T, Okazawa H, Ueda T, Lee JD, Tada H: Reverse blood flow-glucose metabolism mismatch indicates preserved oxygen metabolism in patients with revascularised myocardial infarction. *Eur J Nucl Med Mol Imaging* 40 (8): 1155-1162, 2013(IF:5.114) *
2. Koike H, Sueyoshi E, Kido Y, Nagayama H, Sakamoto I, Uetani M, Kudo T, Ikeda S: Pulmonary artery hypertension associated with systemic scleroderma: correlation among lung pulmonary blood volume, lung perfusion single photon emission computed tomography, and chest computed tomography images. *Circulation* 127(1): 141-142, 2013(IF:15.202) *
3. Matsuda N, Kumagai A, Ohtsuru A, Morita N, Miura M, Yoshida M, Kudo T, Takamura N, Yamashita S: Assessment of internal exposure doses in Fukushima by a whole body counter within one month after the nuclear power plant accident. *Radiat Res* 179 (6): 663-668, 2013(IF:2.698) *
4. Morita N, Miura M, Yoshida M, Kumagai A, Ohtsuru A, Usa T, Kudo T, Takamura N, Yamashita S, Matsuda N: Spatiotemporal characteristics of internal radiation exposure in evacuees and first responders after the radiological accident in Fukushima. *Radiat Res* 180 (3): 299-306, 2013(IF:2.698) *
5. Nanashima A, Abo T, Arai J, Matsumoto H, Kudo T, Nagayasu T. Functional liver reserve parameters predictive for posthepatectomy complications. *J Surg Res* 185 (1):127-135, 2013(IF:2.018) *
6. Nanashima A, Abo T, Kudo T, Sakamoto I, Hayashi H, Murakami G, Takeshita H, Hidaka S, Kido Y, Nagayasu T: Usefulness of examining hepatic functional volume using technetium-99m galactosyl serum albumin scintigraphy in hepatocellular carcinoma. *Nucl Med Commun* 34(5): 478-488, 2013(IF: 1.379) *
7. Nanashima A, Abo T, Murakami G, Matsumoto A, Tou K, Takeshita H, Kunizaki M, Hidaka S, Sakamoto I, Hayashi H, Fukuda T, Kudo T, Nagayasu T: Intrahepatic cholangiocarcinoma: relationship between tumor imaging enhancement by measuring attenuation and clinicopathologic characteristics. *Abdom Imaging* 38 (4): 785-792, 2013(IF:1.905) *
8. Nanashima A, Abo T, Tobinaga S, Murakami G, Kido Y, Fukuda T, Tsuchiya T, Matsumoto H, Nagayasu T, Kudo T: Correlation between morphological and functional liver volume in each sector using integrated SPECT/CT imaging by computed tomography and technetium-99m galactosyl serum albumin scintigraphy in patients with various diseases who had undergone hepatectomy. *Nucl Med Commun* 34 (7): 652-659, 2013(IF:1.379) *
9. Okaichi K, Izumi N, Takamura Y, Fukui S, Kudo T: Transcriptional specificity in various p53-mutant cells. *Anticancer Res* 33 (3): 923-928, 2013(IF: 1.713) * ▽◇
10. Oyama N, Ito H, Aoki Y, Miwa Y, Akino H, Kudo T, Okazawa H, Fujibayashi Y, Welch M, Yokoyama O: Carbon-11-acetate positron emission tomography (PET), versus fluorine- 18 fluorodeoxyglucose PET and CT for the diagnosis of recurrent prostate cancer after radical prostatectomy in cases of prostate specific antigen of more than 1 to 3ng/mL. *Hell J Nucl Med* 16 (2): 146-147, 2013(IF:0.679) *

B 邦文

B-b

1. 工藤崇：特集「心臓核医学の最前線（前編）」2）心筋代謝とPET薬剤. *PETジャーナル*23(3)：34-36, 2013

B-e-2

1. 岡市協生, 工藤崇：p53のホットスポット変異によりARFとINK4A経路が抑制されて癌になりやすくなる. 日本放射線影響学会第56回大会 講演要旨集pp118, 2012 ▽◇
2. 岡市協生, 土屋皓平, 古賀哲, 江藤良, 工藤崇：放射線被曝によるマイクロRNAの誘導にはp53のリン酸化が関与する. 第54回原爆後障害研究会 ▽◇
3. 井原 誠, 小林純也, 栗政明弘, 小松賢志, 工藤 崇：Ku欠損細胞における相同組換え修復. 日本放射線影響学会第56回大会 講演要旨集pp162, 2012 ▽◇
4. 齋藤裕一郎, 井原 誠, 平山亮一, 下等晃弘, 小林純也, 小松賢志：レポーター遺伝子を用いた生存率曲線定量モデル“saturable Repair Model”の生物学的検証. 日本放射線影響学会第56回大会 講演要旨集pp165, 2012 ▽◇

学会発表

B 邦文

B-a

1. 第1回New Clear Imaging Conference 特別講演 工藤 崇・教授 2013年1月26日 大阪
2. 第24回21世紀心臓核医学カンファレンス 特別講演 工藤 崇・教授 2013年9月13日 大阪

B-b

1. 第35回New Town Conference教育講演 工藤 崇・教授 2013年2月16日 神戸
2. PETサマーセミナー 2013 in 加賀百万石 シンポジウム講演 工藤 崇・教授 2013年8月25日 金沢
3. 第53回日本核医学会学術総会シンポジウム講演 工藤 崇・教授 2013年11月9日 福岡

論文数一覧

	A-a	A-b	A-c	A-d	A-e	合計	SCI	B-a	B-b	B-c	B-d	B-e	合計	総計
2013	10	0	0	0	0	10	10	0	1	0	0	4	5	15

学会発表数一覧

	A-a	A-b		合計	B-a	B-b		合計	総計
		シンポジウム	学会			シンポジウム	学会		
2013	0	0	0	0	2	3	4	9	9

論文総数に係る教員生産係数一覧

	欧文論文総数 論文総数	教員生産係数 (欧文論文)	SCI掲載論文数 欧文論文総数	教員生産係数 (SCI掲載論文)
2013	0.667	3.333	1	3.333

Impact factor 値一覧

	Impact factor	教員当たり Impact factor	論文当たり Impact factor
2013	34.785	11.595	3.479

教育活動 (※原研業績集にて掲載。)

氏名・職	職 (担当科目)	関係機関名
工藤 崇・教授	環境因子系, 放射線医学, 循環器医学	長崎大学医学部
工藤 崇・教授	全学モジュールII「話題の先進医学」	長崎大学教養教育
岡市協生・准教授	環境因子系, 腫瘍系	長崎大学医学部
井原 誠・助教	環境因子系	長崎大学医学部
井原 誠・助教	全学モジュールI「遺伝子と生命」	長崎大学教養教育
工藤 崇・教授	非常勤講師 (医科学特論)	福井大学大学院
工藤 崇・教授	非常勤講師 (放射線医学)	長崎医療技術専門学校
岡市協生・准教授	非常勤講師 (生物学, ラジオアイソトープ)	九州医学技術専門学校

社会活動

氏名・職	委員会等名	関係機関名
工藤 崇・教授	評議員	日本核医学会
工藤 崇・教授	幹事	日本心臓核医学会
工藤 崇・教授	2013年度総会学術集会・プログラム委員	日本核医学会
工藤 崇・教授	プログラム委員長	New Town Conference

5. 研究活動概要－原爆・ヒバクシャ医療部門

氏名・職	委員会等名	関係機関名
工藤 崇・教授	評議員	日本核医学会九州地方会

その他

特筆すべき事項

- ①福島第一原発事故に関連した、福島滞在者その他の公衆における内部被ばくの測定を、長崎大学病院国際ヒバクシャ医療センターとの協力の下、2011,12年に引き続き、約50名行った。

資料収集保存・解析部

生体材料保存室

スタッフ

(併) 教授：中島正洋

助教：三浦史郎

助教：松山睦美（2013年10月1日～）

2013年度研究活動実績

人体に長期継続する放射線影響の分子機構を詳細に解析するためには、被爆者の組織試料は貴重かつ不可欠です。これまでは、病理診断のために作製されたホルマリン固定パラフィンブロックとして保存された組織試料を対象とした研究が主でしたが、核酸は断片化するため網羅的解析には限界があります。我々は、平成19年度に採択された長崎大学グローバルCOEプログラム「放射線健康リスク制御国際戦略拠点」の原爆医療研究プロジェクトのひとつとして、2008年4月より長崎被爆者腫瘍組織の新鮮凍結試料の収集を開始しました。対象は長崎大学病院外科および日赤長崎原爆病院外科で、腫瘍切除術を受ける被爆者手帳をお持ちの方です。まず被爆時の状況に関する情報や切除された組織の提供と遺伝子解析計画について、文書を用いて説明し、同意を得ます。同意が得られたら、被爆状況、家族歴、治療歴などを聴取しデータベース化します。手術で摘出された腫瘍とその周囲の正常部組織を採取し、凍結保存します。得られた凍結試料と被爆その他の診療情報は匿名化して原研施設で保管するというものです。2013年12月末までに481例（458名）の被爆者新鮮凍結腫瘍組織が収集されました。このうち放射線の影響が比較的強いと思われる、爆心地から2km以内の近距離被爆例は55例（12.0%）を占めています。がんの部位としては多い順に乳腺102例、肺101例、結腸68例、胃55例、肝50例、甲状腺36例であり、多重がんも75例（17.9%）収集されています。採取された新鮮凍結試料より、DNA/RNAの核酸抽出・分注保存も同時に行っています。

Research activities in the FY 2013.

The clinicopathological data and tissue samples of atomic bomb survivors are absolutely imperative to understand the late health effect of radiation at molecular pathologic level. Biomaterials of survivors are usually preserved as several formalin-embedded paraffin-embedded tissue blocks, but, there is a limit to the comprehensive analysis since nucleic acid fragmentation. As one of A-bomb disease medicine project of Nagasaki University Global COE program "Global Strategic Center for Radiation Health Risk Control", we have established the tissue bank for cancers which were freshly resected from A-bomb survivors together with information on the A-bombing and medical data since April 2008. The population used in this bank was confined to A-bomb survivors' patient who undergoes a lumpectomy in the Japanese Red Cross Nagasaki A-bomb hospital and Nagasaki University hospital. Plans for delivery and gene analysis of excised tissue, and information of circumstances at the time of exposure, will be described with reference to documents, we first obtain the consent. If consent was obtained, we will listen to exposure situation, family history, and treatment history, and then compile a database. Both tumor tissue and the surrounding normal part which removed by surgery are collected and stored as frozen samples. Other clinical information and frozen samples are all made anonymous. 481 cases (458 persons) fresh frozen tumor tissue from survivors have been collected by the end of December 2013. In this bank, the proximal distance cases who were exposed less than 2km from the hypocenter, which appear relatively strong effects of radiation, accounted for 55 cases (12.0%). As the site of the cancer, 102 cases of breast, 101 cases of lung, 68 cases of colon, 55 cases of stomach, 50 cases of liver, and 36 cases of thyroid in descending order, are collected. 75 cases(17.9%) as multiple cancers also are included. We are also extracting DNA and RNA from the collecting fresh frozen tissue.

業績

論文

B 邦文

B-a

17. 東 俊太郎, 荒木智徳, 三嶋亮介, 柳 謙二, 井上健一郎, 牧山和也, 磯本 一, 中尾一彦, 三浦史郎: 内視鏡の読み方 病原性大腸菌O157: H7出血性大腸炎. 臨床消化器内科 28(6):753-756, 2013

B-e-1

12. 松山睦美, 七條和子, 松田勝也, 三浦史郎, 関根一郎, 中島正洋: ラット甲状腺濾胞上皮の放射線応答に対する年齢影響. 日本放射線影響学会講演要旨集 56: 132, 2013
13. 七條和子, 高辻俊宏, 福本 学, 松山睦美, 三浦史郎, 関根一郎, 中島正洋: 内部被曝及び外部被曝における組織障害と放射線応答について. 日本放射線影響学会講演要旨集56:131,2013
14. 三浦史郎, 蔵重智美, 近藤久義, 松田勝也, 大坪竜太, 松山睦美, 七條和子, 波多智子, 宮崎泰司, 山下俊一, 関根一郎, 中島正洋: 長崎被爆者腫瘍組織バンクの経過報告(第3報)～核酸の抽出, 保存～. 日本病理学会誌102(1):441,2013
15. 松田勝也, 山領 豪, 三浦史郎, 松山睦美, 七條和子, 大坪竜太, 宮下光世, 関根一郎, 中島正洋: 塵肺との関連が示唆された胸膜血管肉腫の1剖検例. 日本病理学会誌102(1):430,2013
16. 七條和子, 高辻俊宏, 福本 学, 松山睦美, ムサジャノワ ジャンナ, 三浦史郎, 松田勝也, 関根一郎: 長崎原爆被爆者の剖検・パラフィン標本を用いた残留放射能の検出法と内部被曝の影響について. 日本病理学会誌102(1):441,2013
17. 山口裕佳, 松田勝也, 三浦史郎, 大坪竜太, 中島正洋: 神経内分泌腫瘍の分化・異型度とPTEN異常およびソマトスタチン受容体発現の解析. 日本病理学会誌102(2): 36,2013
18. 川上総子, 南 恵樹, 崎村千香, 林田直美, 山之内孝彰, 金高賢悟, 江口 晋, 三浦史郎, 中島正洋: 乳腺原発印環細胞癌の1例. 日本乳癌学会九州地方会10:36,2013
19. 大坪竜太, 松田勝也, 三浦史郎, 松山睦美, 七條和子, 中島正洋: 甲状腺濾胞性腫瘍術前診断法としてのp53-binding protein 1 (53BP1) 蛍光免疫染色の意義. 日本内分泌病理学会. 17:39,2013

論文数一覧

	A-a	A-b	A-c	A-d	A-e	合計	SCI	B-a	B-b	B-c	B-d	B-e	合計	総計
2013	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	8	9	9

学会発表数一覧

	A-a	A-b		合計	B-a	B-b		合計	総計
		シンポジウム	学会			シンポジウム	学会		
2013	0	0	0	0	0	0	11	11	11

論文総数に係る教員生産係数一覧

	欧文論文総数 論文総数	教員生産係数 (欧文論文)	SCI掲載論文数 欧文論文総数	教員生産係数 (SCI掲載論文)
2013	0	0	0	0

Impact factor 値一覧

	Impact factor	教員当たり Impact factor	論文当たり Impact factor
2013	0	0	0

教育活動

氏名・職	担当科目	関係機関名
三浦史郎・助教	全学モジュール講義「遺伝子と生命」	長崎大学教養教育
三浦史郎・助教	臨床実習/5年	長崎大学医学部

氏名・職	担当科目	関係機関名
三浦史郎・助教	総合病理学	長崎大学医学部
三浦史郎・助教	消化器系	長崎大学医学部
三浦史郎・助教	病理各論系	長崎大学医学部
松山睦美・助教	臨床実習/5年	長崎大学医学部

社会活動

氏名・職	委員会等名	関係機関名
三浦史郎・助教	世話人	長崎胃疾患検討会
松山睦美・助教	評議員	日本実験潰瘍学会

競争的研究資金獲得状況

氏名・職	資金提供元	代表・分担	研究題目
松山睦美・助教	日本学術振興会	代表	若手研究 (B) 未熟及び成熟甲状腺濾胞上皮の放射線感受性とオートファジーの関与

その他

新聞等に掲載された活動

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
三浦史郎・助教	遺伝子研究に託す被爆者の思い	NHK おはよう日本	2013年 8月6日	被爆後68年経った後、遺伝子解析などめざましい研究手法の発展の中、長崎原爆被爆者の遺伝子研究のために、被爆者の腫瘍の生体試料バンキングが行われている。自らの検体を今後の研究に寄与する被爆者の思いと今後の研究の可能性について紹介。
三浦史郎・助教	遺伝子研究に託す被爆者の思い	NHK WORLD NEWSLINE	2013年 9月30日	被爆後68年経った後、遺伝子解析などめざましい研究手法の発展の中、長崎原爆被爆者の遺伝子研究のために、被爆者の腫瘍の生体試料バンキングが行われている。自らの検体を今後の研究に寄与する被爆者の思いと今後の研究の可能性について紹介。(国際放送版)

資料収集保存・解析部

資料調査室

スタッフ

(併) 教授：高村 昇

助教：近藤久義

技術専門員：横田賢一

技能補佐員：中村洋子

事務補佐員：橋本富士子，古谷由紀子

非常勤講師：三根真理子（核兵器廃絶研究センター教授）

2013年度研究活動実績

資料調査室は、原爆被爆者の疫学研究の基礎となるデータベースの維持管理および教育研究支援のための情報基盤システムの運用を担当している。また、原爆被爆者の健康影響に関する疫学研究を行っている。

原爆被爆者データベースの拡充整備

随時、データベースに収録すべき情報の収集、拡充を行っている。追跡集団は1970年以降の長崎市在住の被爆者手帳所持者約12万人が主であるが2008年からは長崎県との協定に基づき、長崎市外の長崎県内に在住する被爆者手帳所持者約4.6万人を追加した。双方には重複登録があるため、リンケージ処理で重複を除く作業を継続している。

定型業務では、月次で新規手帳取得者を含む在住履歴の追加更新（約2千人分）、定期健診結果の追加（約3万件）、年次でICD-10による死亡原因の追加（約2千人分）を行った。データ追加等のプログラム開発は部内で行っている。当該年度は入力データの変更に伴い大規模なプログラム変更を実施した。

また、昭和35年被爆者実態調査票（約6万件）および被爆状況調査票（約12万件）の画像ファイル化を完了した。今後、データベースへ収録する予定である。

原研情報システムの構築と運用

海外からの研究者、大学院生および職員の情報環境の整備、海外拠点との通信を主とした教育研究支援のための情報システムを構築した。所内全部屋での無線LANの自由利用と学内接続、大容量ファイル送信、講座・プロジェクトでの共有ディスク、会議室予約のサービス提供を開始した。無線LANの学内接続登録は84台、フリー接続では約600台の利用があった。

原爆被爆者に関する疫学研究と共同研究

原爆被爆者の生活習慣と死亡率、環境要因と検診成績、地形遮蔽とがん死亡等、高齢化する長崎の原爆被爆者の健康に与える様々な要因についての解析を行った。また、原爆による前立腺がんの発生増加に係る解析結果を公表した。その他、統計解析を分担として各種共同研究に参加した。

Research activities in the FY 2013.

In the Biostatistics section, Atomic bomb survivor's databases are being established for the epidemiologic research. We provide members in our institute with the Genken IT services for supporting education and research. We persists the epidemiological research for health effects of Atomic Bomb Survivors.

Improvement of Atomic Bomb Survivor's Database

The follow-up population of the database is expanded to the outer of Nagasaki city. One hundred twenty thousand survivors in Nagasaki city are registered in the database, and forty six thousand in the outer of Nagasaki city within Nagasaki Prefecture are appended on 2008. We are now trying to exclude duplicated records between city and prefecture using data-linkage technique.

We updated the information of individuals including moving-in, moving-out and death. The number of updated records was

approximately two thousands. We appended approximately thirty thousand records of examination and two thousands ICD-10 coded records of death causes in 2013.

Also we completed to make image data, approximately sixty thousands of source documents.

Construction and maintenance for IT service system

We provided Genken IT services for researchers and graduate student from overseas and staffs with Wireless LAN connection and other IT services as the education and research infrastructure. 84 devices registered for Campus LAN connection and approximately 600 devices used with free connection in 2013.

Epidemiological Research and joint research for atomic bomb survivors

We analyzed many factors for elderly atomic bomb survivors, for example, Lifestyle and mortality, results of health screening and environment factor, and terrain shielding and cancer mortality. Also, we published increasing of incidence of prostate cancer. We jointed taking part in analysis for various researches.

業績

論文

A 欧文

A-a

1. Kakugawa T, Yokota S, Ishimatsu Y, Hayashi T, Nakashima S, Hara S, Sakamoto N, Kubota H, Mine M, Matsuoka Y, Mukae H, Nagata K, Kohno S: Serum heat shock protein 47 levels are elevated in acute exacerbation of idiopathic pulmonary fibrosis. *Cell Stress Chaperones* 18(5): 581-590, 2013(IF:2.484) *
2. Matsubayashi S, Ikema M, Ninomiya Y, Yamaguchi K, Kondo H: Indication of soft-tissue release for spastic hip in cerebral palsy. *Journal of Japanese Paediatric Orthopaedic Association* 22(1): 11-15, 2013
3. Yokota K, Mine M, Shibata Y: Future population of atomic bomb survivors in Nagasaki. *Stud Health Technol Inform* 192: 952, 2013
4. Nakao K, Oikawa M, Arai J, Mussazhanova Z, Kondo H, Shichijo K, Nakashima M, Hayashi T, Yoshiura K, Hatachi T, Nagayasu T: A predictive factor of the quality of microarray comparative genomic hybridization analysis for formalin-fixed paraffin-embedded archival tissue. *Diagn Mol Pathol* 22(3): 174-180, 2013(IF:1.861) *
5. Kondo H, Soda M, Mine M, Yokota K: Effects of radiation on the incidence of prostate cancer among Nagasaki atomic bomb survivors. *Cancer Sci* 104(10): 1368-1371, 2013(IF:3.479) *
6. Kakugawa T, Yokota S, Ishimatsu Y, Hayashi T, Nakashima S, Hara S, Sakamoto N, Matsuoka Y, Kubota H, Mine M, Mukae H, Nagata K, Kohno S: Serum heat shock protein 47 levels in patients with drug-induced lung disease. *Respir Res* 14: 133, 2013(IF:3.642) *

B 邦文

B-a

1. 太田保之, 三根真理子: 長崎市の原爆被爆者における長期経過後の精神的影響 第2報: 〈被爆者である〉ことの黙秘にみる永続的な苦悩. *精神医学* 55(3): 273-282, 2013
2. 横田賢一, 三根真理子, 柴田義貞: 原爆被爆者健診における肺がん検診の効果. *厚生指針* 60(7): 35-39, 2013
3. 太田保之, 三根真理子, 吉峯悦子: PTSD既往歴者の長期経過後におけるPTSD症状の発現率特性—長崎市の原爆被爆体験者のPTSD有病率調査を通して—. *臨床精神医学* 42(8): 1049-1057, 2013
4. 中根允文, 三根真理子: 精神障害に係るAnti-stigmaの研究 教科書に見るメンタルヘルス教育～中学校・高等学校の教科書における記載を通して～(1950～2002年までの「保健体育」教科書調査から). *日本社会精神医学会雑誌* 22(4): 452-473, 2013

学会発表

A 欧文

A-b-1

1. The 12th International Symposium on Myelodysplastic Syndromes 近藤久義・助教 2013年05月08日 ドイツ

5. 研究活動概要－資料収集保存・解析部

A-b-2

1. MEDINFO 2013 三根真理子・教授 2013年08月20日 デンマーク
2. ERS ANNUAL CONGRESS 2013 三根真理子・教授 2013年09月07日 スペイン

論文数一覧

	A-a	A-b	A-c	A-d	A-e	合計	SCI	B-a	B-b	B-c	B-d	B-e	合計	総計
2013	6	0	0	0	0	6	4	4	0	0	0	0	4	10

学会発表数一覧

	A-a	A-b		合計		B-a	B-b		合計	総計
		シンポジウム	学会				シンポジウム	学会		
2013	0	1	2	3		0	0	9	9	12

論文総数に係る教員生産係数一覧

	欧文論文総数 論文総数	教員生産係数 (欧文論文)		SCI掲載論文数 欧文論文総数	教員生産係数 (SCI掲載論文)
2013	0.600	5		0.400	2

Impact factor 値一覧

	Impact factor	教員当たり Impact factor	論文当たり Impact factor
2013	11.466	11.466	1.147

教育活動（※原研業績集にて掲載。）

氏名・職	職（担当科目）	関係機関名
三根真理子・教授	被ばくと社会	長崎大学教育学部, 経済学部, 薬学部, 水産学部
三根真理子・教授	被ばく者と医療	長崎大学教育学部, 経済学部, 薬学部, 水産学部
三根真理子・教授	原爆医学概論	長崎大学医学部
三根真理子・教授	医学は長崎から	長崎大学医学部
三根真理子・教授	環境因子系	長崎大学医学部
三根真理子・教授	医学統計学	長崎大学医学部
三根真理子・教授	情報と社会	長崎大学教育学部, 経済学部, 薬学部, 水産学部
近藤久義・助教	環境因子系	長崎大学医学部
近藤久義・助教	医学統計学	長崎大学医学部
三根真理子・教授	非常勤講師（保健統計と演習）	長崎県立大学
近藤久義・助教	非常勤講師（数学）	九州医学技術専門学校
近藤久義・助教	非常勤講師（情報処理演習・アプリケーション演習）	活水女子大学

社会活動

氏名・職	委員会等名	関係機関名
三根真理子・教授	科学技術・学術審議会専門委員	文部科学省
三根真理子・教授	歴史資料管理委員会委員	(財)放射線影響研究所
三根真理子・教授	疫学部専門委員	(財)放射線影響研究所
近藤久義・助教	疫学部非常勤研究員	(財)放射線影響研究所

人事事項

放射線生命科学部門

人類遺伝学研究分野（原研遺伝）

2013年5月1日～ 2014年3月31日（有期雇用）宮崎仁美

原爆・ヒバクシャ医療部門

腫瘍・診断病理学研究分野（原研病理）

2013年10月1日～ 新規採用 赤澤祐子（助教）

資料収集保存・解析部

生体材料保存室

2013年10月1日～ 新規採用（有期雇用）松山睦美（助教）

平成25年度原爆後障害医療研究所共同研究一覧

研究課題番号	申請者名	所属	課題*分類	課題名
1	大塚 健介	(一般財団法人) 電力中央研究所原子力技術研究所	(A) (2)	消化管におけるEdU陽性細胞とDNA損傷保持
2	福島 俊彦	福島県立医科大学	(B)	若年者甲状腺がん発症関連遺伝子群の同定と発症機序の解明
3	柴田 淳史	群馬大学	(A) (2)	放射線誘発DNA二本鎖切断を介して生じる欠失・転座発生に繋がるDNA修復経路の解明
4	亀井 康富	京都府立大学	(B)	骨格筋機能をターゲットとしたDNAメチル化制御
5	Ning Song	Shanghai key laboratory of Reproductive Medicine, China	(A) (2)	Sensitivity of ionizing radiation-induced injury on different cells
6	安田 武嗣	放射線医学総合研究所	(A) (2)	非ヒストンタンパク質のアセチル化修飾を介したゲノム障害応答機構
7	江口 晋	長崎大学移植・消化器外科学	(B)	心拍間隔変動パワースペクトル解析による外科手術術者の経時的自律神経評価
8	山之内 孝彰	長崎大学先端医育支援センター	(A) (2)	肝X線照射と再生刺激を用いた脂肪組織由来多能性幹細胞移植による肝代謝性疾患治療の試み
9	平良 文亨	長崎県環境保健研究センター	(A) (1)	福島県川内村における帰村後の外部被ばく評価：積算線量による生活空間の長期変動把握
10	ノレット ケネス	福島県立医科大学	(A) (1)	低線量被ばくの健康影響を解明するための共同研究：スタートアップ開発研究
11	千葉 卓哉	早稲田大学	(A) (2)	酸化ストレスを可視化するマウスおよび細胞をもちいた低線量放射線被曝の影響解析
12	高橋 めい子	京都大学大学院医学研究科附属ゲノム医学センター	(A) (2)	チェルノブイリコホートのExome解析による放射線誘発甲状腺がんの感受性遺伝子の同定
13	井口 茂	長崎大学保健学科専攻	(A) (1)	川内村健康サポーター育成講座に関わる健康増進プログラムの有効性と生活情報ネットワーク構築に関する研究
14	松下 洋輔	長崎大学生命薬科学専攻分子薬理学	(A) (3)	化合物ライブラリーを用いた放射線防護剤創薬スクリーニング
15	中根 秀之	長崎大学精神障害リハビリテーション学分野	(A) (1)	福島県川内村高齢住民における放射線リテラシーと心身健康の実態と実効的なケアの開発
16	野田 朝男	放射線影響研究所	(A) (2)	放射線誘発突然変異の成立過程における、修復が困難なDNA損傷の役割
17	森田 明典	徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部	(A) (3)	P53を標的とした放射線防護剤創薬スクリーニング
18	山内 一己	(公益財団法人) 環境科学技術研究所	(A) (2)	胎児・小児期被ばくによる組織幹細胞におけるDNA障害の蓄積と排除
19	織田 信弥	(独立行政法人) 国立病院機構九州がんセンター	(A) (2)	DNA二重鎖切断修復異常による発がん機構の解明
20	濱本 知之	昭和薬科大学	(A) (2)	メトホルミンによるATM活性化分子メカニズムの解明
21	鈴木 正敏	東北大学加齢医学研究所	(A) (2)	放射線被ばくによる細胞死誘導機構の解明
22	横谷 明德	日本原子力研究開発機構	(A) (2)	放射線被ばくによるエピジェネティクス攪乱機構解明
23	渡辺 立子	日本原子力研究開発機構	(A) (2)	放射線によるクラスター DNA損傷の生成機構とその生物学的影響

7. 平成25年度原爆後障害医療研究所共同研究一覧

研究課題番号	申請者名	所属	課題*分類	課題名
24	山内 基弘	長崎大学先導生命科学講座	(A) (2)	放射線照射による発がん関連染色体再構成の誘導機構の解明
25	今岡 達彦	(独立行政法人)放射線医学総合研究所	(A) (2)	ラット乳腺におけるLRCとDNA損傷保持
26	金澤 伸雄	和歌山県立医科大学	(A) (2)	新規遺伝子変異の関与が疑われる遺伝性免疫異常疾患におけるエキソーム解析と変異遺伝子の機能解析
27	竹中 克也	東京医科歯科大学	(A) (2)	DNA修復に関与する乳癌原因遺伝子産物BRCA分子内領域の同定
28	東嶋 美佐子	長崎大学保健学科専攻	(A) (1)	避難生活が高齢者の食べる機能に及ぼす影響とその予防プログラムの構築に関する研究
29	浦田 秀子	長崎大学保健学科専攻	(A) (1)	川内村の将来を担う子供達の放射線健康不安に関する研究
30	朝比奈 泉	長崎大学顎・口腔再生外科学分野	(A) (2)	口腔癌化学放射線療法の併発障害に対する骨髄由来幹細胞を用いた革新的細胞療法の確立
31	吉田 周平	長崎大学形成外科	(A) (2)	血流・リンパ流障害ラット・マウスモデルでの脂肪幹細胞を用いた微小循環改善実験
32	岩永 正子	東京慈恵会医科大学	(A) (3)	長崎原爆被爆者における骨髄系腫瘍の発症様式別発症率と予後の動向
33	熊谷 敦史	福島県立医科大学	(A) (1)	福島県川内村住民の放射線災害慢性期におけるニーズ検討とリスク認知のありかたに関する研究

*課題分類

(A) (1) : 社会医学研究, (A) (2) : 放射線生命科学研究, (A) (3) : 原爆・ヒバクシャ医療研究, (B) : 自由研究課題

